

# 安宁老师的日语课

## 【0-N1】讲义

N3

# 目录

N3 第 1 课 五山送火会(单词) .....	3
N3 第 2 课 五山送火会(语法) .....	6
N3 第 3 课 五山送火会(课文) .....	9
N3 第 4 课 措辞的方式(单词) .....	10
N3 第 5 课 措辞的方式(语法) .....	12
N3 第 6 课 措辞的方式(课文) .....	16
N3 第 7 课 秋天的收获(单词) .....	17
N3 第 8 课 秋天的收获(语法) .....	20
N3 第 9 课 秋天的收获(课文) .....	24
N3 第 10 课 乡土特产(单词) .....	25
N3 第 11 课 乡土特产(语法) .....	28
N3 第 12 课 乡土特产(课文) .....	32
N3 第 13 课 天空的色彩(单词) .....	33
N3 第 14 课 天空的色彩(语法) .....	36
N3 第 15 课 天空的色彩(课文) .....	40
N3 第 16 课 夏天的颜色(单词) .....	41
N3 第 17 课 夏天的颜色(语法) .....	44
N3 第 18 课 夏天的颜色(课文) .....	48
N3 第 19 课 雁南飞(单词) .....	49
N3 第 20 课 雁南飞(语法) .....	52
N3 第 21 课 雁南飞(课文) .....	55
N3 第 22 课 临考前父母的心情(单词) .....	56
N3 第 23 课 临考前父母的心情(语法) .....	59
N3 第 24 课 临考前父母的心情(课文) .....	62
N3 第 25 课 抹茶甜点(单词) .....	63
N3 第 26 课 抹茶甜点(语法) .....	66
N3 第 26 课 抹茶甜点(课文) .....	70
N3 第 28 课 年夜饭里的冬鮰鱼(单词) .....	71
N3 第 29 课 年夜饭里的冬鮰鱼(语法) .....	74
N3 第 30 课 年夜饭里的冬鮰鱼(课文) .....	77

N3 第 31 课 日本人最爱的章鱼(单词) .....	78
N3 第 32 课 日本人最爱的章鱼(语法) .....	81
N3 第 33 课 日本人最爱的章鱼(课文) .....	84
N3 第 34 课 新米上市(单词) .....	85
N3 第 35 课 新米上市(语法) .....	88
N3 第 36 课 新米上市(课文) .....	91
N3 第 37 课 春天的野餐赏花(单词) .....	92
N3 第 38 课 春天的野餐赏花(语法) .....	95
N3 第 39 课 春天的野餐赏花(课文) .....	98
N3 第 40 课 老人的卧床不起(单词) .....	99
N3 第 41 课 老人的卧床不起(语法) .....	102
N3 第 42 课 老人的卧床不起(课文) .....	105
N3 第 43 课 田间的青蛙(单词) .....	106
N3 第 44 课 田间的青蛙(语法) .....	109
N3 第 45 课 田间的青蛙(课文) .....	113
N3 第 46 课 闭塞时期的颜色(单词) .....	114
N3 第 47 课 闭塞时期的颜色(语法) .....	118
N3 第 48 课 闭塞时期的颜色(课文) .....	121
N3 第 49 课 寺院和壁画上的银朱色(单词) .....	122
N3 第 50 课 寺院和壁画上的银珠色(语法) .....	126
N3 第 51 课 寺院和壁画上的银珠色(课文) .....	130
N3 第 52 课 热乎乎的奶茶(单词) .....	131
N3 第 53 课 热乎乎的奶茶(语法) .....	134
N3 第 54 课 热乎乎的奶茶(课文) .....	136
N3 第 55 课 春眠不觉晓(单词) .....	137
N3 第 56 课 春眠不觉晓(语法) .....	140
N3 第 57 课 春眠不觉晓(课文) .....	143
N3 第 58 课 解释时的发现(单词) .....	144
N3 第 59 课 解释时的发现(语法) .....	147
N3 第 60 课 解释时的发现(课文) .....	149

## N3 第1课 五山送火会(单词)

### 五山の送り火

京都の大文字焼き、五山の送り火は、お盆に訪れた先祖の靈を送る灯火として、八月十六日にともされます。まず「大」の大文字が東山如意ヶ嶽で点火されます。続いて松ヶ崎の西山に「妙」、東山に「法」の字を点火。そして西賀茂船山に船形が、金閣寺大北山に左大文字が、そして最後に嵯峨曼荼羅山に鳥居形がともされます。

京都的大文字点火和五山送火会是作为送走在盂兰盆节来访的先祖的灵而点燃的灯火，在8月16日点燃。首先“大”这个文字在东山如意山点火。接着在松崎西山点燃“妙”、东山点燃“法”。然后在西贺茂船山点燃船型，金阁寺大北山点燃左大文字，最后在嵯峨曼荼罗山点燃鸟居形。



### 单词

- \* 大文字焼き: (0, 名) 大文字点火
- \* 文字: (1, 名) 文字
- \* 文化: (1, 名) 文化
- \* 文章: (1, 名) 文章
- \* 文: (1, 名) 句子
- \* 五山: (1, 名) 五山 (“山”的专有名词用清音)
- \* 送り火: (3, 0, 名) 孟兰盆最后一天的夜里的送神火
- \* 火: (1, 名) 火

\* 日<sup>ひ</sup>: (0, 名) 太阳; 日光; 日子

\* お盆<sup>ぼん</sup>: (2, 名) 孟兰盆

\* お盆休み<sup>ぼんやす</sup>: (4, 名) 孟兰盆休假

\* 訪<sup>おとず</sup>れる: (4, 自下一) 拜访; 到来, 来临. [记]. お(御)+と(ところ→地方)+ずれ(岐啦一声→错位)+る(留)→到某地

\* 訪<sup>たず</sup>ねる: (3, 他下一) 拜访, 访问. [记]. た(他)+ずね(ずれ→ずら→岐啦→错位)+る(留)→去其他地方→拜访

\* 尋<sup>たず</sup>ねる: (3, 他下一) 询问

\* 先祖<sup>せんそ</sup>: (1, 名) 先祖

\* 祖先<sup>そせん</sup>: (1, 名) 祖先

\* 靈<sup>れい</sup>: (1, 名) 灵

\* 幽靈<sup>ゆうれい</sup>: (1, 名) 幽灵

\* 神靈<sup>しんれい</sup>: (0, 名) 神灵

\* 灯火<sup>とうか</sup>: (1, 名) 灯火

\* 点<sup>とも</sup>す/灯<sup>とも</sup>す: (2, 0, 他五) 把~点燃. [记]. とも(共)+す(做)

\* 点<sup>とも</sup>る/灯<sup>とも</sup>る: (2, 0, 自五) 点燃

\* 如意<sup>によい</sup>: (1, 名) 如意棒

\* 欠如<sup>けつじょ</sup>: (1, 自サ) 缺乏(感觉、认识、自知之明等)

\* 自覺<sup>じかく</sup>が欠如<sup>けつじょ</sup>する: (0+1) 缺乏自知之明

\* 如实<sup>にょじつ</sup>に: (0, 1, 副) 如实地

\* 岳<sup>たけ</sup>/嶽<sup>たけ</sup>: (2, 名) 高山. [记]. たけ→たか→高

\* 竹<sup>たけ</sup>: (0, 名) 竹子. [记]. た(多)+け(こ→己→小)→很多小的节→竹

\* 丈<sup>たけ</sup>: (2, 名) 身高; 长短, 尺寸; 全部

\* 点火<sup>てんか</sup>: (0, 名/自サ) 点火

- \* **崎**: (0, 1, 2, 名) 入海处, 入湖处. [记]. 先→前面
- \* **東**: (0, 名) 东. [记]. ひ(日)+が(状态)+し(升)→太阳升起的地方→东
- \* **西**: (0, 名) 西. [记]. にし(なし→无)→太阳没有的地方→日落的地方→西
- \* **茂**る: (2, 自五) 茂盛, 繁茂. [记]. し(枝)+げ(给)+る(留→长)→给很多树枝→茂盛
- \* **生**い**茂**る: (4, 自五) 繁茂, 茂盛. [记]. お(大)+い(入る)+し(枝)+げ(给)+る(留→长)→茂盛
- \* **妙**: (1, 形动) 美妙; 奇怪
- \* **船**: (1, 名) 船. [记]. ふ(风)+根(ね)→帆船
- \* **船形**: (0, 名) 船型
- \* **金閣寺**: (1, 名) 金阁寺(京都市右京区)
- \* **銀閣寺**: (1, 名) 银阁寺(京都市左京区)
- \* **左 大文字**: (6, 名) 金阁寺在右京区西边(地图上看是左侧), 因此成为左大文字。
- \* **左**: (0, 名) 左, 左面. [记]. ひ(日)+だ(达)+り(立)→面向朝阳的南面时, 左手是东→太阳达到的地方→东→左
- \* **右**: (0, 名) 右. [记]. み(身)+き(きた→北)+浊音(拖泥带水→有关)→面向北面时, 右手是东→右
- \* **鳥居形**: (0, 名) 鸟居形状
- \* **鳥**: (0, 名) 鸟; 鸡. [记]. と(跳)+り(立)
- \* **鳥居**: (0, 名) 牌楼
- \* **形**: (0, 名) 形状; 形式. [记]. か(加)+た(多)+ち(地)→很多地方→形
- \* **形見**: (0, 名) 遗物; 纪念物品。青春の形見

## N3 第2课 五山送火会(语法)

### 五山の送り火

京都の大文字焼き、五山の送り火は、お盆に訪れた先祖の靈を送る灯火として、八月十六日にともされます。まず「大」の大文字が東山如意ヶ嶽で点火されます。続いて松ヶ崎の西山に「妙」、東山に「法」の字を点火。そして西賀茂船山に船形が、金閣寺大北山に左大文字が、そして最後に嵯峨曼荼羅山に鳥居形がともされます。

京都的大文字点火和五山送火会是作为送走在盂兰盆节来访的先祖的灵而点燃的灯火，在8月16日点燃。首先“大”这个文字在东山如意山点火。接着在松崎西山点燃“妙”，东山点燃“法”。然后在西贺茂船山点燃船型，金阁寺大北山点燃左大文字，最后在嵯峨曼荼罗山点燃鸟居形。

## 语法

### 1. 作为

～として

- \* 意思：作为。と(引号→为)+して(する→做)
- \* 特点：前后相符合
- \* 接续：名词+

#### 1. わたしは先生として当然の事をしただけです。

- \* 我只是做了作为老师该做的事。
- \* 当然：(0, 名/形动/副)当然

#### 2. 担当者としての責任を果たす。

- \* 作为负责人要负责。
- \* 担当者：(3, 名)负责人
- \* 责任：(0, 名)责任 / 責任をとる(负责)
- \* 役割：(0, 名)职务、任务、职责、作用
- \* 役目：(0, 名)职务、任务、职责、作用
- \* 果たす：(2, 他五)完成，实现。[记]。は(花)+た(多)+す(做)→花多→结果实→完成

### 3. 有名人として言動を慎むべきです。

\* 作为名人应该注意言行。

\* 有名: (0, 形动)有名

\* 有名人: (3, 名)名人

\* 言動: (0, 名)言行

\* 慎む: (3, 他五)谨慎, 小心, 慎重. [记]. つ(次)+つ(次)+し(しん→心)+む(ム→小)→其次小心

\* 謹む: (3, 他五)谨, 谦恭, 有礼貌

～にしては

\* 意思: 作为。に(方向、对象→为)+して(する→做)+は(强调→表示相反)

\* 特点: 前后不符合/是绝不能省略

\* 接续: 名词/动词的基本型+

### 1. 長く日本にいるにしては日本語があまり上手ではない。

\* 在日本呆了很长时间, 但是日语不太好。

### 2. スポーツ選手にしてはきやしゃな体つきだ。

\* 作为运动员, 体格很苗条。

\* 選手: (1, 名)选手

\* 華奢: (0, 名/形动)纤细; 窈窕; 苗条; 精美而柔弱

\* スリム: (1, 形动/slim)细长; 苗条; 瘦长

\* ほっそり: (3, 拟态)纤细; 苗条. [记]. ほ(ほん→本→日本→细长状)+そ(疏松)

\* がっちり: (3, 拟态) (构造、骨骼等)结实; (结实而无疏忽)精明. [记]. がっち(合致→互相一致)

\* 体つき: (0, 名)体格

\* 顔つき: (0, 名)长相

\* 目つき: (1, 名)眼神

### 3. 今年は冬にしては全然寒くない。

\* 今年作为冬天完全不冷。

## 2. 写文章的顺序

まず～。次(次に、次は、続いて、また)～。更に～。最後に～。

\* 读文章的准则：上下打量、左右观看

### 3. 顺接的接续词

- \* そして： (0) (语气正式) (承上启下) 还有，之后
- \* それから： (0) 然后，还有
- \* しかも： (2) 而且。[记]。し(强)+か(加)+も(猛) → 加强 → 而且
- \* かつ： (1) (语气正式) 并且。[记]。か(加)+つ(次)
- \* しかし： (2) 可是。[记]。し(强)+か(加)+し(像) → 加强 → 可
- \* しかしながら： (4) (语气正式) 可是。[记]。し(强)+か(加)+し(像)+ながら(が→但是) → 加强 → 可

## N3 第3课 五山送火会(课文)

### 五山の送り火

京都の大文字焼き、五山の送り火は、お盆に訪れた先祖の靈を送る灯火として、八月十六日にともされます。まず「大」の大文字が東山如意ヶ嶽で点火されます。続いて松ヶ崎の西山に「妙」、東山に「法」の字を点火。そして西賀茂船山に船形が、金閣寺大北山に左大文字が、そして最後に嵯峨曼荼羅山に鳥居形がともされます。

京都的大文字点火和五山送火会是作为送走在盂兰盆节来访的先祖的灵而点燃的灯火，在8月16日点燃。首先“大”这个文字在东山如意山点火。接着在松崎西山点燃“妙”，东山点燃“法”。然后在西贺茂船山点燃船型，金阁寺大北山点燃左大文字，最后在嵯峨曼荼罗山点燃鸟居形。

## N3 第4课 措辞的方式(单词)

ある雑誌を眺めていたら、近頃の中学生や高校生の女の子は自分のことを僕と呼ぶと言う記事が載っていた。実は、私も自分のことを見つけていた。でも、もう高校生でもないのにちょっと恥ずかしい。目上の人の前では注意深く、「私」または「わたし」を使ってはいるが、自分の言葉に熱中してしまうと、つい「僕」と言ってしまい顔が赤くなる。

(中沢けい『風のことば 海の記憶』冬樹社による)

看了一本杂志，上面有一篇文章写着最近的初中和高中的女生称自己时用男性用语的“我”。其实，我也是一名称自己时用男性用语的“我”的女性。我已经不是高中生了，有点儿不好意思。在尊长面前我还是很注意，使用礼貌的“我”或者女性用语的“我”，但是说起话来一高兴，就忍不住用了男性用语的“我”，这时我的脸就会变得通红。

### 单词

\* ある～： (1, 连体) 某～

\* 雜誌： (0, 名) 杂志

\* 雜： (0, 形动) 不拘小节；杂乱无章；糙

\* 眺める： (3, 他下一) 眺望。[记]。なが(長→兆)+め(目)+る(留→长)→目+兆→眺

\* 眺め： (3, 名) 风景，景色

\* 風景： (1, 名) 风景

\* 景觀： (0, 名) 景观

\* 警官： (0, 名) 警官

\* 景色： (0, 名) 景色

\* 色： (2, 名) 色，颜色，色彩。[记]。い(一)+ろ(落)→一个落在脑视觉中枢而产生的感觉→色

\* 色彩： (0, 名) 色彩

\* 彩る： (3, 他五) 着色；装扮；点缀

\* 近頃： (0, 名) 近来

\* 最近： (0, 名/副) 最近

- \* この頃: (0, 名/副) 这些日子
- \* 今時: (0, 名) 现如今
- \* 記事: (1, 名) 报道; 报刊上的文章
- \* 載る: (0, 自五) (装)载; (登)载. [记]. の(な→那→长→乘)+る(留→长)→乘, 载
- \* 載せる: (0, 他下一) 放在上面; 使刊登
- \* 実は: (2, 副) 其实
- \* 本当は: (0, 副) 其实
- \* 実に: (0, 副) 的确
- \* 本当に: (0, 副) 真地
- \* 恥ずかしい: (4, 形) 羞愧的, 耻辱的, 不好意思的. [记]. は(哈→发)+ず(啧)+か(加)+し(像)→发出啧啧的声音→耻辱
- \* 恥: (2, 名) 耻辱, 丢脸. [记]. は(哈→发)+じ(ズ→啧)→发出啧啧的声音→耻辱
- \* 恥をかく: (2+1) 丢脸; 蒙受耻辱
- \* 恥らう: (3, 自五) 羞, (闭月)羞(花). [记]. は(哈→放)+じ(贱)+ら(拉)+う(状态)→耻
- \* 花も恥じらう: (2+3) 闭月羞花
- \* 注意深い: (4, 形) 十分注意的, 小心谨慎的
- \* または: (2, 接续) 或者(在法律条文里大的环节, 用または)
- \* 或いは: (2, 接续) 或者
- \* もしくは: (1, 接续) 或者(在法律条文里如果有更加细致的环节, 用もしくは)
- \* 热中: (0, 名/自サ) 热衷
- \* 夢中: (0, 名/自サ) 忘我, 沉迷
- \* 専念: (0, 名/自サ) 专心
- \* 没頭: (0, 名/自サ) 埋头

## N3 第5课 措辞的方式(语法)

ある雑誌を眺めていたら、近頃の中学生や高校生の女の子は自分のことを僕と呼ぶと言う記事が載っていた。実は、私も自分のことを見つけていた。僕も自分のことを見つけていた。もう高校生でもないのにちょっと恥ずかしい。目上の人の前では注意深く、「私」または「わたし」を使ってはいるが、自分の言葉に熱中してしまうと、つい「僕」と言ってしまう顔が赤くなる。

(中沢けい『風のことば 海の記憶』冬樹社による)

看了一本杂志，上面有一篇文章写着最近的初中和高中的女生称自己时用男性用语的“我”。其实，我也是一名称自己时用男性用语的“我”的女性。我已经不是高中生了，有点儿不好意思。在尊长面前我还是很注意，使用礼貌的“我”或者女性用语的“我”，但是说起话来一高兴，就忍不住用了男性用语的“我”，这时我的脸就会变得通红。

### 语法

#### 1. 举例

～や

- \* 解释: や(か→不确定)
- \* 特点: 不完全性举例
- \* 接续: 名词(+助词)+
- \* 搭配: ～や～など(等)、～や～(任何词+)といった(之类的)
- \* 语气: 正式

～や～など(等)

1. 大臣が来年の終わりごろに東京に加え、広島や長崎などを訪れたいという意向を伝えました。

\* 大臣发表了意向: 明年年末除了东京还想访问广岛和长崎。

\* 大臣: (1, 名)大臣

\* 終わり頃: (4, 副)结束的时候

\* 加える: (3, 0, 他下一)把～加, 加上, 增加. [记]. <(方向)+わ(あ→上)+え(挨)+る(留)→加上

\* 意向: (0, 名)意向

2. フライトやショッピングなどのマイルの積算タイミングはいつですか?

- \* 飞机和购物等里程的累计时间是什么时候?
- \* フライト: (0, 名/flight)飞机
- \* ショッピング: (1, 名/自サ/shopping)购物
- \* マイル: (1, 名/mile)里程

\* 積算: (0, 名/他サ) 累计

\* タイミング: (0, 名/timing) 时间; 时机

～や～といった(之类的)

1. 納豆や寿司といった日本の食べ物を好む外国人が増えてきた。

\* 喜欢纳豆和寿司之类的日本食品的外国人越来越多。

\* 好む: (2, 他五) 喜好. [记]. こ(己)+のむ(飲む→接受)→自己接受→喜好

\* 増える: (2, 自下一) 增加, 增多. [记]. ふ(富)+え(挨)+る(留→长)→增

\* 増やす: (2, 他五) 使增加, 使增多. [记]. ふ(富)+や(养→给)+す(做)→吹起来→增加

2. 鮮魚や肉、野菜といった厳選素材にこだわる。

\* 致力于严格挑选鲜鱼、肉以及蔬菜等食材。

\* 鮮魚: (1, 名) 鲜鱼

\* 厳選: (0, 名/他サ) 严格挑选

\* 素材: (0, 名) 素材, 材料, 食材

\* こだわる: (3, 自五) 拘泥; 讲究. [记]. こ(固)+だ(大)+わ(あ→上)+る(留→长)→拘泥

\* こだわり: (0, 4, 名) 讲究

## 2. 名词的暧昧

～のこと

\* 解释: こと(事情→广泛的特性)

\* 接续: 名词+

\* 注意: 只能用于宾语或小主语

1. 車夫のことを、おせつかいなやつだと思った。

\* 我觉得车夫多管闲事。

\* 車夫: (1, 名) 车夫

\* お節介: (2, 形动) 多管闲事

\* 余計なお世話: (0+2) 多管闲事

\* 奴: (1, 名) (贬义词) 家伙. [记]. や(野)+つ(次)→(贬义词) 家伙

2. みんなは彼のことを努力家だと思っています。

\* 大家都认为他非常努力。

\* 努力家: (0, 名)努力的人

### 3. 彼女のことだから、心配しなくていい。

\* 因为是她，所以不用担心。

\* 心配: (0, 名/他サ)担心

## 3. 完全性转折

～のに

\* 解释: の(名词化)+に(方向→转折)

\* 意思: 完全性转折(虽然～但是～)

\* 特点: 带语气(消极; 惊讶)

\* 接续: 名词/形容动词+な+; 动词/形容词+

\* 注意: 用于句尾时只表示语气。

### 1. 太っていないのに、コレステロール値が高い。

\* 不胖，但是胆固醇高。

\* 太る: (2, 自五) 胖，增多。[记]. ふ(富)+と(态)+る(留→长)→富态→胖

\* 瘦せる: (0, 自下一)瘦。[记]. や(咿呀学语→小)+せ(瑟→轻)+る(留→长)→又小又轻→瘦小

\* コレステロール: (5, 名/cholesterol) 胆固醇

\* 値: (0, 名) 数值；价值。[记]. あたい(当たり)→相当于→数值

### 2. くたびれているのに、何故かぐっすり眠れない。

\* 累得筋疲力尽，但是不知道为什么睡不安稳。

\* 草臥れる: (4, 自下一) 疲劳；穿旧，用旧。[记]. く(草)+た(躺)+び(微)+れ(来)+る(留)→有片草都躺在上面→非常疲劳

\* 何故: (1, 名) 为什么。[记]. な(何)+ぜ(ぞ→よ)

\* 谜: (0, 名) 谜。[记]. な(何)+ぞ(よ)

\* ぐっすり: (3, 拟态) 睡得香甜

## 4. 终于没忍住

ついでしまう

\* 解释: つい(终)+てしまう(无可挽回的语气)

\* 意思: 终于没忍住

\* 特点: 无可挽回的语气

### 1. あまりにもおかしいから、つい吹き出てしまった。

- \* 过于可笑，终于没忍住扑哧一声笑出来。
- \* あまりにも：(3, 副)过于
- \* 吹き出す：(3, 0, 自他五)喷出；扑哧一声笑出来；吹出，吐出

## 2. 体が万事の元と知ってるけど、つい頑張りすぎてしまう。

- \* 虽然知道身体是万事之元，但是还是没忍住太拼命。
- \* 万事：(1, 名)万事
- \* 元：(2, 名)元，根源

### 思わず-てしまう

- \* 解释：思わず(没想)+てしまう(无可挽回的语气)
- \* 意思：没考虑
- \* 特点：无可挽回的语气

## 1. 美しい景色に思わず引き込まれてしまう。

- \* 不由得被美景吸引。
- \* 引き込む：(3, 他五)拉进来；深深吸引

## 2. しつこい人を思わず敬遠してしまう。

- \* 不由得对那些矫情的人敬而远之。
- \* しつこい：(3, 形)浓艳的，浓重的；执拗的，矫情的
- \* 敬遠：(0, 名/他サ)敬而远之

## N3 第6课 措辞的方式(课文)

ある雑誌を眺めていたら、近頃の中学生や高校生の女の子は自分のことを僕と呼ぶと言う記事が載っていた。実は、私も自分を僕と呼ぶひとりだ。もう高校生でもないのにちょっと恥ずかしい。目上の人前では注意深く、「私」または「あたし」を使ってはいるが、自分の言葉に熱中してしまうと、つい「僕」と言ってしまい顔が赤くなる。

(中沢けい『風のことば 海の記憶』冬樹社による)

看了一本杂志，上面有一篇文章写着最近的初中和高中的女生称自己时用男性用语的“我”。其实，我也是一名称自己时用男性用语的“我”的女性。我已经不是高中生了，有点儿不好意思。在尊长面前我还是很注意，使用礼貌的“我”或者女性用语的“我”，但是说起话来一高兴，就忍不住用了男性用语的“我”，这时我的脸就会变得通红。

## N3 第7课 秋天的收获(单词)

うだるような暑さが去り、過ごしやすい日々がつづくようになると「実りの秋」が到来します。  
古くからこの「実り」に関しては、さまざまのことわざが伝えられてきました。「桃栗三年、柿八年」  
しかし、「実るほど頭を垂れる稻穂かな」しかし。努力と忍耐、謙虚な姿勢の大切さを「秋」は作物  
を通して教えてくれます。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

闷热散去，每天都是舒服的日子，“硕果累累的秋天”来临。自古至今关于“收获”传颂着各种各样的谚语。“桃栗三年柿子八年”（比喻不到时间就办不成），“粒满穗垂”（越成熟越谦虚）。“秋天”通过农作物教会了人们努力和忍耐还有谦虚的姿态的重要性。

### 单词

- \* うだる: (2, 自五) 热得浑身无力
- \* うだるような暑さ: 浑身无力的闷热
- \* 去る: (1, 自他五) 离去；消失；时间流逝。[记]。さ(そ→其)+る(留→长)→往其他方向→离去
- \* 日々: (1, 名/副) 天天、每天
- \* 続く: (0, 自五) 继续，接续。[记]。つ(次)+つ(次)+浊音(拖泥带水→有关)+く(方向)→一次一次有关→继续
- \* 続ける: (0, 他下一) 使继续
- \* 実り: (0, 名) 果实、收获
- \* 実る: (2, 自五) (开花)结果；成熟；有成绩，有成果。[记]。み(実)+の(な→长)+る(留→长)→果实长
- \* 秋: (1, 名) 秋天。[记]。あ(明)+き(氣)→明亮的感觉→秋高气爽→秋天
- \* 空く: (0, 自五) 空着，闲着，有空隙。[记]。あ(明)+く(方向)→明，空，开
- \* 空く: (0, 自五) 空。[记]。す(丝→轻)+く(方向)→空
- \* 到来: (0, 名/自サ) 到来
- \* 古くから: (1, 名/副) 自古以来

- \* 昔: (0, 名/副) 往昔、过去
- \* 古: (0, 名) 古时、往昔. [记]. い(行く)+に(方向)+し(昔)+え(へ→方向)
- \* これから: (0, 名/副) 今后、从此
- \* 将来: (1, 名/副) 将来
- \* 行く行くは: (0, 副) 将来
- \* 様々: (2, 名/副) 各种各样
- \* 謠: (0, 名) 谚语. [记]. こと(言)+わざ(技)→语言的技术→谚语
- \* 技/業: (2, 名) 技能，技术/行为；工作. [记]. わ(あ→上→上等)+ざ(杂)→技
- \* 桃: (0, 名) 桃子
- \* 栗: (0, 名) 栗子
- \* 柿: (0, 名) 柿子. [记]. か(加)+き(木)→木+加(市)→柿
- \* 然り: (2, 古语自动词) 那样
- \* 然る而: (2, 接) 然而
- \* 頭: (3, 2, 名) 头，脑袋. [记]. た(太)+ま(满→圆)→特圆→球。あ(上)+たま(球)→上边的球→头
- \* 頭: (0, 3, 名) 头、脑袋. [记]. こ(か→加)+う(字)+べ(边)→最上边→头
- \* 頭: (0, 名) 头部；首领；(前接名词变成浊音) 刚刚～的时候(出会いの頭). [记]. か(加)+し(强)+ら(拉)→头
- \* かつら: (0, 名) 假发. [记]. か(髮)+つら(連なる)→连着头发→假发
- \* 垂れる: (2, 自他下一) 垂拉，下垂，悬垂. [记]. た(躺)+れ(来)+る(留→长)→躺下来→垂
- \* 垂らす: (2, 他五) 使垂下. [记]. た(躺)+ら(拉)+す(做)→垂
- \* 汗水を垂らす: (2+2) 流汗；汗流浃背地工作
- \* 汗: (1, 名) 汗. [记]. あ(上)+せ(す→すい→水)→出来的水→汗
- \* 汗をかく: (1+1) 出汗
- \* 稲: (1, 名) 稻子. [记]. い(一个)+ね(根)→一根→稻子

- \* 穂: (1, 名)穗. [记]. ほ(本→细长物)
- \* 稻穂: (0, 名)稻穂
- \* 稻妻: (0, 名)闪电. [记]. つま→づま→ずま
- \* 努力: (1, 名/自他サ)努力
- \* 忍耐: (1, 名/他サ)忍耐
- \* 忍耐力: (3, 名)忍耐力
- \* 我慢: (1, 名/自他サ)忍耐
- \* 耐える: (2, 自下一)忍耐, 承受, 经得住. [记]. た(他)+え(挨)+る(留→长)→顺着它→忍耐
- \* 谦虚: (1, 形动)谦虚
- \* 姿勢: (0, 名)姿势; 姿态
- \* 作物: (0, 名)农作物
- \* 農作物: (4, 名)农作物
- \* 禁物: (0, 名)禁忌
- \* タブー: (1, 名/taboo)禁忌

## N3 第8课 秋天的收获(语法)

うだるような暑さが去り、過ごしやすい日々がつづくようになると「実りの秋」が到来します。古くからこの「実り」に関しては、さまざまのことわざが伝えられてきました。「桃栗三年、柿八年」しかし、「実るほど頭を垂れる稻穂かな」しかし。努力と忍耐、謙虚な姿勢の大切さを「秋」は作物を通して教えてくれます。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

闷热散去，每天都是舒服的日子，“硕果累累的秋天”来临。自古至今关于“收获”传颂着各种各样的谚语。“桃栗三年柿子八年”（比喻不到时间就办不成），“粒满穗垂”（越成熟越谦虚）。“秋天”通过农作物教会了人们努力和忍耐还有谦虚的姿态的重要性。

### 语法

#### 1. 容易/难

—やすい

- \* 解释: -やすい (容易的)
- \* 接续: 动词的连用形+

—にくい

- \* 解释: -にくい (难的)
- \* 接续: 动词的连用形+

—づらい

- \* 解释: -づらい (难的)
- \* 特点: 心理痛苦
- \* 接续: 动词的连用形+

#### 1. わかりやすい言葉で説明するのが大事です。

- \* 用通俗易懂的语言解释很重要。

#### 2. 扱いにくい人のいい面を探す。

- \* 寻找难对付（难接触、难相处）的人的好的一面。
- \* 扱う: (0, 3, 他五)对待；处理；使用，操作；经营，管理。[记]。あ(上→上等)+つかう(使う)

- \* 探す: (0, 2, 他五) 找, 寻找. [记]. さ(搜)+が(状态)+す(做)→找
- \* 探る: (0, 2, 他五) 探, 试探; 调查; 探访. [记]. さ(搜)+ぐる(轱辘)→来回搜索→探

### 3. 人付き合いに不慣れで職場に居づらいです。

- \* 因为不擅长与人打交道, 所以在工作岗位上待着不舒服(不自在)。
- \* 人付き合い: (3, 名) 与人交往, 与人打交道
- \* 不慣れ: (2, 名/形动) 不习惯, 不熟悉
- \* 职場: (0, 名) 工作的地方, 工作岗位

## 2. 关于

### ～について

- \* 解释: に(方向、対象)+<sup>かん</sup>関する→关于
  - \* 接续: 名词+; ～に<sup>かん</sup>関する+名词
- ～について
- \* 解释: に(方向、対象)+ついて(就く)→就～进行～/关于
  - \* 接续: 名词+; ～についての+名词

### 1. パソコンの使い方に関して、質問のある方は、私のところまでどうぞ。

- \* 关于电脑的使用方法, 有问题的请来我这里。
- \* 方: (1, 名) 人的敬语

### 2. 高齢社会対策に関する調査を行いました。

- \* 对如何应对高龄化社会进行了调查。
- \* 高齢: (0, 名) 高龄
- \* 高齢化: (0, 名) 高龄化
- \* 対策: (0, 名) 対策/対策を採る
- \* 調査: (1, 名/他サ) 调查
- \* 行う: (0, 他五) 举行, 实行. [记]. おこ(起くる→发生)+な(那)+う(状态)→使发生→举行

### 3. 少子化対策について調査を行いました。

\* 对如何应对少子化进行了调查。

\* 少子化: (0, 名) 少子化

### 4. 英語の論文の構成と書き方について詳しくご説明します。

\* 我详细说明一下英语论文的构成和写法。

\* 構成: (0, 名/他サ) 构成

\* 詳しい: (3, 形) 详细的, 细致的

### 3. 通过

～を通して

\* 解释: を(助词)+通す(通过)

\* 意思: 通过

\* 特点: 更加贯穿

\* 接续: 名词+; ～を通しての+名词

～を通じて

\* 解释: を(助词)+通じる(通过)

\* 意思: 通过

\* 接续: 名词+; ～を通じての+名词

### 1. 五日間を通しての会議で、様々な意見が交換された。

\* 通过五天的会议, 交换了不同意见。

\* 意見: (1, 名) 意见

\* 交換: (0, 名/他サ) 交换; (退) 换货

### 2. 園内の木々や草花を1年を通して楽しむことができる。

\* 园内的树木花草可以在整个一年里欣赏。

\* 園内: (1, 名) 园内

\* 木々: (1, 名) 树木

\* 草花: (2, 名) 花草

\* 楽しむ: (2, 他五) 享受; 喜欢; 期待

### 3. 佐藤さんご夫妻は、田中さんを通じて知り合いました。

\* 佐藤夫妇是通过田中相识的。

\* 夫妻: (2, 1, 名) 夫妻

\* 夫婦: (1, 名) 夫妇

### 4. アルバイトを通じて、お金を稼ぐことの大変さがわかりました。

\* 通过打工知道了挣钱的辛苦。

\* 稼ぐ: (2, 自他五) 挣钱. [记]. か(稼)+せ(塞)+く(方向)+浊音(拖泥带水→有关)→储存粮食→挣钱

\* 儲ける: (3, 他下一) 赚钱. [记]. も(もの→物)+うける(受ける)→接受东西→赚钱

\* 儲かる: (3, 自五) 赚到钱

\* 大変さ: (5, 名) 不容易, 辛苦

## N3 第9课 秋天的收获(课文)

うだるような暑さが去り、過ごしやすい日々がつづくようになると「実りの秋」が到来します。古くからこの「実り」に関しては、さまざまのことわざが伝えられてきました。「桃栗三年、柿八年」しかし、「実るほど頭を垂れる稻穂かな」しかし。努力と忍耐、謙虚な姿勢の大切さを「秋」は作物を通して教えてくれます。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

闷热散去，每天都是舒服的日子，“硕果累累的秋天”来临。自古至今关于“收获”传颂着各种各样的谚语。“桃栗三年柿子八年”（比喻不到时间就办不成），“粒满穗垂”（越成熟越谦虚）。“秋天”通过农作物教会了人们努力和忍耐还有谦虚的姿态的重要性。

## N3 第 10 课 乡土特产(单词)

### 飞魚

波の間を飛び跳ねる飛魚。「春とび」と呼ばれるハマトビウオをはじめ、春から夏にかけてが旬です。そのままでおいしい上に、煮干しとしても美味で、長崎や島根産のあごだしは絶品です。

この旨味、やみつき あごだし(飛魚のだし汁)

適当に割った飛魚と昆布を鍋に入れ、水を注いで一時間以上漬けます。鍋を火にかけてゆく  
り温度を上げ、沸騰寸前に火を止めて、漉します。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

在波浪间跳跃的飞鱼。以称作“春天飞鱼”的羽须唇飞鱼为首，春天到夏天是其味道最好的时期。生吃也很好吃，煮鱼干也很美味，还有长崎和岛根产的飞鱼汤汁也是绝品佳肴。

着迷如此美味——飞鱼的鲜汤汁

把随意敲碎的飞鱼和海带放入锅中，注入凉水后泡一个小时以上。把锅放在火上慢慢加热，在沸腾之前关火，然后过滤。

### 单词

\* 波: (2, 名) 波, 波浪. [记]. な(那→长)+み(みず→水)→长水→波

\* 波浪: (0, 名) 波浪、波涛

\* 飞び跳ねる: (4, 自下一) 跳跃

\* 跳ねる: (2, 自下一) 跳 (加热后) 飞溅 (胡子等) 上翘 (行情) 飞涨 淘汰. [记]. は(哈→放)+ね(凝)+る(留→长)→使劲放→弹

\* 跳ねられる: くるま は 车に跳ねられる/被车撞

\* 飞ぶ/跳ぶ/翔ぶ: (0, 自五) 飞. [记]. と(跳)+ぶ(蹦)

\* 鱼: (0, 2, 名) 鱼. [记]. う(吴音的鱼)+お(御)→鱼

\* 旬: (1, 0, 名) 时令, 最好的时候

\* 初旬: (0, 名) 初旬

\* 上旬: (0, 名) 上旬

- \* 中旬: (0, 名) 中旬
- \* 下旬: (0, 名) 下旬
- \* 煮る: (0, 他上一) (焖, 烩) 煮, 盖盖子煮. [记]. に(凝)+る(留→长)→燻
- \* 干す: (1, 他五) 晾, 晒; 干(杯) [记]. ほ(火)+す(做)→在火边→晒, 晾
- \* 煮干し: (0, 名) 煮的鱼干
- \* 梅干し: (0, 名) 梅干
- \* 美味: (1, 名/形动) 美味
- \* 長崎: (0, 名) 长崎
- \* 島根: (0, 名) 岛根
- \* あご: (2, 名) 飞鱼的别名
- \* 頸: (2, 名) 下巴. [记]. あ(上)+こ(地方)+浊音(拖泥带水→有关)→胴体上面突出的地方→下巴
- \* だし: (2, 名) 高汤
- \* だし汁: (0, 名) 高汤
- \* 絶品: (0, 名) 绝世珍品
- \* 逸品: (0, 名) 逸品
- \* 旨味: (0, 3, 名) 美味; 出色
- \* 病み付き: (0, 名) 患病; 入迷, 迷上, 成瘾
- \* 適当: (0, 名/形动/自サ) 适当; 随意
- \* いい加減: (0, 形动) 适可而止; 不靠谱、敷衍了事; 相当
- \* 火加減: (2, 名) 火的大小
- \* 湯加減: (2, 名) 水的温度
- \* 塩加減: (2, 名) 咸淡
- \* 割る: (0, 他五) 打碎; 分割; 除法; 稀释. [记]. わ(完)+る(留→长)→让其完→割
- \* 割れる: (0, 自下一) 碎; 分离; 裂开; 暴露. [记]. わ(完)+れ(来)+る(留→长)→让其完→碎

- \* 昆布: <sup>こんぶ</sup> (1, 名) 海带
- \* 鍋: <sup>なべ</sup> (1, 名) 锅, 火锅. [记]. な(那→长)+べ(柄) → 附带把手的东西→锅
- \* 入れる: (3, 0, 他下一) 把~(装, 放, 加, 填) 入. [记]. い(一)+れ(来)+る(留) → 一直留在一个方向→入
- \* 入る: <sup>はい</sup> (1, 自五) 进入. [记]. は(哈→放)+いる(入る) → 进入
- \* 入る: (0, 自五) (古语) 入. [记]. い(一)+る(留) → 一直留在一个方向→入
- \* 気に入る: <sup>きい</sup> (0+0) 中意
- \* お気に入り: (0, 名) 中意, 喜欢; 收藏夹
- \* 水: <sup>みず</sup> (0, 名) 凉水. [记]. み(ミ→氵→水)+す(すい→「水」的音读)+浊音(拖泥带水→水) → 水
- \* お湯: <sup>おゆ</sup> (0, 名) 热水
- \* 白湯: <sup>さゆ</sup> (1, 2, 名) 白开水
- \* 注ぐ: <sup>そそ</sup> (0, 2, 自他五) 注入; 浇灌; 集中. [记]. そ(其)+そ(其)+く(方向)+浊音(拖泥带水) → 往那加水→注入
- \* 温度: <sup>おんど</sup> (1, 名) 温度
- \* 湿度: <sup>しつど</sup> (1, 名) 湿度
- \* 湿气: <sup>しつけ</sup> (0, 名) 湿气
- \* 沸騰: <sup>ふつとう</sup> (0, 名/自サ) 沸腾
- \* -寸前: <sup>すんぜん</sup> (0, 3, 名) 临近
- \* 濾す: <sup>ろす</sup> (0, 1, 他五) 过滤. [记]. ク(ク→过)+す(做) → 过滤

## N3 第 11 课 乡土特产(语法)

### 飞魚

波の間を飛び跳ねる飛魚。「春とび」と呼ばれるハマトビウオをはじめ、春から夏にかけてが旬です。そのままでおいしい上に、煮干しとしても美味で、長崎や島根産のあごだしは絶品です。

この旨味、やみつき あごだし(飛魚のだし汁)

適当に割った飛魚と昆布を鍋に入れ、水を注いで一時間以上漬けます。鍋を火にかけてゆっくり温度を上げ、沸騰寸前に火を止めて、漉します。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

在波浪间跳跃的飞鱼。以称作“春天飞鱼”的羽须唇飞鱼为首，春天到夏天是其味道最好的时期。生吃也很好吃，煮鱼干也很美味，还有长崎和岛根产的飞鱼汤汁也是绝品佳肴。

着迷如此美味——飞鱼的鲜汤汁

把随意敲碎的飞鱼和海带放入锅中，注入凉水后泡一个小时以上。把锅放在火上慢慢加热，在沸腾之前关火，然后过滤。

### 语法

#### 1. 以～为首

～をはじめ、

\* 解释：を(把)+はじめ/始め(首/初始)→以～为首

\* 接续：名词+

～をはじめとして

\* 解释：を(把)+はじめ/始め(首/初始)→以～为首

\* 接续：～を～に(と)する→把～当成～

\* 接续：名词+

1. 今回の論文執筆で、山田先生をはじめ、多くの方々にお世話になり、心より感謝しております。

\* 这次论文受到了山田老师和其他很多人的关照，衷心感谢。

\* 執筆：(0, 名/他サ) 执笔，撰写

\* 多く：(1, 副/名) 很多(语气正式)

\* 方々：(2, 名) 人们(敬语)

\* 感謝: (1, 名/他サ) 感谢

## 2. 彼は茶道をはじめ、生け花や書道などの伝統的なことに興味があります。

\* 他对传统的事情比如茶道、插花和书法有兴趣。

\* 茶道: (1, 名) 茶道

\* 書道: (1, 名) 书法

\* 生け花: (2, 名) 插花

\* 生ける: (2, 他下一) 插花; 养鱼. [记]. いけ(いき→息)+る(留→长)→一直呼吸→活

\* 伝統: (0, 名) 传统

\* 伝統的: (0, 形动) 传统的

## 3. 人は対人関係をはじめ、様々なものからストレスを受ける。

\* 人会因为各种各样的东西产生心理压力，首先就是与人打交道。

\* 対人関係: (5, 名) 与人交往

\* ストレス: (2, 名/stress) 心理压力

\* ストレスが溜まる: (2+0) 心理压力重，堆积心理压力

\* ストレスを解消する: (2+0) 释放心理压力

\* 受ける: (2, 自他下一) 受(到)，(接)受，受(欢迎). [记]. う(字)+け(く→方向)+る(留→长)→从天上来→接受

\* 受かる: (2, 自五) 考上，合格. [记]. う(字)+か(加)+る(留→长)→从天上来→接受

## 2. 从～到～

～から～にかけて

\* 解释: から(从)+に(方向)+かける(大面积地覆盖)→从～到～整个(一直)

\* 接续: 名词+

## 1. 北海道から九州にかけて晴れて暑くなるでしょう。

\* 从北海道到九州是晴天会变得很热吧。

\* 北海道: (2, 名) 北海道

\* 九州: (1, 名) 九州

\* 晴れる: (2, 自下一)晴; 心情舒畅; 消除疑惑. [记]. は(哈→放)+れ(来)+る(留→长)→放晴

\* 肿れる: (0, 自下一)肿胀. [记]. は(哈→放)+れ(来)+る(留→长)→放出→肿胀

## 2. 明日は昼から夜にかけて大雨になるそうです。

\* 据说明天从中午到晚上有大雨。

\* 昼: (2, 名)白天; 中午[记]. ひ(日)+る(留→长)→太阳长→中午

\* お昼: (2, 名/副)中午; 午饭. [记]. お(御)+ひ(日)+り(る→留→长)→太阳长→中午

\* 昼間: (3, 名/副)白天

\* 大雨: (3, 名)大雨

\* 小雨: (0, 名)小雨

## 3. 関東地方では、木曜日から週末にかけて、雨が続く見込みです。

\* 关东地区预计从周四到周末都有雨。

\* 関東地方: (5, 名) (以东京为中心的六个县茨城、栃木、群马、埼玉、千葉、神奈川的)关东地区

\* 週末: (0, 名/副)周末

\* 見込み: (0, 名)可能性, 希望. [记]. こ(ご→过)+み(む→闷)→入。見+込む(非常; 使劲)→使劲看→估计→有可能

## 3. 在~之上

～上に

\* 解释: 上+に(方向)→在~之上→表示累加

\* 接续: 修饰名词的方式+

## 1. 親しい間柄でない上に、店員と客という立場の違いがある。

\* 不仅不是亲近关系的差别, 还有店员和顾客的立场的不同。

\* 親しい: (3, 形)亲密的, 熟悉的. [记]. し(しん→親)+た(多)+し(像)→亲

\* 間柄: (0, 名)关系

\* 間: (0, 名)之间

\* 柄: (0, 名)花样; 样子; 人品. [记]. がら(からだ→体)→体系→花样

\* 立場: (1, 名) 立场

\* 違い: (0, 名) 不同, 不是. [记]. ち(其)+が(状态)+う(ふ→状态)→其他的状态→不同

## 2. 遅刻した上に、宿題も忘れた。

\* 不仅迟到, 还忘了带作业。

\* 遅刻: (0, 名/自サ) 迟到

\* 宿題: (0, 名) 作业

## 3. 工事の上に、事故まで起きて、道は大変混んでいます。

\* 不仅施工还发生了事故, 路非常堵。

\* 工事: (1, 名/他サ) 施工

\* 事故: (1, 名) 事故

\* 起きる: (2, 自上一) 起, 起床; 发生. [记]. お(御)+き(起)+る(留→长)→起来

\* 起こる: (2, 自五) 起, 发生. [记]. お(御)+こ(き→起)+る(留→长)→发生

\* 起こす: (2, 他五) 让～起来, (引)起, (唤)起. [记]. お(御)+こ(き→起)+す(做)→使发生

\* 混む: (1, 自五) 混杂, 拥挤. [记]. こ(己→小)+む(闷)→拥挤

## N3 第 12 課 乡土特产(课文)

### 飞魚

波の間を飛び跳ねる飛魚。「春とび」と呼ばれるハマトビウオをはじめ、春から夏にかけてが旬です。そのままでおいしい上に、煮干しとしても美味で、長崎や島根産のあごだしは絶品です。

この旨味、やみつき あごだし(飛魚のだし汁)  
適当に割った飛魚と昆布を鍋に入れ、水を注いで一時間以上漬けます。鍋を火にかけてゆく  
り温度を上げ、沸騰寸前に火を止めて、漉します。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

在波浪间跳跃的飞鱼。以称作“春天飞鱼”的羽须唇飞鱼为首，春天到夏天是其味道最好的时期。生吃也很好吃，煮鱼干也很美味，还有长崎和岛根产的飞鱼汤汁也是绝品佳肴。

着迷如此美味——飞鱼的鲜汤汁

把随意敲碎的飞鱼和海带放入锅中，注入凉水后泡一个小时以上。把锅放在火上慢慢加热，在沸腾之前关火，然后过滤。

## N3 第 13 课 天空的色彩(单词)

### 空色

#### 空色の由来

晴れた日の空の色のような、明るい青色をあらわします。平安時代から使われている古い色名で、「空天色」や「碧天」といった、美しい別名ももっています。日本の伝統色には、気象や天体に関連した色名が多くはありません。そういった意味では珍しい色名といえるでしょう。忙しい毎日に追われていると、空を見上げることも忘れてしまいがちです。晴れわたる夏空の澄んだ空色に、元気をもらいましょう。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

#### 天空颜色的由来

空色是晴朗的天空的颜色，也就是明亮的蓝色。这是从平安时代开始就使用的古老的颜色名称，还有“天空色”或是“碧天”等美丽的别名。在日本的传统颜色当中，与气象和天体等有关的颜色名称不多。从这种意思上来看，可以说是少见的名字。如果每天都很忙碌，就会忘记仰望天空。晴空万里的夏天的天空，从它那清澈的颜色里获取元气吧。

### 单词

\* 空色: (0, 名)天空的颜色；天蓝色；天空的状态

\* 空模様: (3, 名)天空的状态

\* 空: (1, 名)天空；远离之地；不稳定的心情；背诵；虚假. [记]. そ(其→其他)+ら(拉)→那边→远的地方→天空

\* 空/殻: (2, 名)空/壳，外壳. [记]. から(渴啦)→干渴的→空

\* 由来: (0, 名)由来

\* 理由: (0, 名)理由

\* 明るい: (0, 3, 形)明亮的；开朗的. [记]. あ(明)+か(火)+る(留→长)→明亮

\* 明るさ: (3, 名)明亮；开朗

\* 明らか: (2, 形动)明显，显然. [记]. あ(明)+き(氣)+ら(拉)+か(加)→明的感觉→明

\* 明かり: (0, 名)光亮，灯光

- \* 明かす: (0, 2, 他五)挑明; 证明; 通宵. [记]. あ(明)+か(加)+す(做)→明
- \* 表す: (3, 他五)表(现, 示, 达). [记]. あら(有る)+わ(あ→上)+す(做)→使其出来→表达出
- \* 現す/顯す: (3, 他五)让~显现, 体现, 出现
- \* 姿: (1, 名)样子; 姿势; 外观; 身影. [记]. す(姿)+がた(型)→姿势
- \* 姿を現す: (1+3)出现, 现形, 露面
- \* 現れる/顯れる: (3, 自下一)表现, 体现; 显露
- \* 表れる: (3, 自下一)表现, 表示, 代表. [记]. あら(有る)+わ(あ→上)+れ(来)+る(留→长)→出来→现
- \* 露/顯: (1, 0, 形动)显露, 暴露; 公开
- \* 色名: (0, 名)颜色的名称
- \* 碧天: (0, 名)碧空
- \* 别名: (0, 名)别名
- \* あだ名: (0, 2, 名)绰号, 外号
- \* ニックネーム: (4, 名/nickname) 绰号, 外号; 爱称
- \* 気象: (0, 名)气象
- \* 気象庁によりますと: (2, 名)气象厅; 据气象厅预测
- \* 天体: (0, 名)天体
- \* 関連: (0, 名/自サ)关联
- \* 意味: (1, 名)意思
- \* 意味合い: (0, 3, 名)含义/どういう意味ですか
- \* 追う: (0, 他五)追, 追赶, 轰走, 驱赶. [记]. お(根据嘴型→圆→驼背→后背)+う(状态)→追
- \* ~に追われる: 被~追赶; 忙于~
- \* 負う: (0, 他五)背负, 担负; 多亏. [记]. お(根据嘴型→圆→驼背→后背)+う(状态)→负
- \* 覆う: (0, 2, 他五)盖上, 覆盖, 遮盖. [记]. お(根据嘴型→圆→驼背→后背)+お(同左)+う(状态)→背负→盖上

\* 雪に覆われる: (2+4) 被雪覆盖

\* 見上げる: (0, 3, 他下一) 向上看; 仰望

\* 仰ぐ: (2, 他五) 仰视, 仰慕, 仰仗. [记]. あお(青→蓝天→上)+く(方向)+浊音(拖泥带水→有关)  
→向上→仰

\* 仰向けになる: (0) 仰着躺

\* 見下ろす: (3, 0, 他五) 从上往下看; 小看, 轻视. [记]. 見(看; 抽象语气)+下す→从上往下看

\* 見下す: (3, 0, 他五) 小看, 轻视

\* 晴れ渡る: (4, 0, 自五) 晴空万里

\* 澄む: (1, 自五) 清澈

\* 澄み渡る: (4, 0, 自五) 晴空万里; 水清澈; 心情清爽

## N3 第 14 课 天空的色彩(语法)

### そらいろ 空色

#### そらいろ ゆらい 空色の由来

は 晴れた日の空の色のような、明るい青色をあらわします。平安時代から使われている古い色名  
で、「空天色」や「碧天」といった、美しい別名ももっています。日本の伝統色には、気象や天体に  
関連した色名が多くはありません。そういう意味では珍しい色名といえるでしょう。忙しい  
毎日に追われていると、空を見上げることも忘れてしまいがちです。晴れわたる夏空の澄んだ空色  
に、元気をもらいましょう。

更多好课加星哥唯一微信36903863

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 天空颜色的由来

表示的是晴朗的日子天空的颜色般的明亮的蓝色。这是从平安时代开始就使用的古老的颜色名称，还有“天空色”或是“碧天”等美丽的别名。在日本的传统颜色当中，与气象和天体等有关的颜色名称不多。从这种意思上来看，可以说是少见的名字。如果每天都很忙碌，就会忘记仰望天空。晴空万里的夏天的天空，从它那清澈的颜色里获取元气吧。

## 语法

### 1. 列举

～や～といった(之类的) 第5课

～といった(之类的)/～という的区别

\* 解释：といった+名词/という+名词

\* 区别：名词+といった+名词：列举

名词+と言う+名词：叫做

名词+という+名词：强调

句子+という+名词：连接

1. 今からおよそ300年前に植えられたという「三百年の松」も見ものです。

\* 迄今大约300年前种植的“三百年的松树”也是看点。

\* よそ：(0,副)大致，大体上。[记] お(大)+よ(悠)+そ(其)→来回悠→大致好

\* うえ：(3,0,他下一)种植。[记] うえ(上面)+る(留→长)→一直向上长→种植

\* 松：(1,名)松树

\* 見もの：(3,名)值得看的东西

## 2. 豊かな自然を満喫できる大人の庭園といった感じです。

\* 这是一个能够让人充分享受富饶的大自然，感觉是成年人的庭园。

\* 豊か: (1, 形动) 富裕，丰富。[记]. ゆ(裕)+た(多)+か(加)→丰

\* 自然: (0, 名/形动) 大自然；自然

\* 満喫: (0, 名/他サ) 充分地吃喝玩乐；充分享受

\* 大人: (0, 名) 成人，大人。[记]. お(大)+と(ひと→人)+な(成る→是)→大人

\* 庭園: (0, 名) 庭园

\* 感じ: (0, 名) (由于外界刺激引发的) 感觉

\* 感じる: (0, 他上一) (由于外界刺激引发的) 感到

## 3. 「中国陶磁名品展」といった展览会を行い、中国文化の普及に一役買っている。

\* 举办“中国陶瓷名品展”之类的展览会，为普及中国文化助一臂之力。

\* 陶器: (1, 名) 陶器

\* 磁器: (1, 名) 瓷器

\* 名品展: (0, 名) 名品展

\* 展览会: (3, 名) 展览会

\* 行う: (0, 他五) 举行，举办

\* 中国文化: (5, 名) 中国文化

\* 普及: (0, 名/自サ) 普及

\* 一役買う: (2+0) 助一臂之力

## 4. アーチは職人による手作りで、噴水広場では英國産のヨークストンが使われているといった具

合です。

\* 是这样的：拱门是手艺人的手工制作，喷水广场使用着英国产的蛋黄石。

\* アーチ: (1, 名/arch) 拱形，弧形，拱门

\* 职人: (0, 名) 手艺人，工匠；(比喻) 行家

\* 手作り: (2, 名)手工制作

\* 噴水: (0, 名)喷水; 喷泉

\* 広場: (1, 名)广场

\* 噴水広場: (5, 名)喷水广场

\* ヨークストン: (5, 名/yolk stone)蛋黄石

\* 具合: (0, 名)情况; 健康状况

## 5. 門を潜ると、通路の床がいつの間にか壁面になっているといった経験をする。

\* 会有这种经历: 穿过大门, 通道的地面不知何时成了墙壁。

\* 門: (1, 名)大门

\* 潜る: (2, 自五)穿过(门); 潜(水); 钻(空子). [记]. <(方向)+<(方向)+浊音(拖泥带水→水)+る(留→长)→进入到水里

\* 潜る: (2, 自五)钻入, 潜入; 藏起来; 钻到(下面). [记]. も(猫→猫腰)+<(方向)+浊音(拖泥带水→水)+る(留→长)→潜

\* 通路: (1, 名)通道

\* 床: (0, 名)地板. [记]. ゆ(裕)+か(加)→架高的地方→地板

\* いつの間にか: (4, 副)不知道什么时候

\* 壁面: (0, 3, 名)墙面

\* 壁: (0, 名)墙, 墙壁. [记]. か(加)+べ(边)→添加一边→墙

\* 経験: (0, 名/他サ)经验, 经历

## 2. 容易(第8课)

一がち

\* 解释: かち→勝ちます→勝つ+浊音(不好)

\* 接续: 名词/动词的连用形+

\* 注意: 用于消极事物

## 1. 子供のころから病気がちです。

\* 从小就爱生病。

\* 病気: (0, 名)生病, 病

## 2. 最近忘れがちになってる。

\* 最近健忘。

## 3. 彼女は気難しい人と思われがちだけど、実はけっこう気さくな人です。

\* 她容易被认为是不好接触的人，但是实际上是很爽快好接近的人。

\* 气難しい：(5, 形) 不好接触的

\* 実は：(2, 副) 其实

\* けっこう：(1, 名/形动/副) 结构布局；可以；够，相当

\* 气さく：(0, 形动) 爽快且容易接触

## 4. 彼女は観察力が優れています、人が見落としがちのところをしっかり見ている。

\* 她观察力出色，能看到人们容易看漏的地方。

\* 観察力：(4, 名) 观察力

\* 観察：(0, 名/他サ) 观察

\* 優れる：(3, 自下一) 出色，优秀。[记]。すぐ(すぎ→過ぎ)+れ(来)+る(留→长)→超过→出色

\* 見落とす：(0, 3, 他五) 没看到，忽略。[记]。見(看；抽象语气)+落とす→忽略

\* しっかり：(3, 拟态/副) 踏实，着实，靠得住

## 5. 彼は返事が後回しになります。

\* 他爱拖后回信。

\* 返事：(3, 名/自サ) 回信，复，回话

\* 後回し：(3, 名) 推迟，往后推

## N3 第 15 课 天空的色彩(课文)

### そらいろ 空色

#### そらいろ ゆらい 空色の由来

晴れた日の空の色のような、明るい青色をあらわします。平安時代から使われている古い色名で、「空天色」や「碧天」といった、美しい別名ももっています。日本の伝統色には、気象や天体に関連した色名が多くはありません。そういう意味では珍しい色名といえるでしょう。忙しい毎日に追われていると、空を見上げることも忘れてしまいがちです。晴れわたる夏空の澄んだ空色に、元気をもらいましょう。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

#### 天空颜色的由来

表示的是晴朗的日子天空的颜色般的明亮的蓝色。这是从平安时代开始就使用的古老的颜色名称，还有“天空色”或是“碧天”等美丽的别名。在日本的传统颜色当中，与气象和天体等有关的颜色名称不多。从这种意思上来看，可以说是少见的名字。如果每天都很忙碌，就会忘记仰望天空。晴空万里的夏天的天空，从它那清澈的颜色里获取元气吧。

## N3 第 16 课 夏天的颜色(单词)

### 撫子色

夏の暑さをものともせず、可憐でかわいらしい花をつけるナデシコの色です。淡いピンク色は、桃色とならぶ華やかさで女性を彩ってくれます。

「ナデシコ」とは、ナデシコ科ナデシコ属の花の総称ですが、北海道から九州にかけて自生するカワラナデシコの別名でもあります。この花から生まれた「撫子色」は、淡い紫がかかったピンク色です。開花時期は春から秋まで長く、「秋の七草」にも数えられていますが、平安装束の色の組み合わせである「裏」において、「撫子裏」は夏の色とされています。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 瞿麦色(石竹色)

瞿麦(石竹)不顾夏天的酷暑，开放着楚楚动人的可爱的花朵，瞿麦色就是这种瞿麦的颜色。它那淡淡的粉色有着桃色般的华美，装扮着女性。

“瞿麦”是石竹科石竹属的花卉的总称，是从北海道到九州各地自生的河原瞿麦的别名。这种花的“瞿麦色”带有淡紫的粉色。瞿麦的开花时期从春天到秋天较长，还被收录到了“秋七草”里。在平安时代的装束的颜色搭配“裏”中，“瞿麦裏”被称作夏天的颜色。



### 单词

\* 撫子: (2, 名) 瞿麦, 石竹

\* 暑さ: (1, 名) 热, 酷暑

\* 蒸し暑い: (4, 形)闷热的. [记]. 蒸し+暑い→闷热

\* むしむし: (1, 拟态)闷热. [记]. む(闷)+し(死)→闷热/むしむしする

\* 可憐: (0, 形动) 楚楚动人

\* 可哀相: (4, 形动) 可怜

\* 可愛らしい: (5, 形) 可爱的

\* 花をつける: (2+2) 附着花朵, 有花朵

- \* 淡い: (2, 形) (颜色、味道、气味等)淡的; (兴趣、执着度、存在感等)淡弱的. [记]. あ(上)+わ(完)  
→特別完→淡
- \* 淡白/淡泊: (1, 0, 形动) (颜色、味道、气味等)淡的; (性格)不拘泥而爽快
- \* 淡々と: (0, 副)淡然/淡々とする
- \* ピンク: (1, 名/pink)粉色
- \* ピンク色: (0, 名)粉色
- \* 桃色: (0, 名)桃色
- \* 並ぶ: (0, 自五)排(队); (并)排; 匹敌. [记]. な(长)+ら(拉)+ぶ(并列)→拉长且并列→排
- \* ~と並ぶ: 和~并排, 和~不相上下
- \* ~を抜く: (0)超过~
- \* ~に追い着く: (3)追上~, 赶上~
- \* ~を追いかける: (4)追赶~
- \* 並べる: (0, 他下一)摆, 把~排列. [记]. な(长)+ら(拉)+べ(摆)+る(留→长)→摆
- \* 華やかさ: (2, 名)华丽, 华美
- \* 華やか: (2, 形动)华丽, 华美
- \* 総称: (0, 名)总称
- \* 自生: (0, 名/自サ)自生
- \* 河原: (0, 名)河滩, 河边无水且砂石多的地方
- \* 生む: (2, 0, 他五)使出生, 使产生, 使诞生. [记]. うむ(用力状)→生产
- \* 生まれる: (0, 被动式)出生; 产生出
- \* 紫: (2, 名)紫, 紫色. [记]. むら(斑→颜色不均匀)+さ(飒→轻)+き(カ→あか→赤)→颜色掺杂淡红色→紫色
- \* -がかる: (2, 自五)带有~颜色
- \* 青みがかる: (5, 自五)带有蓝色
- \* 赤みがかる: (5, 自五)带有红色

- \* 開花時期: (4, 名) 开花时期
- \* 時期: (1, 名) 时期
- \* 開花: (0, 1, 名/自サ) 开花
- \* 花が咲く: (2+0) 开花
- \* 花を開き、実を結ぶ: (2+0, 0+0) 开花结果
  - \* 開く: (2, 自他五) 开, 拉开, 打开, 开设. [记]. ひ(引く)+ら(拉)+く(方向)→拉→拉开
  - \* 開ける: (0, 他下一) 把~打开. [记]. あ(明)+け(开)+る(留→长)→开, 空
  - \* 開く: (0, 自五) 敞开状, 张开状. [记]. あ(明)+く(方向)→开, 空
  - \* 結ぶ: (0, 自他五) 使结合, 使连接在一起. [记]. む(闷)+す(する→做)+ぶ(并列)→结合
- \* 息子: (0, 名) 儿子
- \* 娘: (0, 名) 女儿
- \* 数える: (3, 他下一) 数, 数数; 列举. [记]. か(加)+そ(其)+浊音(拖泥带水→有关)+え(挨)+る(留→长)→添加→数数
- \* 数: (1, 名) 数量
- \* おかず: (2, 名) 饭菜中的菜
- \* 装束: (1, 名) 装束
- \* 衣装 / 衣裳: (1, 名) 衣装, 衣裳
- \* 襲: (0, 名) 和服套穿时的里外颜色组合
- \* 重ねる: (0, 他下一) 使重叠; 积累. [记]. か(加)+さ(そ→其)+ね(捻)+る(留→长)→使重叠
- \* 重なる: (0, 自五) 重叠; 积累. [记]. か(加)+さ(そ→其)+な(那→长)+る(留→长)→重叠

## N3 第 17 课 夏天的颜色(语法)

### 撫子色

夏の暑さをものともせず、可憐でかわいらしい花をつけるナデシコの色です。淡いピンク色は、桃色とならぶ華やかさで女性を彩ってくれます。

「ナデシコ」とは、ナデシコ科ナデシコ属の花の総称ですが、北海道から九州にかけて自生するカワラナデシコの別名でもあります。この花から生まれた「撫子色」は、淡い紫がかかったピンク色です。開花時期は春から秋まで長く、「秋の七草」にも数えられていますが、平安装束の色の組み合わせである裏において、「撫子裏」は夏の色とされています。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 瞿麦色(石竹色)

瞿麦(石竹)不顾夏天的酷暑，开放着楚楚动人的可爱的花朵，瞿麦色就是这种瞿麦的颜色。它那淡淡的粉色有着桃色般的华美，装扮着女性。

“瞿麦”是石竹科石竹属的花卉的总称，是从北海道到九州各地自生的河原瞿麦的别名。这种花的“瞿麦色”带有淡紫的粉色。瞿麦的开花时期从春天到秋天较长，还被收录到了“秋七草”里。在平安时代的装束的颜色搭配“裏”中，“瞿麦裏”被称作夏天的颜色。

## 语法

### 1. 不顾

～をものともせず

- \* 解释：を(把)+もの(事)+と(成)+も(都)+せ(する)+ず(否定/副词)
- \* 意思：都不把～当回事→不顾
- \* 语法：～を～とする(把～当成～)  
せず→しない的副词形式，语气相对正式生硬
- \* 接续：名词+
- \* 注意：ず的后面如果不加助词に(而)就加逗号

1. 障害をものともせず、明るく前向きに生きていく。

\* 不顾障碍，阳光地积极地活下去。

\* 障碍：(0, 名)障碍；医学上的障碍(病或残疾)

\* 前向き：(0, 形动)向前；积极

\* 生きる：(2, 自上一)活，活着，生活，生存；发挥作用；活灵活现。[记] い(意)+き(气)+る(留)

\* 息：(1, 名)呼吸；气息

\* 生き生き: (3, 拟态)生动; 生气勃勃/生き生きとする

## 2. 彼女は度重なる困難をものともせずに前に進んでいった。

\* 她不顾重重困难向前行。

\* 度重なる: (0, 5, 自五)重重

\* 進む: (0, 自五) (向前)进; 进(展); (先)进. [记]. す(嗖→快)+す(嗖→快)+む(用力状)→用力快→进

\* 遅れる: (4, 0, 自下一)迟到, 交通工具晚点, 表慢了; 落后. [记]. お(根据嘴型→圆→驼背→后背)+く(方向)+れ(来)+る(留→长)→往后→慢

## 3. 悪天候をものともせず、試合でいい結果を出した。

\* 不把坏天气当回事, 在体育比赛中创出了好的结果。

\* 悪天候: (3, 名)恶劣的天气

\* 試合: (0, 名/自サ) (体育、武艺)比赛

\* コンクール: (3, 名/法 concours) (文艺)比赛

\* レース: (1, 名/race) (跑步、游泳、赛马等有目标终点的)比赛

## 2. 也是

～でもある

\* 解释: である→です/だ(是)+も(也)

\* 接续: 名词/形容动词+

\* 注意: 主语是同一个

## 1. 彼は先輩でもあり、友達でもあります。

\* 他既是前辈也是朋友。

## 2. そこは文学の町でもあります。

\* 那里也是文学城市。

## 3. これは生活のためでもあります。

\* 这也是为了生活。

## 3. 于～

～において

\* 解释: に(方向)+於いて(于→在)

\* 接续: (时间、地点、人群、状况等所有有关的) 名词+

\* 语气: 正式

## 1. 2020年のオリンピックは東京において行われる予定です。

\* 预计 2020 年的奥运会于东京举办。

\* オリンピック: (4, 名) 奥林匹克

\* 行われる: (0, 被动式) 被举办

\* 予定: (0, 名) 预计/预定がある

## 2. 仕事面において語学力を活かす。

\* 于工作方面发挥外语能力。

\* 仕事面: (3, 名) 工作方面

\* 語学力: (3, 名) 语言能力, 外语能力

\* 活かす: (2, 他五) 使活着; 发挥; 活用. [记]. いか(息)+す(做) → 呼吸

## 3. 人生において一番大事なのは、後悔しないことです。

\* 在人生当中最重要的是不后悔。

\* 人生: (1, 名) 人生

\* 後悔: (1, 名/他サ) 后悔

## 4. 被说成～; 被认为是～

～とされている

\* 解释: と(引号)+されている(される是する的被动式, 用现在进行时表示现在或持续)  
        可以替代大多数动词, 在此可以替代: 说; 认为; 预测等等。

\* 接续: 句子+

## 1. コンピュータの実用化は不可能とされていた。

\* 过去一直被认为计算机不可能实用化。

\* コンピュータ: (3, 名/computer) 电脑

\* 実用化: (0, 名) 实用化

\* 不可能: (2, 形动) 不可能

\* 有り得ない: (4, 形) 不可能

## 2. 今度の選挙では田中氏が当選するとされている。

\* 都说在下次的选举中田中氏会当选。

\* 今度: (1, 名/副) 即将到来

\* 今回: (1, 名/副) 这次

\* 選挙: (1, 名) 选举

\* 氏: (名) 姓氏的氏

\* 当選: (0, 名/自サ) 当选

## 3. ここは地震が多いので、高層ビルは建てられないとされていた。

\* 这里过去一直被认为地震多，所以盖不了高楼。

\* 高層ビル: (5, 名) 高楼

\* 建てる: (2, 他下一) 盖(楼). [记]. た(多→高)+て(手)+る(留→长)→把其弄高→立

## N3 第 18 课 夏天的颜色(课文)

### なでしこいろ 撫子色

なつ あつ 夏の暑さをものともせず、かれん はな 可憐でかわいらしい花をつけるナデシコの色です。いろ あわ 淡いピンク色は、

ももいろ はな 桃色とならぶ華やかさで女性を彩ってくれます。

「ナデシコ」とは、ナデシコ科ナデシコ属の花の総称ですが、ほっかいどう きゅうしゅう 北海道から九州にかけて自生するカワラナデシコの別名でもあります。この花から生まれた「撫子色」は、あわ むらさき 淡い紫がかかったピンク色です。開花時期は春から秋まで長く、「秋の七草」にも数えられていますが、平安装束の色の組み合わせである 襾において、「撫子 襦」は夏の色とされています。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 瞿麦色(石竹色)

瞿麦(石竹)不顾夏天的酷暑，开放着楚楚动人的可爱的花朵，瞿麦色就是这种瞿麦的颜色。它那淡淡的粉色有着桃色般的华美，装扮着女性。

“瞿麦”是石竹科石竹属的花卉的总称，是从北海道到九州各地自生的河原瞿麦的别名。这种花的“瞿麦色”带有淡紫的粉色。瞿麦的开花时期从春天到秋天较长，还被收录到了“秋七草”里。在平安时代的装束的颜色搭配“袴”中，“瞿麦袴”被称作夏天的颜色。

## N3 第 19 课 雁南飞(单词)

### かりわた 雁渡し

ばんしゅう がん うみ こ わた ふ きたかぜ かりわた あおきた よ はい  
晩秋、雁が海を越えて渡つてくるころに吹く北風が雁渡し。また青北風とも呼ばれます。灰が  
かかった曇り空と、冷たい北の海の間を、渡り鳥が群れをなして飛んでくる姿には、その懸命さに  
ハツとさせられるときがあります。

くさき ひとひるがへ かりわた きしだ ちぎよ  
草木より人翻る雁渡し 岸田稚魚

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

晚秋，大雁越过海洋飞来时刮的北风就是雁南风。还叫做青北风。候鸟成群结队地飞过带有灰色的阴暗的天空和寒冷的北方的大海，有时会不由得对那竭尽全力的样子感到惊讶。

吹翻草木和人的雁南风 岸田稚鱼

### 单词

\* 雁渡し: (3, 名) 雁南风；日本从初秋至仲秋刮的北风

\* 晚秋: (0, 名) 晚秋

\* 雁: (1, 名) 雁

\* 越える/超える: (0, 自下一) 越过；超过

\* 肥える: (2, 自下一) 肥；肥沃；有眼力，有识别能力

\* 目が肥える: (1+2) 有眼力

\* 目を肥やす: (1+2) 提高眼力

\* 渡る: (0, 自五) 度过；过马路，过桥等

\* 渡す: (0, 他五) 交给，递给

\* 澄み渡る: (4, 0, 自五) 清澈

\* 晴れ渡る: (0, 4, 名) 晴空万里

\* 北風: (0, 4, 名) 北风

\* 青北風: (0, 名) 日本从初秋至仲秋刮的北风

\* 灰かかる: (4, 自五) 带有灰色

- \* 灰色: (0, 名) 灰色
- \* グレー: (2, 名) 灰色
- \* 曇る: (2, 自五) 天空多云; 模糊; 发愁; 阴沉. [记]. く(黒)+も(物)+る(留→长)→多鸟云
- \* 曇: (1, 名) 云彩
- \* 曇り空: (3, 名) 阴天的天空
- \* 空耳: (0, 名) 好像听到, 幻听; 假装没听到/空耳を使う
- \* 冷たい: (0, 3, 形) 冷的, 冰凉的; 冷淡的, 冷漠的. [记]. つめ(爪→手)→+たい(痛い)→触摸冰冷时的感觉→冰冷
- \* 涼しい: (3, 形) 凉快的, 凉爽的. [记]. す(飕)+ず(す→飕)+し(像)→凉飕飕
- \* 涼しい顔をする: (3+0) 若无其事, 于己无关
- \* 海: (1, 名) 海
- \* 涡: (1, 名) 漩涡; 混乱状态, 难以脱身的状况. [记]. う(呙)+ず(みず→水→渦)→渦+呙→涡
- \* 涡中: (0, 名) 漩涡当中; 混乱状态当中, 难以脱身的状况当中
- \* 苦しみの渦中にいる: (0+0+0) 处于痛苦的状况
- \* 間: (0, 名) 之间
- \* 間柄: (0, 名) 关系
- \* 渡り鳥: (3, 名) 候鸟
- \* 群れ: (2, 名) 一群, 一伙. [记]. むれ(むら→村)→群
- \* 成す: (1, 他五) 构成; 完成
- \* 懸命: (0, 形动) 拼命, 奋不顾身, 竭尽全力
- \* 必死: (0, 形动) 拼死
- \* ハッと: (1, 0, 副) 吃惊状
- \* 草木: (2, 名) 草木
- \* 草花: (2, 名) 草花, 花草
- \* 翻る: (3, 自五) 翻过来; 飘扬; 翻脸

\* 翻 す: (3, 他五) 把～翻过来; 推翻, 打翻; 使态度突变

\* 翻弄: (0, 名/他サ) 捉弄, 摆布

\* 幼稚: (0, 名/形动) 年幼; 幼稚

\* 幼稚园: (3, 名) 幼儿园

\* 幼い: (3, 形) 幼小的; 幼稚的. [记]. オ(御)+サ(颯→清→青)+ナ(那→那么)→那么青涩

## N3 第 20 课 雁南飞(语法)

### かりわた 雁渡し

ばんしゅう がん うみ こ わた ふ きたかぜ かりわた あおきた よ はい  
晩秋、雁が海を越えて渡つてくるころに吹く北風が雁渡し。また青北風とも呼ばれます。灰が  
かかった曇り空と、冷たい北の海の間を、渡り鳥が群れをなして飛んでくる姿には、その懸命さに  
ハツとさせられる時があります。

くさ き ひとひるがへ かりわた きしだ ちぎよ  
草木より人翻る雁渡し 岸田稚魚

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

晚秋，大雁越过海洋飞来时刮的北风就是雁南风。还叫做青北风。候鸟成群结队地飞过带有灰色的阴暗的天空和寒冷的北方的大海，有时会不由得对那竭尽全力的样子感到惊讶。

吹翻草木和人的雁南风 岸田稚鱼

### 语法

#### 1. 形容词和形容动词变名词

-さ

\* 解释：さ(其)→具体

\* 接续：形容词和形容动词的词干+

-み

\* 解释：み(味)→抽象

\* 接续：形容词和形容动词的词干+

-め

\* 解释：め(目)→稍微

\* 接续：形容词和形容动词的词干+

#### 1. 平和の有り難さを忘れてはならない。

\* 不能忘记和平的来之不易。

\* 平和：(0, 名/形动) 和平

\* 有難い：(3, 形) 难得的；来之不易的；值得感谢的

\* 有り難さ：(3, 名) 来之不易

\* 有り難く：(3, 副) 感激地

## 2. 彼女の挫折に立ち向かう 強かさと生き抜く強さに感服します。

\* 很佩服她面对挫折的顽强和克服困难生存下去的坚强。

\* 挫折: (0, 名/自サ) 挫折; 受挫折

\* 立ち向かう: (4, 自五) 勇敢地面对

\* 強か: (0, 2, 形动) 强悍, 霸悍, 不好惹, 难对付. [记]. し(强)+た(多)+た(多)+か(加)→强

\* 生き抜く: (3, 0, 自五) 克服困难和痛苦而生存下去

\* 感服: (0, 名/自サ) 非常佩服

## 3. 手作業による温かみのある独特的な風合いをお楽しみください。

\* 请享受手工制作带来的有温度的质感。

\* 手作業: (2, 名) 手工制作

\* 作業: (1, 名/自サ) 作业, 工作, 操作

\* 温かみ: (0, 名) 温暖

\* 独特: (0, 形动) 独特

\* 風合い: (0, 名) 纺织品的手感、质感

\* 楽しむ: (3, 他五) 享受; 期待

## 4. この文章から深みを感じられる。

\* 能从这篇文章感受到深度。

\* 文章: (1, 名) 文章

\* 深み: (0, 3, 名) 深度

## 5. 小さめのがありますか?

\* 有稍微小点儿的吗?

\* 小さめ: (0, 名) 稍微小

## 6. 明日早めに来てください。

\* 请明天早点儿来。

\* 早め: (0, 名) 稍微早点儿

## 2. 使役被动

～させられる

\* 意思: 1. 不情愿; 2. 不自发; 3. 无意中 →不由得

1. 幸せとは何かと思わず考えさせられる。

\* 不由得思考什么是幸福。

\* 幸せ: (0, 名/形动) 幸福

2. 思わずやりとさせられる。

\* 不由得一笑。

\* にやりと: (2, 3, 拟态/副) (一个人自己)笑一下. [记]. に(微笑时嘴型)+や(咿呀学语→小)

3. 彼女の逞しさに思わず感心させられる。

\* 不由得佩服她的顽强。

\* 逞しい: (4, 形) 健壮的; 强壮的. [记]. た(多)+く(加)+ま(满)+し(像)→壮

\* 感心: (0, 形动/自サ) 佩服

## N3 第 21 课 雁南飞(课文)

### かりわた 雁渡し

ばんしゅう がん うみ こ わた ふ きたかぜ かりわた あおきた よ はい  
晩秋、雁が海を越えて渡ってくるころに吹く北風が雁渡し。また青北風とも呼ばれます。灰が  
かった曇り空と、冷たい北の海の間を、渡り鳥が群れをなして飛んでくる姿には、その懸命さに  
ハッとさせられる時があります。

くさ き ひとひるがへ かりわた きしだ ちぎよ  
草木より人翻る雁渡し 岸田稚魚

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

晚秋，大雁越过海洋飞来时刮的北风就是雁南风。还叫做青北风。候鸟成群结队地飞过带有灰色的阴暗的天空和寒冷的北方的大海，有时会不由得对那竭尽全力的样子感到惊讶。

吹翻草木和人的雁南风 岸田稚鱼

## N3 第 22 课 临考前父母的心情(单词)

### もし落ちたら

あすは、わが子の入学試験の発表があるという、その前の晩は、親としての一生のなかでも、

いちばん落ち着かなくてつらい晩のひとつにちがいない。

もう何十年もまえ、ぼくが中学の入学試験をうけたとき、発表の朝、父がこんなことをいつた。「お前、きょう落ちていたら、欲しがっていた写真機を買ってやろう」

ふとおもいついたといった調子だったが、それでいて、なんとなくぎこちなかった。へんなことをいうなあ、とおもった。おとうさんは、ぼくが落ちたらいいとおもってるのだろうか、という気がした。

そのときの父の気持ちが、しみじみわかったのは、それから何十年もたって、こんどは自分の子が入学試験をうけるようになったときである。

おやじも、あの前の晩は、なかなか寝つかれなかつたんだな、とそのときははじめて気がついた。  
不覚であった。おやじめ、味なことをやつたなとおもった。あまり好きでなかつたおやじが、急になつかしくなつた。

(花森安治「もし落ちたら」朝日新聞)

明天要公布我们家孩子入学考试的结果。那前一天晚上肯定也是父母一生当中最无法平静和苦恼的一个晚上。

那已经是好几十年前我考中学的时候了。公布结果的早上，父亲说了这样的话：“你要是没考上，我就给你买你一直想要的相机。”

感觉父亲是临时想到才说的，但是有些不自然。我想他这说什么呢？好奇怪。我感觉是不是爸爸觉得我考不上也行啊？

深切体会那时候的父亲的心情是好几十年后，这次是我自己的孩子参加升学考试的时候。

那时我第一次意识到父亲在我考试的前一天晚上也睡不着啊。当时没有察觉。亲爹呀！不一般啊！过去不太喜欢父亲，但是现在突然很怀念他。

### 单词

\* 明日: (2, 名/副) 明天

\* 我が子: (1, 名) 我们家孩子；が古语的の

\* 我が家: (1, 名) 我们家

\* 入学試験: (5, 名) 入学考试(升学考试)

\* 試験: (2, 名) 考试

\* 発表: (0, 名/他サ) 发表, 公布

\* 前の晩: (5, 0, 名/副) 头一天晚上

\* 親: (2, 名) 父母

\* 一生: (0, 名) 一生

\* 落ち着く: (0, 自五) 稳定; 安定; 拍板定局; 沉稳冷静; 气氛平静

\* 落ちる: (2, 自下一) (掉, 滑, 摧, 跌) 落; 落(榜); 落入(陷阱). [记]. お(御)+ち(地)+る(ろ→落)→落到地上

\* 落とす: (2, 他五) 使(掉, 滑, 摧, 跌) 落; 陷害. [记]. お(御)+と(脱)+す(做)→使脱落

\* 辛い: (0, 2, 形) 痛苦的, 辛苦的; 艰难的. [记]. つ(刺)<sup>c i</sup>+ら(刺)<sup>1 a</sup>→刺痛

\* 試験を受ける: (2+2) 接受考试

\* お前: (0, 名) 你(现代语中, 男性对自己的同辈或后辈的称呼; 比“君”的尊敬程度更低)

\* 君: (0, 名) 你(现代语中, 男性对自己的同辈或后辈的称呼)

\* あなた: (2, 名) 你(现代语中, 对自己的同辈或后辈的称呼); 老公

\* 欲しがっていた: (3) 过去一直想要(主语是别人)

\* 欲しかった: (3) 过去一直想要(主语是第一人称或第二人称)

\* 写真機: (2, 名) 照相机

\* カメラ: (1, 名/camera) 照相机

\* ふと: (1, 副) 忽然

\* 思いつく: (4, 他五) 想到

\* 調子: (0, 名) 状况, 程度, 样子, 状况

\* 口調: (0, 名) 口吻

\* 体調: (0, 名) 身体状况

\* それでいて: (0, 接) 虽然如此

\* それでも: (3, 接) 即便如此

\* それにも: (3+2, 接) 即便如此(百分之百)

\* それにしては: (3+2, 接) 即便如此(百分之五十)

\* なんとなく: (3, 副) 不知道为什么却总觉得(能单独使用)

- \* なんだか: (1, 副) 不知道为什么却总觉得(不能单独使用)
- \* なんか: (1, 副) 不知道为什么却总觉得(なんだか的口语)
- \* ぎこちない: (4, 形) (语言、动作等) 僵硬, 不灵活, 不圆通, 不自然. [记]. ぎ(技)+こ(個)+ち(齐)+ない(无)→没有个技能
- \* 不自然: (2, 形动) 不自然
- \* <sup>ふしそん</sup>変: (1, 形动) 奇怪, 异常
- \* おかしい: (3, 形) 可笑的; 奇怪的, 异常的
- \* しみじみ: (3, 副) (沁人心扉地) 深深地. [记]. し(渗)+み(む→闷)
- \* せつせつと: (0, 副) 深切地
- \* つくづく: (3, 2, 副) 深切地
- \* ひしひし: (1, 2, 副) 深深地
- \* <sup>しき</sup>染みる: (0, 自上一) 沙疼; (液体、思想、文化等) 渗透; 铭刻在心  
.[记]. し(渗)+み(む→闷)+る(留→长)→湿的东西进入→渗
- \* <sup>み</sup>身に染みる: (0+0) 渗透进体内
- \* 経つ: (1, 自五) (时间) 经过. [记]. た(他)+つ(次)→往其他方向走→经过
- \* <sup>た</sup>経る: (1, 自下一) 经过, 经历. [记]. ～(方向)+る(留→长)→时间的经历
- \* <sup>ね</sup>寝つく: (2, 自五) 睡着
- \* <sup>き</sup>気が付く: (0+1/2, 自五) 注意
- \* <sup>き</sup>気を付ける: (1+2, 他下一) 注意, 小心
- \* 不覚: (0, 名/形动) 失去知觉; 没有察觉
- \* -め: (名) (名词+) 轻视的语气
- \* <sup>あじ</sup>味: (0, 形动) 机灵
- \* <sup>きゆう</sup>急に: (0, 副) (时间或速度上的) 突然
- \* いきなり: (0, 副) (没有心里准备的) 突然, 冷不丁  
.[记]. いき(いく→行く)+なり(「也」→是)→只管向前走→突然
- \* <sup>とつぜん</sup>突然: (0, 形动/副) 突然
- \* <sup>なつかし</sup>懷かしい: (4, 形) 怀念的. [记]. な(那)+つ(次)+か(加)+し(悉)→那一次啊→怀念

## N3 第 23 课 临考前父母的心情(语法)

### もし落ちたら

あすは、わが子の入学試験の発表があるという、その前の晩は、親としての一生のなかでも、

いちばん落ち着かなくてつらい晩のひとつにちがいない。

もう何十年もまえ、ぼくが中学の入学試験をうけたとき、発表の朝、父がこんなことをいつた。「お前、きょう落ちていたら、欲しがっていた写真機を買ってやろう」

ふとおもいついたといった調子だったが、それでいて、なんとなくぎこちなかった。へんなことをいうなあ、とおもった。おとうさんは、ぼくが落ちたらいいとおもってるのだろうか、という気がした。

そのときの父の気持ちが、しみじみわかったのは、それから何十年もたって、こんどは自分の子が入学試験をうけるようになったときである。

おやじも、あの前の晩は、なかなか寝つかれなかつたんだな、とそのときははじめて気がついた。  
不覚であった。おやじめ、味なことをやつたなどおもった。あまり好きでなかつたおやじが、急になつかしくなつた。

(花森安治「もし落ちたら」朝日新聞)

明天要公布我们家孩子入学考试的结果。那前一天晚上肯定也是父母一生当中最无法平静和苦恼的一个晚上。

那已经是好几十年前我考中学的时候了。公布结果的早上，父亲说了这样的话：“你要是没考上，我就给你买你一直想要的相机。”

感觉父亲是临时想到才说的，但是有些不自然。我想他这说什么呢？好奇怪。我感觉是不是爸爸觉得我考不上也行啊？

深切体会那时候的父亲的心情是好几十年后，这次是我自己的孩子参加升学考试的时候。

那时我第一次意识到父亲在我考试的前一天晚上也睡不着啊。当时没有察觉。亲爹呀！不一般啊！过去不太喜欢父亲，但是现在突然很怀念他。

### 语法

#### 1. 肯定

～に違いない。

\* 解释：に(方向)+違いない(没错)→肯定

\* 接续：任何词+

～に決まっている。

- \* 解释: に(方向)+決まっている(定了/用现在进行时表示状态)→肯定
- \* 接续: 任何词+
- \* 特点: 更加口语化

1. それが合言葉だったにちがいない。

- \* 那肯定就是暗号。
- \* 合言葉: (3, 名)(伙伴之间互相确认的)暗号; 宗旨

2. 真面目な彼のことだから、時間通りに来るにちがいない。

- \* 因为他很认真, 所以肯定按时来。
- \* 時間通り: (4, 名)按时, 准时
- \* 几帳面: (2, 形动)认真
- \* 生真面目: (2, 形动)较真儿

3. 僕のに決まってるでしょう。

- \* 明摆着是我的。

4. みんなが楽しそうなことが好きに決まってる。

- \* 肯定大家都喜欢令人开心的事。

## 2. 感觉

～気がする

- \* 意思: 感觉
- \* 特点: 由内而发(我感觉)

～感じがする

- \* 意思: 感觉
- \* 特点: 由外界引起(TA 让人感觉)

1. 少しわかったような気がした。

- \* 感觉好像有点儿明白了。

2. 昔ここに来たことがあるような気がする。

- \* 感觉好像过去来过这里。

### 3. タイルの表面はざらざらした感じがする。

\* 瓷砖的表面有种不光滑的感觉。

\* タイル: (1, 名/tile) 瓷砖

\* 表面: (3, 名) 表面

\* ざらざら: (0, 1, 拟态) (很多小而硬东西的互相碰撞声) 哗啦哗啦; (表面不光滑) 粗糙. [记]. ざ(杂)+ら(拉)

### 4. 科学的な理由はないけど、なんだか変な感じがする。

\* 虽然没有科学的理由，但是总觉得怪异。

\* 科学: (1, 名) 科学

\* 科学的: (0, 形动) 科学的

\* 理由: (0, 名) 理由

## N3 第 24 课 临考前父母的心情(课文)

### もし落ちたら

あすは、わが子の入学試験の発表があるという、その前の晩は、親としての一生のなかでも、

いちばん落ち着かなくてつらい晩のひとつにちがいない。

もう何十年もまえ、ぼくが中学の入学試験をうけたとき、発表の朝、父がこんなことをいつた。「お前、きょう落ちていたら、欲しがっていた写真機を買ってやろう」

ふとおもいついたといった調子だったが、それでいて、なんとなくぎこちなかった。へんなことをいうなあ、とおもった。おとうさんは、ぼくが落ちたらしいとおもってるのだろうか、という気がした。

そのときの父の気持ちが、しみじみわかったのは、それから何十年もたって、こんどは自分の子が入学試験をうけるようになったときである。

おやじも、あの前の晩は、なかなか寝つかれなかつたんだな、とそのときははじめて気がついた。  
不覚であった。おやじめ、味なことをやつたなどおもった。あまり好きでなかつたおやじが、急になつかしくなつた。

(花森安治「もし落ちたら」朝日新聞)

明天要公布我们家孩子入学考试的结果。那前一天晚上肯定也是父母一生当中最无法平静和苦恼的一个晚上。

那已经是好几十年前我考中学的时候了。公布结果的早上，父亲说了这样的话：“你要是没考上，我就给你买你一直想要的相机。”

感觉父亲是临时想到才说的，但是有些不自然。我想他这说什么呢？好奇怪。我感觉是不是爸爸觉得我考不上也行啊？

深切体会那时候的父亲的心情是好几十年后，这次是我自己的孩子参加升学考试的时候。

那时我第一次意识到父亲在我考试的前一天晚上也睡不着啊。当时没有察觉。亲爹呀！不一般啊！过去不太喜欢父亲，但是现在突然很怀念他。

## N3 第 25 课 抹茶甜点(单词)

まっちゃいろ  
抹茶色

まっちゃいろ ゆらい  
抹茶色の由来

あづちももやまじだい せんのりきゅう かんせい さどう えどじだい はつてん と ちや ゆ  
安土桃山時代、千利休によって完成された茶道は江戸時代にさらなる発展を遂げます。「茶の湯」

として庶民にも浸透し、誰もが抹茶を知るようになると「抹茶色」も誕生しました。

まっちゃいろ かし  
抹茶色のお菓子

まっちゃ  
抹茶スイーツ

にが おとな あじ かんみ ぜつみよう まっちゃ わがし はばひろ  
ほろ苦い大人の味と甘味のハーモニーが絶妙な抹茶スイーツ。和菓子だけにとどまらず幅広い  
あじ たの なつ ぎみ まっちゃしらたま まっちゃ おい げんき かいふく  
味わいが楽しめます。夏バテ気味でも、抹茶白玉や抹茶アイスの美味しさで元気を回復したいもの  
です。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

まっちゃ  
抹茶色  
まっちゃの由来

安土桃山时代由千利休完成的茶道在江户时代被发扬光大。作为“品茶会”渗透到民间，所有人都知道抹茶以后诞生了“抹茶色”。

まっちゃ  
抹茶点心  
まっちゃ  
抹茶甜点

带有大人味道的苦味和甜味的调和正是绝妙的抹茶甜点。不仅限于日式糕点，还能品尝更多的味道。即便夏天有些缺乏食欲，还是很想通过抹茶白玉和抹茶冰淇淋的美味恢复元气。

## 单词

\* 安土桃山時代: (1+5, 名) 织田信长和丰臣秀吉掌权的时代(1568–1600 的 30 年)。织田信长居住的安土城和丰臣秀吉居住的伏见桃山城而称为安土桃山时代。

\* 千利休: (1522–1591) 安土桃山时代的茶人。创立简素清净的茶道，被称为天下第一的茶道宗匠。

\* 茶道: (1, 名) 茶道。茶汤之道。始于镰仓时代禅宗寺院规定的喝茶礼仪，流传到民间后，茶室和茶具等逐步完善，同时强调精神享用。千利休大成“枯寂”茶道。之后分为表千家、里千家、武者小路千家三家流派，并有其他许多分派。

\* 華道: (1, 名) 花道

\* 書道: (1, 名) 书法

\* 江戸時代: (3, 名) 1603–1867 年的德川时代

- \* さらなる: (1, 连体) 更加的. [记]. 更+なる (である→也→是)
- \* さら<sup>さら</sup>: (1, 副) 更
- \* 尚<sup>なお</sup>: (1, 副) 还有(比また语气正式). [记]. な(那)+お(う→宇→大)→尚
- \* 尚更<sup>なおさら</sup>: (0, 副) 越发. [记]. な(那)+お(う→宇→大)→尚; さら(把沙子拉走→水更清)→更。尚+更→越发
- \* 発展<sup>はってん</sup>: (0, 名/自サ) 发展
- \* 遂<sup>と</sup>げる: (2, 他下一) 到达, 完成, 实现. [记]. と(突)+げ(给)+る(留→长)→突出→完成
- \* 茶の湯<sup>ちやゆ</sup>: (0, 名) 茶道; 品茶会
- \* 庶民<sup>しよみん</sup>: (1, 名) 平民, 老百姓
- \* 浸透<sup>しあとう</sup>: (0, 名/自サ) 渗透
- \* 染<sup>しみ</sup>る: (0, 自上一) 沙疼; (液体、思想、文化等) 渗透; 铭刻在心
- \* 渗<sup>にじ</sup>む: (2, 自五) 渗透; 涕. [记]. に(泞)+じ(紧)+む(闷)→水紧→渗
- \* 誰もが<sup>だれもが</sup>: (1, 名) 任何人都
- \* 誰でも<sup>だれでも</sup>: (1, 名) 无论是谁
- \* 誰しも<sup>だれしも</sup>: (1, 名) 无论是谁(强调)
- \* 誕生<sup>たんじょう</sup>: (0, 名/自サ) 诞生
- \* スイーツ: (2, 名/sweets) 甜点
- \* デザート: (2, 名/dessert) 饭后甜点
- \* ほろ苦<sup>にが</sup>い: (3, 形) 微苦的
- \* 苦<sup>にが</sup>い: (2, 形) 苦的; 痛苦的; 苦涩的. [记]. に(泥)+が(状态)→苦
- \* 大人<sup>おとな</sup>しい: (4, 形) 老实的; 淡雅素净的
- \* 甘味<sup>かんみ</sup>: (1, 名) 甜味; 美妙之处
- \* 絶妙<sup>ぜつみょう</sup>: (0, 形动) 绝妙
- \* 和菓子<sup>わがし</sup>: (2, 名) 日式糕点
- \* 洋菓子<sup>ようがし</sup>: (3, 名) 西式糕点

- \* 留まる: (3, 自五) 停滞, 停留. [记]. と(止)+ど(多)+まる(む→闷)→停滞
- \* 幅広い: (4, 形) 广泛的
- \* 幅: (0, 名) 幅, 宽度; 势力, 威力; 灵活性, 余地; 差价. [记]. は(哈→放)+ば(把)→把它放出去→宽
- \* 長さ: (1, 名) 长度
- \* 高さ: (1, 名) 高度
- \* 味わい: (0, 名) 味道
- \* 味わう: (3, 0, 他五) 品尝, 欣赏, 体会. [记]. あ(上)+し(舌)+<sup>した</sup>浊音(有关)+わ(あ→上)+う(状态)→放在舌头上→品尝
- \* 夏バテ: (0, 名) 苦夏。身体因不适应夏天的暑热而衰弱
- \* バテる: (2, 自下一) (俗) 累垮
- \* 白玉: (0, 名) 糯米团子
- \* 白髪: (0, 名) 白发
- \* 白雪姫: (4, 名) 白雪公主
- \* アイス: (1, 名/ice) 冰淇淋的简称
- \* アイスクリーム: (0+2, 名/ice cream) 冰淇淋
- \* 元氣(1, 名) 元气
- \* 元氣もりもり(1+0, 名) 精神百倍. [记]. もり(猛烈)
- \* 回復: (0, 名/自サ) 恢复
- \* 治る: (2, 自五) (治)好, 治愈. [记]. な(那)+おる(折る)→折回那样→治
- \* 治す: (2, 他五) 治(好), 治愈

## N3 第 26 课 抹茶甜点(语法)

### 抹茶色

#### 抹茶色の由来

安土桃山時代、千利休によって完成された茶道は江戸時代にさらなる発展を遂げます。「茶の湯」

として庶民にも浸透し、誰もが抹茶を知るようになると「抹茶色」も誕生しました。

#### 抹茶色のお菓子

#### 抹茶スイーツ

ほろ苦い大人の味と甘味のハーモニーが絶妙な抹茶スイーツ。和菓子だけにとどまらず幅広い味わいが楽しめます。夏バテ気味でも、抹茶白玉や抹茶アイスの美味しさで元気を回復したいものです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

#### 抹茶色 抹茶色の由来

安土桃山时代由千利休完成的茶道在江户时代被发扬光大。作为“品茶会”渗透到民间，所有人都知道抹茶以后诞生了“抹茶色”。

#### 抹茶点心 抹茶甜点

带有大人味道的苦味和甜味的调和正是绝妙的抹茶甜点。不仅限于日式糕点，还能品尝更多的味道。即便夏天有些缺乏食欲，还是很想通过抹茶白玉和抹茶冰淇淋的美味恢复元气。

## 语法

### 1. 由～来做

～によって

\* 意思：根据～；由于～；由～来做

\* 接续：名词+

\* 注意：由～来做+被动式

#### 1. 「万有引力の法則」はニュートンによって発見されました。

\* 万有引力定论是由牛顿发明的。

\* 万有引力：(5, 名)万有引力

\* 法則：(0, 名)法则

\* ニュートン：(1, 名)牛顿

\* 発見：(0, 名/他サ)发现

2. この庭園は名匠の手によって作り出された。

\* 这个庭园出自名匠之手。

\* 名匠: (0, 名) 名匠

\* 作り出す: (4, 他五) 做出; 创造出

3. このイベントはボランティアの集金によって行われた。

\* 这个活动是由志愿者集资举办的。

\* イベント: (0, 名/event) 举办的活动

\* ボランティア: (2, 名/volunteer) 志愿者

\* 集金: (0, 名/自他サ) 集资

\* 行う: (0, 他五) 举办, 举行

2. 不仅, 不停滞在~

~(だけ)にとどまらず

\* 解释: に(方向)+とどまる(停滞)+らず(不)

\* 意思: 不停滞在~

\* 接续: 名词+

1. この芸能人の動画は、若者にとどまらず、あらゆる年齢層の人気を攫っています。

\* 这个演艺人士的视频不仅对年轻人, 对所有年龄段的人都有人气。

\* 艺能人: (3, 名) 演艺界人士

\* 動画: (0, 名) 视频

\* 若者: (0, 名) 年轻人

\* あらゆる: (3, 连体) 所有的. [记]. あら(有る)+ゆ(裕)+る(的)→所有的

\* 年齢層: (3, 名) 年龄层

\* 掠う: (0, 他五) 独占(话题、人气、优胜). [记]. さ(砂)+ら(拉)+う(状态)→拉走沙子→水独占河床→独占

2. 彼の研究は科学にとどまらず、医療分野にも広がっている。

\* 他的研究不仅是科学, 还扩展到了医疗领域。

\* 医療: (1, 0, 名) 医疗

\* 分野: (1, 名) 领域

\* 広がる: (0, 自五) 扩大, 扩散, 蔓延

\* 広げる: (0, 他下一) 铺展摊开(折叠的东西); 伸开(双手); 拓宽(道路); 拓展(对象)

### 3. 過去の自分にとどまらず常に新しいアイデアを取り入れている。

\* 不停滞在过去的自己, 经常吸取新的想法。

\* 過去: (1, 名) 过去

\* 常に: (1, 副) 时常, 总是. [记]. つ(次)+ね(捻)→多次→常

\* アイデア: (3, 1, 名) 想法

\* 取り入れる: (4, 0, 他下一) 拿进来; 吸取或采纳(意见、意向、文化等); 引进(技术)

## 3. 感觉好像～

一氣味

\* 解释: 気味(带有气味)

\* 接续: 名词/动词的连用形+(变成浊音)

\* 意思: 感觉好像～

\* 特点: 内在

### 1. ちょっと風邪氣味です。

\* 有点儿感冒。

### 2. 最近 太り氣味です。

\* 最近感觉有些发胖。

### 3. 焦り氣味は禁物。

\* 着急是禁忌。

\* 焦る: (2, 自五) 着急, 焦急. [记]. あせ(汗水)+る(留→长)→出汗多→焦急

\* 禁物: (0, 名) 禁忌

## 4. 强调(可; 真; 可真)

～ものです。

\* 解释: も(猛)+の(名词化)→接在句尾, 表示强调。

- \* 意思: 可; 真; 可真。
- \* 注意: (日式思维)强调谓语词
- \* 接续: 动词/形容词+; 形容动词+な+

### 1. 豪<sup>ぜいたく</sup>奢<sup>い</sup>なことを言うものですね。

\* 真<sup>は</sup>是<sup>じ</sup>站着说话不腰疼。

\* 豪<sup>ぜいたく</sup>奢<sup>い</sup>: (0, 形动) 奢侈

### 2. 時間<sup>じかん</sup>が経<sup>た</sup>つのは本当に速<sup>はや</sup>いものですね。

\* 时间过得可真快啊。

### 3. だって、わからないもん。

\* 我不知道啊。我不明白啊。我不懂啊。

\* だって～: (1, 接续) (口语/反论) 阐述理由或实情

\* だって～もん: (口语) 强调

\* だって～んです: (口语) 加强语气

## N3 第 26 课 抹茶甜点(课文)

### 抹茶色

#### 抹茶色の由来

安土桃山時代、千利休によって完成された茶道は江戸時代にさらなる発展を遂げます。「茶の湯」

として庶民にも浸透し、誰もが抹茶を知るようになると「抹茶色」も誕生しました。

#### 抹茶色のお菓子

#### 抹茶スイーツ

ほろ苦い大人の味と甘味のハーモニーが絶妙な抹茶スイーツ。和菓子だけにとどまらず幅広い味わいが楽しめます。夏バテ気味でも、抹茶白玉や抹茶アイスの美味しさで元気を回復したいものです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

#### 抹茶色

#### 抹茶色の由来

安土桃山时代由千利休完成的茶道在江戸时代被发扬光大。作为“品茶会”渗透到民间，所有人都知道抹茶以后诞生了“抹茶色”。

#### 抹茶点心

#### 抹茶甜点

带有大人味道的苦味和甜味的调和正是绝妙的抹茶甜点。不仅限于日式糕点，还能品尝更多的味道。即便夏天有些缺乏食欲，还是很想通过抹茶白玉和抹茶冰淇淋的美味恢复元气。

## N3 第 28 课 年夜饭里的冬鮰鱼(单词)

びやくぐん  
白群

びやくぐん ゆらい  
白群の由来

こうぶつ 鉱物のアズライトを原料とする青色顔料による伝統色で、飛鳥時代に中国から伝来しました。岩絵の具は粒子が細かくなるほど色味が薄くなります。「白群」も粒子が小さく、淡い青色です。

びやくぐん さかな  
白群の魚

かん 寒ブリ

じゅうにがつ にがつ にほんかい みずあ  
1 2月から2月にかけて日本海で水揚げされるブリは、大きさや脂のりにおいて最高とされる高級食材です。能登地方や関西地方では大晦日に食べる「年取り魚」としても知られています。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

白群  
白群的由来

白群是从矿物当中的蓝铜矿产生出的青色颜料，作为传统颜色在飞鸟时代从中国传来。矿物颜料的粒子越细，色泽就越淡。“白群”也是粒子很小的淡淡的青色。

白群的鱼  
冬狮鱼

从12月到2月在日本海捕获的狮鱼又大又肥，被当作高级食材。在能登地区和关西地区，作为大年三十吃的“过年鱼”也很有名。

## 单词

\* 白群: (2, 0, 名) 淡青色

\* 鉱物: (1, 名) 矿物

\* アズライト: (3, 名/azurite) 石青；蓝铜矿

\* 原料: (3, 名) 原料

\* 顔料: (3, 名) 颜料

\* 伝統色: (3, 名) 传统颜色

\* 伝統: (0, 名) 传统

\* 飛鳥時代: (4, 名) 飞鸟时代。首都在奈良的飞鸟地区的时代。大致在公元6世纪后半到7世纪。

文化史的划分为佛教传来至大化革新(至645年)。

政治史的划分为圣德太子摄政的 593 年至大化改新。

- \* 伝来: (0, 名/自サ) 传来
- \* 岩絵の具: (3, 名) 矿物颜料。东洋画的颜料。
- \* 具: (0, 名) 用具; 料理中加入的东西(菜码; 饺子馅)
- \* 具材: (0, 名) 料理的食材
- \* 粒子: (1, 名) 粒子
- \* 颗粒: (0, 名) 颗粒
- \* 粒: (1, 名) 粒. [记]. つ(突く)+ぶ(不)→没有突起→圆状物→粒
- \* 円らか: (2, 形动) 圆乎乎, 圆滚滚. [记]. つ(突く)+ぶ(不)+ら(拉)+か(加)→特别不突出→圆
- \* 円やか: (2, 形动) 形状圆圆的; 味道温和
- \* 細かい: (3, 形) 细致的, 细微的, 细小的, 琐碎的. [记]. こ(已→小)+ま(满)+か(加)→特别小
- \* 細い: (2, 形) 细的, 狹窄的, 瘦的. [记]. ほ(好)+そ(松)→很松→细
- \* 細やか: (2, 形动) 细小; 细腻; 细致. [记]. こ(小)+ま(满)+や(小)+か(加)→细
- \* 色味: (0, 名) 色泽
- \* 薄い: (0, 形) 薄的; (颜色、口味、记忆、感觉) 淡的. [记]. う(无)+す(丝→轻→清)→薄的, 淡的
- \* 濃い: (1, 形) 浓的, 味道重的; 颜色深的; 亲密的; 可能性大的. [记]. こ(ご→过)→过度→浓
- \* しつこい: (3, 形) 矫情的; (味道、气味、颜色等) 过于厚重
- \* ブリ: (1, 名) 狮鱼
- \* 日本海: (2, 名) 日本海
- \* 水揚げ: (0, 名/他サ) 卸船上的货; 捕鱼
- \* 脂のり: (3, 名) 鱼肥
- \* 脂が乗る: (0+0, 自五) 鱼或鸡鸭身上有脂肪; 有干劲
- \* 油濃い: (4, 形) 油腻的
- \* あつさり: (3, 拟态) 清淡; 轻易. [记]. あさ(浅)
- \* 浅い: (0, 形) 浅的, 少的, 不久的, 轻微的, 肤浅的. [记]. あ(上)+さ(飒→清)→浅

- \* 淡い: (2, 形) 淡的
- \* 最高: (0, 形动) 最棒
- \* 最低: (1, 0, 形动) 最低; 人品最差
- \* 最悪: (0, 形动) 事态最糟糕
- \* 高級食材: (5, 名) 高级食材
- \* 高級: (0, 形动) 高级
- \* 上級: (0, 名) (课程) 高级
- \* 中級: (0, 名) (课程) 中级
- \* 初級: (0, 名) (课程) 初级
- \* 初心者: (2, 名) 初学者
- \* 食材: (0, 名) 食材
- \* 能登地方: (3, 名) 石川县北部的能登半岛
- \* 関西地方: (5, 名) (包括京都、大阪、神户等的) 关西地区
- \* 関東地方: (5, 名) (以东京为中心的六个县茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川的) 关东地区
- \* 大晦日: (3, 名) 大年三十
- \* 年取り魚: (5, 名) 年夜饭时吃的鱼
- \* 年を取る: (2+1) 上年纪
- \* 老いる: (2, 自上一) (自然上年纪) 老, 上年纪. [记]. お(圆形)+いる(入る)→上年纪后身体弯曲→驼背→老
- \* 老ける: (2, 自下一) (显)老. [记]. ふけ(深) + る(留→长)→加深→上年纪
- \* 更ける: (2, 自下一) (季节、黑夜)深. [记]. ふけ(ふか→深) + る(留→长)→加深
- \* 夜が更ける: (1+2) 夜深
- \* 耽る: (2, 自五) 沉湎于; 埋头于. [记]. ふけ(ふか→深) + る(留→长)→加深→沉湎于
- \* 勉強に耽る: (0+2) 埋头于学习

## N3 第 29 课 年夜饭里的冬鮰鱼(语法)

### 白群

#### 白群の由来

鉱物のアズライトを原料とする青色顔料による伝統色で、飛鳥時代に中国から伝来しました。岩絵の具は粒子が細かくなるほど色味が薄くなります。「白群」も粒子が小さく、淡い青色です。

#### 白群の魚

#### 寒ブリ

1月から2月にかけて日本海で水揚げされるブリは、大きさや脂のりにおいて最高とされる高級食材です。能登地方や関西地方では大晦日に食べる「年取り魚」としても知られています。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 白群 白群的由来

白群是从矿物当中的蓝铜矿为产生出的青色颜料，作为传统颜色在飞鸟时代从中国传来。矿物颜料的粒子越细，色泽就越淡。“白群”也是粒子很小的淡淡的青色。

### 白群的鱼 冬狮鱼

从12月到2月在日本海捕获的狮鱼又大又肥，被当作高级食材。在能登地区和关西地区，作为大年三十吃的“过年鱼”也很有名。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

## 语法

### 1. 把～当成～

#### ～を～とする

- \* 相关语法：～を～にする
- \* 接续：～的部分是名词
- \* 区别：に方向感强；と侧重结果

#### 1. 東京スカイツリーを背景として写真を撮りました。

- \* 以东京天空树为背景照了相。

\* 東京スカイツリー：(0+0+2, 名) 东京天空树

\* 背景：(0, 名) 背景

#### 2. 石川県の金沢市を生活の基盤としてきました。

\* 一直把石川县的金泽市当作生活的基盘。

\* 石川県: (4, 名) 本州島中部地区的县

\* 金沢市: (4, 名) 金泽市

\* 基盤: (0, 名) 基盘

### 3. チンパンジーを対象とする比較認知科学の研究をしています。

\* 正在搞以黑猩猩为对象的比较认知科学的研究。

\* チンパンジー: (3, 名/chimpanzee) 黑猩猩

\* 対象: (0, 名) 对象

\* 比較認知科学: (7, 名) 比较认知科学

\* 研究: (0, 名/他サ) 研究

## 2. 越来越～

～ほど

\* 相关语法: (-ば)～ほど

\* 解释: ば(如果→提及话题→引起注意)+ほど(程度高→越)

\* 意思: 越来越

### 1. 考えれば考えるほど腹が立つ。

\* 越想越生气。

\* 腹が立つ: (2+1) 生气

\* 腹立たしい: (5, 形) 可气的, 令人气愤的. [记]. 腹+立たしい→气得肚子鼓鼓的

### 2. 気温の上昇幅は、北ほど、また高い所ほど大きくなっています。

\* 气温的上升幅度越往北、而且越是高的地方越大。

\* 气温: (0, 名) 气温

\* 上昇幅: (3, 名) 上升幅度

\* 上昇: (0, 名/自サ) 上升

\* 上がる: (0, 自五) 上

### 3. 彼女のことを知れば知るほど好きになる。

\* 越了解越喜欢她。

### 3. 于～的

～において (N3 第 16 课)

\* 解释: ～における

\* 接续: +名词

\* 意思: 于～的

#### 1. 学校における食育の推進と給食の充実を図っています。

\* 力图推进学校的饮食教育和完善学校伙食。

\* 食育: (0, 名) 饮食教育

\* 推进: (0, 名/他サ) 推进

\* 給食: (0, 名) 伙食

\* 充实: (0, 名/自サ) 充实

\* 図る: (2, 他五) 力图. [记]. は(哈→放)+か(开)+る(留→长)→一直吐气→力图

#### 2. ウェブサイトにおけるプライバシー侵害から権利を守る。

\* 保护自己的权力不受网络的隐私侵害。

\* ウェブサイト: (3, 名/website) 网站

\* プライバシー: (2, 名/privacy) 隐私

\* 侵害: (0, 名/他サ) 侵害

\* 権利: (1, 名) 权力

\* 守る: (2, 他五) 守护, 保护, 保守, 遵守. [记]. ま(满→圆)+も(持つ)+る(留→长)→在一个地方寸步不离→宀+寸→守

#### 3. 園内における写真撮影についての貼り紙があります。

\* 園内贴着关于照相内容的纸。

\* 園内: (1, 名) 園内

\* 写真撮影: (4, 名) 照相

\* 摄影: (0, 名/他サ) 摄影

\* 貼り紙: (0, 名) 张贴的纸

## N3 第 30 课 年夜饭里的冬鮰鱼(课文)

びやくぐん  
白群

びやくぐん ゆらい  
白群の由来

こうぶつ 鉱物のアズライトを原料とする青色顔料による伝統色で、飛鳥時代に中国から伝来しました。岩絵の具は粒子が細かくなるほど色味が薄くなります。「白群」も粒子が小さく、淡い青色です。

びやくぐん さかな  
白群の魚

かん 寒ブリ

じゅうにがつ 1 2月から にがつ 2月にかけて 日本海で水揚げされるブリは、大きさや脂のりにおいて最高とされる高級食材です。能登地方や関西地方では大晦日に食べる「年取り魚」としても知られています。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

白群  
白群的由来

白群是从矿物当中的蓝铜矿为产生出的青色颜料，作为传统颜色在飞鸟时代从中国传来。矿物颜料的粒子越细，色泽就越淡。“白群”也是粒子很小的淡淡的青色。

白群的鱼  
冬狮鱼

从12月到2月在日本海捕获的狮鱼又大又肥，被当作高级食材。在能登地区和关西地区，作为大年三十吃的“过年鱼”也很有名。

## N3 第 31 课 日本人最爱的章鱼(单词)

### タコ

日本で食べられているタコのほとんどは、マダコと呼ばれる種類のもので、東北地方から九州の沿岸部に広く生息しています。刺身にはじまり、煮物、和え物、タコ焼きや明石焼きと、日本食におけるタコのメニューはじつに豊富。それもそのはず、日本人は無類のタコ好きで、世界消費量のうち約6割を食べています。旬は夏と冬の2回。産卵期を控えた冬場のタコは身が引き締まり、味が濃厚になります。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 章鱼

在日本吃的章鱼几乎都是叫做真蛸的种类，大面积地生息在东北地区到九州的沿海地区。以刺身为首，煮的菜、凉拌菜、章鱼烧和明石烧等等，日餐当中的章鱼菜谱真是非常丰富。那是当然，没有任何国家的人能像日本人那样喜欢章鱼，日本人消费着章鱼的世界消费量的大约6成。时令是夏天和冬天两次。即将产卵的冬季的章鱼身体紧致、味道浓厚。

### 单词

- \* タコ: (1, 名) 章鱼
- \* マダコ: (2, 0, 名) 真蛸，真章鱼
- \* 種類: (1, 名) 种类
- \* 東北地方: (5, 名) 本州岛东北部地区。青森、岩手、秋田、宫城、山形、福岛，共6个县。
- \* 九州: (1, 名) 九州岛。日本列岛的四大岛屿之一，位于最西南边。福冈、佐贺、长崎、熊本、大分、宫崎、鹿儿岛，共7个县。
- \* 沿岸部: (3, 名) 沿岸地区
- \* 生息: (0, 名/自サ) 生息，栖息
- \* 刺身: (3, 名) 刺身，生鱼片
- \* お造り: (2, 0, 名) 刺身的礼貌用语，过去在关西地区使用。
- \* 生もの: (2, 名) 生的食品
- \* 生: (1, 名) 生，不成熟；原有的状态。[记] な(那)+ま(まま→样子)→那样→生的
- \* 生意気: (0, 名/形动) 自大，狂妄

\* 煮物: (0, 名) 煮的菜肴

\* 煮る: (0, 他上一) (焖, 烩) 煮, 盖盖子煮. [记]. に(凝)+る(留→长)→煲

\* 和え物: (2, 名) 凉拌菜

\* 和える: (2, 他下一) 凉拌

\* タコ焼き: (0, 名) 章鱼烧

\* 明石焼き: (0, 名) 明石烧

\* 日本食: (2, 名) 日本料理

\* メニュー: (1, 名/menu) 菜单, 菜谱

\* (お)品書き: (0, 名) 菜单, 菜谱

\* 献立: (0, 名) 菜单, 菜谱

\* 貢献: (0, 名/自サ) 贡献

\* 献身的: (0, 形动) 献身的, 无私的

\* 豊富: (0, 形动) 丰富

\* 豊か: (1, 形动) 富裕, 丰富. [记]. ゆ(裕)+た(多)+か(加)→丰

\* それもそのはず: (0+4) 应该是那样

\* 無類: (0, 1, 名/形动) 无与伦比

\* 稀: (0, 2, 形动) 稀, 稀少, 稀有. [记]. まれ(慢来)

\* タコ好き: (4, 名) 喜欢章鱼

\* 世界: (1, 名) 世界

\* 消費量: (3, 名) 消费量

\* 消費税: (3, 名) 消费税

\* 約: (1, 副) 大约

\* およそ: (0, 副) 大致, 大约

\* 大体: (0, 名/副) 大致, 大概

\* 大抵: (0, 名/副) 大部分

\* 六割: (2, 名/副)六成

\* 产卵期: (3, 名)产卵期

\* 控える: (3, 自他下一)等候; 守候在旁; 节制, 控制; 面临

\* 冬場: (0, 名)冬季

\* 引き締まる: (4, 自五)紧致; (心情)紧张

\* 引き締める: (4, 他下一)拉紧(绳子、精神等); 缩减(开支). [记]. 引き(引)+締める(系紧)→拉紧

\* 濃厚: (0, 形动)浓厚

## N3 第 32 课 日本人最爱的章鱼(语法)

### タコ

日本で食べられているタコのほとんどは、マダコと呼ばれる種類のもので、東北地方から九州の沿岸部に広く生息しています。刺身にはじまり、煮物、和え物、タコ焼きや明石焼きと、日本食におけるタコのメニューはじつに豊富。それもそのはず、日本人は無類のタコ好きで、世界消費量のうち約6割を食べています。旬は夏と冬の2回。産卵期を控えた冬場のタコは身が引き締まり、味が濃厚になります。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 章鱼

在日本吃的章鱼几乎都是叫做真蛸的种类，大面积地生息在东北地区到九州的沿海地区。以刺身为首，煮的菜、凉拌菜、章鱼烧和明石烧等等，日餐当中的章鱼菜谱真是非常丰富。那是当然，没有任何国家的人能像日本人那样喜欢章鱼，日本人消费着章鱼的世界消费量的大约6成。时令是夏天和冬天两次。即将产卵的冬季的章鱼身体紧致、味道浓厚。

### 语法

#### 1. 在

～における (N3 第 29 课)

##### 1. 1～にかけては

- \* 解释：に(方向)+かける(大面积覆盖→方面)+は(强调→对比性强调)
- \* 接续：+名词
- \* 意思：在～方面
- \* 特点：相比较之后的在～方面

##### 1. 値段は別として、味の良さにかけては、このレストランが一番です。

\* 不说价格，在味道方面，这个西餐厅第一。

\* 値段：(0, 名) 价格

\* 别：(0, 名/形动) 别的；区别；特别

\* 良き：(1, 名) 好；好处，好的地方

\* レストラン：(1, 名/restaurant) 西餐厅

##### 2. 弟は勉強ができないけど、水泳にかけては、誰にも負けない。

\* 弟弟虽然学习不行，但是在游泳上不输给任何人。

\* 水泳: (0, 名/自サ) 游泳

\* 泳ぐ: (2, 自五) 游泳。[记] お(御)+よ(游)+く(方向)+浊音(拖泥带水→水)→游泳

\* 负ける: (0, 自他下一) 输, 败。[记] ま(慢)+け(开)+る(留→长)→败

\* 勝つ: (1, 自五) 赢, 胜。[记] か(加)+つ(次)→添加一次→胜

### 3. 数学にかけては、甥は優れた才能を見せた。

\* 在数学方面侄子显示了出色的才能。

\* 数学: (0, 名) 数学

\* 姪: (0, 名) 侄子; 外甥

\* 優れる: (3, 自下一) 出色, 优秀。[记] すぐ(すぎ→過ぎ)+れ(来)+る(留→长)→超过→出色

\* 才能: (0, 名) 才能

\* 見せる: (2, 他下一) 让看~, 出示; 显示

### 1. 2～にあたって

\* 解释: に(方向)+あたる(大面积接触→方面)

\* 接续: +名词

\* 意思: 在(担当)～(工作)方面; 在～之际

\* 特点: 语气正式

### 1. 発電所の建設にあたって、住民との話し合いが持たれた。

\* 在建设发电站方面, 和居民进行了协商

\* 発電所: (0, 名) 发电站

\* 建設: (0, 名/他サ) 建设

\* 住民: (0, 名) 居民

\* 話し合い: (0, 名) 商量; 交谈; 协商

### 2. 応募にあたっての注意事項をご説明します。

\* 我来说明一下申请时的注意事项。

\* 応募: (0, 名/自サ) 应征, 申请

\* 注意事項: (4, 名) 注意事项

\* 説明: (0, 名/他サ) 说明, 解释

### 3. 入院にあたり必要な持ち物についての手引きがあります。

\* 有关于住院时带必要物品的手册。

\* 入院: (0, 名/自サ) 住院

\* 退院: (0, 名/自サ) 出院

\* 持ち物: (2, 3, 名) 带的物品

\* 手引き: (0, 名) 手册

## N3 第 33 课 日本人最爱的章鱼(课文)

### タコ

日本で食べられているタコのほとんどは、マダコと呼ばれる種類のもので、東北地方から九州の沿岸部に広く生息しています。刺身にはじまり、煮物、和え物、タコ焼きや明石焼きと、日本食におけるタコのメニューはじつに豊富。それもそのはず、日本人は無類のタコ好きで、世界消費量のうち約 6 割を食べているのです。旬は夏と冬の2回。産卵期を控えた冬場のタコは身が引き締まり、味が濃厚になります。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 章鱼

在日本吃的章鱼几乎都是叫做真蛸的种类，大面积地生息在东北地区到九州的沿海地区。以刺身为首，煮的菜、凉拌菜、章鱼烧和明石烧等等，日餐当中的章鱼菜谱真是非常丰富。那是当然，没有任何国家的人能像日本人那样喜欢章鱼，日本人消费着章鱼的世界消费量的大约 6 成。时令是夏天和冬天两次。即将产卵的冬季的章鱼身体紧致、味道浓厚。

## N3 第 34 課 新米上市(单词)

### 真珠色

真珠のよう<sup>はい</sup>にわずかに灰がかった白です。英色名では「パールホワイト」と呼ばれます。

### 真珠色の食べ物

### 新米

春の田植えから 120 日あまり。農家の方の丹精と、自然の恵みがタップリつまつた新米がいよいよ食卓に登場します。ツヤツヤと真珠色に光る炊きたてご飯は、おかずなんていらない最高のごちそうです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 珍珠色

像珍珠一样稍微带有灰颜色的白色。英语叫做珍珠白。

### 珍珠色的食物

### 新米

从春天的插秧开始 120 多天。完全融入了农民的精心和自然的恩惠的新米终于即将上桌。刚做熟的新米散发着晶莹剔透的珍珠色，根本不需要配菜，它是最好的食物。

## 单词

\* 真珠色: (0, 名) 珍珠色

\* 真珠: (0, 名) 珍珠

\* 珠: (2, 名) 珠子

\* 僅か: (1, 名/形动/副) 仅仅

\* 僅かに: (1, 副) 仅仅

\* 灰がかる: (4, 自五) 带有灰色

\* 英色名: (4, 名) 英语关于颜色的名称

\* パールホワイト: (0+2, 名/pearl white) 珍珠白

\* パール: (1, 名/pearl) 珍珠

\* ホワイト: (2, 名/white) 白色

\* 新米: (0, 名) 新米

- \* 米国: (0, 名) 美国
- \* アメリカ: (0, 名) 美国
- \* 田植え: (3, 名) 插秧
- \* 植える: (3, 0, 他下一) 种植. [记]. うえ(上面)+る(留→长)→一直向上长→种植
- \* 余る: (2, 自五) 多余, 剩余, 过于. [记]. あ(上)+ま(满)+る(留)→多余
- \* 農家: (1, 名) 农家, 农民
- \* 方: (1, 名) (礼貌的表达方式) 人
- \* 丹精: (1, 名) 精心, 尽心, 丹城
- \* 丹精をこめて: (1+1) 精心地
- \* 謹厳: (0, 形动) 严谨
- \* 至誠: (0, 1, 名/形动) 至诚
- \* 謹厳にして至誠: 严谨而至诚
- \* 恵み: (0, 名) 恩惠
- \* 恵む: (0, 他五) 施与恩惠; (用被动式) 受到恩惠. [记]. め(美)+く(方向)+浊音(拖泥带水→有关)+む(闷)→美事来了与其有关
- \* 恵まれる: (4, 被动式) 受到恩惠; 幸运
- \* たっぷり: (3, 拟态/副) 多, 满
- \* 詰まる: (2, 自五) 堵塞不通; 挤满; (日程) 排满; 说不出话. [记]. つま(爪)+る(留→长)→用手→塞住
- \* 詰める: (2, 自他下一) 填, 填塞, 塞进; (让空间缩小) 靠紧. [记]. つめ(爪)+る(留→长)→用手→塞
- \* いよいよ: (2, 副) 终于要到
- \* やっと: (0, 副) 终于
- \* ようやく: (0, 副) 终于
- \* とうとう: (1, 副) 终于
- \* 食卓: (0, 名) 饭桌
- \* 机: (0, 名) 书桌
- \* テーブル: (0, 名) 桌子

- \* 登場: (0, 名/自サ) 登场
- \* つやつやと: (1, 3, 0, 拟态/副) 有光泽. [记]. つ(刺)+や(咿呀学语→小) → 小的突出→光泽
- \* 艷: (0, 名) 光泽; 恭维话; 精彩处. [记]. つ(刺)+や(咿呀学语→小) → 小的突出→光泽
- \* つや  
艶やか: (2, 形动) 有光泽
- \* あで  
艶やか: (2, 形动) 艳丽, 娇艳. [记]. あ(明)+で(出)+や(小)+か(加) → 突出的明亮→艳
- \* ひか  
光る: (2, 自五) 发光, 闪光; 出众. [记]. ひ(日)+か(火)+る(留→长) → 发光
- \* ぴかぴか: (2, 1, 0, 拟态/副) (擦拭后发出的光泽) 亮闪闪; (人) 闪闪发光. [记]. ぴ(瞬)+か(火) → 火花飞溅
- \* 炊きたて: (0, 名) 刚烤得
- \* い  
要らない: (3, 形) 不要
- \* い  
要る: (0, 自五) 需要. [记]. い(yi→yao→要)+る(留→长) → 要
- \* ご馳走: (0, 名/他サ) 菜肴; 请客
- \* ご馳走様でした: 饭后语

## N3 第 35 課 新米上市(语法)

### 真珠色

真珠のよう<sup>はい</sup>にわずかに灰<sup>しろ</sup>がかった白です。英色名では「パールホワイト」と呼ばれます。

### 真珠色の食べ物

### 新米

春の田植えから 120 日あまり。農家の方の舟精と、自然の恵みがタップリつまつた新米が  
いよいよ食卓に登場します。ツヤツヤと真珠色に光る炊きたてご飯は、おかずなんていらない  
最高のごちそうです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 珍珠色

像珍珠一样稍微带有灰颜色的白色。英语叫做珍珠白。

### 珍珠色的食物

### 新米

从春天的插秧开始 120 多天。完全融入了农民的精心和自然的恩惠的新米终于即将上桌。刚做熟的新米散发着晶莹剔透的珍珠色，根本不需要配菜，是最好的食物。

## 语法

### 1. 过于

～あまり

\* 解释：余る

\* 意思：过于～而～

\* 接续：按照修饰名词的方法

### 1. 嬉しさのあまり、泣いてしまった。

\* 喜极而泣。

\* 嬉しさ：(2, 名)高兴

\* 泣く：(0, 自五)哭。[记]。な(那→长)+く(哭)→哭(叫)

\* 鳴く：(0, 自五)啼叫，啼鸣

\* 鳴る：(0, 自五)发出声响

## 2. プレゼンの時、緊張のあまり何箇所も間違えてしまった。

\* 研究发表时，(因为)过于紧张，说错了好几个地方。

\* プレゼン：(0, 名/presentation)研究会上的发表

\* 発表：(0, 名/他サ)发表；公布；研究发表

\* 緊張：(0, 名/自サ)紧张

\* 間違える：(3, 他下一)把～弄错。[记]。ま(間)+ち(其)+が(状态)+え(へ→方向)+る(留→长)→其他的状态→弄错

\* 間違う：(3, 自他五)(弄)错。[记]。ま(間)+ち(其)+が(状态)+う(ふ→風→状态)→其他的状态→弄错

## 3. 子供のことを心配するあまり、つい怒鳴ってしまった。

\* 因为过于担心孩子，所以终于没忍住大声嚷嚷。

\* 心配：(0, 名/他サ)担心

\* 怒鳴る：(2, 自五)发脾气；大声怒喊

## 2. 刚

たて

\* 解释：立て→成立→刚刚做得，刚刚做完

\* 接续：动词的连用形+

## 1. 焼きたてのパンはあつあつでふんわり柔らかい。

\* 刚烤得的面包热腾腾地很松软。

\* 焼きたて：(0, 名)刚烤得，刚出炉

\* パン：(1, 名/pao)面包

\* ブレッド：(2, 名/bread)面包，主食面包

\* 食パン：(0, 名)主食面包

\* あつあつ：(0, 拟态/副)热乎乎

\* ふんわり：(2, 拟态/副)松软状；喧腾

\* 柔らかい：(4, 形)柔软的，柔和的。[记]。や(咿呀学语→小)+わ(弯)+ら(拉)+か(加)→小圆→柔

## 2. 映画館でできたてのポップコーンを食べながら映画を楽しんだ。

\* 在电影院一边吃刚出炉的爆米花一边欣赏电影。

\* 映画館: (4, 名) 电影院

\* 映画: (1, 0, 名) 电影

\* できたて: (0, 名) 刚做得

\* ポップコーン: (4, 名/popcorn) 爆米花

\* 楽しむ: (3, 他五) 享受; 期待

### 3. とれたての魚貝類が新鮮で美味しい。

\* 刚捕获的鱼贝类新鲜又美味。

\* とれたて: (0, 名) 刚捕获

\* 魚貝類: (3, 名) 鱼贝类

\* 新鮮: (0, 形动) 新鲜

### 3. 语气助词

～なんて

\* 作用: 代替其他助词

\* 语气: 惊讶/轻视

\* 注意: 可以代替 と/or (名词和名词之间的)

### 1. 携帯に電話をくれるなんて珍しい。

\* 给我手机打电话真是少见。

\* 携帯: (0, 名/他サ) 手机; 携带

\* 持ち歩く: (4, 他五) 携带

\* 珍しい: (4, 形) 少见的. [记]. め(目)+ずら (岐啦→错位→方向) → 看+し(稀) → 少见

### 2. こんなに高価なんて信じられない。

\* 无法相信这么贵。

\* 高価: (1, 名/形动) 高价

### 3. 山田なんて人知らない。

\* 我不知到谁是山田。

## N3 第 36 課 新米上市(课文)

### 真珠色

真珠のよう<sup>はい</sup>にわずかに灰<sup>はい</sup>がかった白<sup>しろ</sup>です。英色名<sup>えいしきめい</sup>では「パールホワイト」と呼ばれます。

### 真珠色の食べ物

### 新米

春の田植えから 120 日あまり。農家の方の丹精と、自然の恵みがタップリつまつた新米が  
いよいよ食卓に登場します。ツヤツヤと真珠色に光る炊きたてご飯は、おかずなんていらない  
最高のごちそうです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 珍珠色

像珍珠一样稍微带有灰颜色的白色。英语叫做珍珠白。

### 珍珠色的食物

### 新米

从春天的插秧开始 120 多天。完全融入了农民的精心和自然的恩惠的新米终于即将上桌。刚做熟的新米散发着晶莹剔透的珍珠色，根本不需要配菜，是最好的食物。

## N3 第 37 课 春天的野餐赏花(单词)

### 野点

伝統的な茶道の作法にとらわれることなく楽しめるお茶会です。花の名所や観光地でよく催され、梅や桜を愛でながら気軽に抹茶と茶菓子を味わいます。また、レジャーシートに座って、魔法瓶の緑茶や麦茶をいただくのも立派な野点茶会。陽光、空、風、花の香り。自然を感じながら、待ちわびた春を存分に満喫しましょう。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 野外茶会

野外茶会是不受传统茶道做法的限制、能够让人享受的茶会。在鲜花的名胜地和观光地经常举办野外茶会，一边欣赏梅花和樱花，一边轻松愉快地品尝抹茶和茶点。还有，坐在户外铺的垫子上喝着保温杯里的绿茶或是大麦茶也都是很棒的野外茶会。阳光、天空、风、花香。一边感受大自然，一边充分享受期待已久的春天吧。

### 单词

\* 野点: (0, 名) 在野外举行的品茶会

\* 作法: (1, 名) 礼节上的做法，礼法

\* エチケット: (3, 1, 名/法语) 礼仪做法

\* 行儀: (0, 名) 日常行为的规范

\* 行儀悪い: (5, 形) 没规矩

\* 捕らわれる/囚われる: (4, 自下一) 受限制；局限于

\* 茶会: (0, 名) 品茶会

\* 名所: (0, 3, 名) 名胜，有名的地方

\* 旧跡: (0, 名) 古迹

\* 名所旧跡: (4, 名) 名胜古迹

\* 观光地: (3, 名) 观光地

\* 观光: (0, 名) 观光

\* 催す: (3, 0, 他五) 举办，主办，举行。[记] も(物)+よ(悠)+お(置く)+す(做) → 把东西拿来放到一起 → 举办展示会

\* 催し会場: (5, 名) 举办的会场

\* 開催: (0, 名/他サ) 举办

\* 開く: (2, 自他五) 开, 拉开, 打开, 开设

\* 梅: (0, 名) 梅花

\* 红梅: (0, 名) 红梅

\* 白梅: (0, 名) 白梅

\* 樱: (0, 名) 樱花

\* 愛する: (2, 他下一) 欣赏; 疼爱; 赞叹. [记]. め(美)+する(出る)→出来美→欣赏

\* 気軽に: (0, 副) 轻松地

\* 气乐: (0, 形动) 轻松自由

\* 抹茶: (0, 名) 抹茶

\* 茶菓子: (2, 名) 喝茶时吃的点心

\* 味わい: (0, 名) 食物的味道; 事物的乐趣、趣味

\* 情趣: (1, 名) 情趣

\* 情趣豊か: (1, 形动) 情趣盎然

\* 趣: (0, 名) 情趣; 趣味; 中心思想. [记]. おも(主)+むき(向き)→主要的方向

\* 赴く: (3, 自五) 奔赴; 面向. [记]. おも(面)+むく(向く)→面向

\* レジャーシート: (4, 名/leisure sheet) 户外铺在地上的垫子

\* レジャー: (1, 名/leisure) 娱乐

\* シート: (1, 名/sheet) 单子

\* 魔法瓶: (2, 名) 保温杯

\* 水筒: (0, 名) 水壶

\* 出納: (0, 名) 出纳

\* 纳豆: (0, 名) 纳豆

\* 纳戸: (0, 3, 名) 储藏室

- \* 緑茶: (0, 名) 绿茶
- \* 紅茶: (0, 名) 红茶
- \* 麦茶: (2, 名) 麦茶
- \* 麦: (1, 名) 麦. [记]. むき(剥く)+浊音(拖泥带水→有关)→麦子需要几次剥皮→麦子
- \* 大麦: (0, 3, 名) 大麦
- \* 小麦粉: (2, 0, 名) 小麦粉
- \* 立派: (0, 形动) 出色; 大大方方; 壮(观)
- \* 野点茶会: (4, 名) 野外茶会
- \* 陽光: (0, 名) 阳光
- \* 太陽の光: (1+0, 名) 阳光
- \* 香り: (0, 名) 香气, 芳香. [记]. か(花)+お(ほ→ほう→放)+る(长)→从花里释放出来的→花香
- \* 香る/薰る: (0, 自五) 发出香气
- \* 風薰る五月: (1+2+1) 风里带着花香的五月
- \* 待ち侘びる: (0, 4, 他上一) 等得心里担心. [记]. 待ち(等待)+侘びる(悲观; 寂寞)→等得心里不安
- \* 侘しい: (3, 形) 孤寂的; 贫寒的; 凄凉的
- \* 寂しい: (3, 形) 寂寞的, 孤单的. [记]. さ(飒→清)+び(微)+し(像)→清, 小→孤单
- \* 存分に: (0, 副) 尽情, 尽兴
- \* 満喫: (0, 名/他サ) 充分享受; 充分吃喝玩乐
- \* 堪能: (0, 形动/自他サ) 精通; 充分享受而满足

## N3 第38课 春天的野餐赏花(语法)

### 野点

伝統的な茶道の作法にとらわれることなく楽しめるお茶会です。花の名所や観光地でよく催され、梅や桜を愛でながら気軽に抹茶と茶菓子を味わいます。また、レジャーシートに座って、魔法瓶の緑茶や麦茶をいただくのも立派な野点茶会。陽光、空、風、花の香り。自然を感じながら、待ちわびた春を存分に満喫しましょう。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 野外茶会

野外茶会是不受传统茶道做法的限制、能够让人享受的茶会。在鲜花的名胜地和观光地经常举办野外茶会，一边欣赏梅花和樱花，一边轻松愉快地品尝抹茶和茶点。还有，坐在户外铺的垫子上喝着保温杯里的绿茶或是大麦茶也都是很棒的野外茶会。阳光、天空、风、花香。一边感受大自然，一边充分享受期待已久的春天吧。

### 语法

#### 1. 没有～的情况

～ことなく

\* 意思：没有～的情况

\* 接续：动词的简体

#### 1. 彼は一日も休むことなく小説を書き続けている。

\* 他没有一天休息一直在写小说。

\* 小説：(0, 名) 小说

\* 小説家：(0, 名) 小说家

\* 書き続ける：(5, 他下一) 持续写，一直写

#### 2. 彼女は何度失敗しても諦めることなく研究に励んでいる。

\* 她虽然失败了数次，但是没有放弃，一直努力搞研究。

\* 失敗：(0, 名/自サ) 失败

\* 諦める：(4, 他下一) 放弃

\* 励む：(2, 自五) 努力。[记] は(哈→吐)+け(氣)+浊音(加重)+む(闷)→用力吐气→努力

\* 励ます：(3, 他五) 鼓励

\* 励まし: (0, 名) 鼓励

### 3. 失敗を恐れることなく、前に進んでいます。

\* 不怕失败，一直前行。

\* 恐れる: (3, 他下一) 害怕

\* 恐れがある: (0+1) 恐怕

\* 恐らく: (2, 副) 恐怕

\* 恐ろしい: (4, 形) 可怕的，恐怖的

## 2. 顺接、逆接

-ながら

\* 解释: 一边～一边～; 等于が(顺接/逆接)或から(从～)

\* 接续: 动词的连用形/形容词+; 名词/形容动词(+であり)+ながら

### 1.あの老舗は創業以来の伝統を受け継いで、昔ながらの味を保っています。

\* 那个老字号继承着创业以来的传统，保持着过去的味道。

\* 老舗: (0, 名) 老店. [记]. し(す→做)+にせ(似せる→使相似)→与过去的方法做得相似→老店

\* 創業: (0, 名/自サ) 创业

\* 以来: (1, 名/副) 以来

\* 創業以来: (5, 名/副) 创业以来

\* 受け継ぐ: (3, 0, 他五) 继承

\* 保つ: (2, 他五) 保持. [记]. た(多)+持つ→一直拿着→保持

### 2.いつもながらの温かいご配慮に心より感謝いたします。

\* 衷心感谢您一直以来温暖的关心。

\* 配慮: (1, 名/自他サ) 关心，关怀

\* 感謝: (1, 名/自他サ) 感谢

### 3.狭いながら(も)楽しい我が家です。

\* 我们家虽然很小但是很快乐。

\* 我家: (1, 名) 我们家

\* 吉田家: (3, 名) 吉田家

#### 4. 最新の技術でありながら、伝統的な文化や技術が生かされている。

\* 虽然是最新的技术，但是发挥着传统的文化和技术。

\* 最新: (0, 名) 最新

\* 技術: (1, 名) 技术

\* 生かす: (2, 他五) 发挥

#### 5. デザインはシンプルながらも存在感がある。

\* 设计虽然朴素但是有存在感。

\* デザイン: (2, 名/design) 设计

\* シンプル: (1, 形动/simple) 朴素简洁

\* 存在感: (2, 名) 存在感

## N3 第 39 课 春天的野餐赏花(课文)

### の だて 野 点

伝統的な茶道の作法にとらわれることなく楽しめるお茶会です。花の名所や観光地でよく催され、梅や桜を愛でながら気軽に抹茶と茶菓子を味わいます。また、レジャーシートに座って、魔法瓶の緑茶や麦茶をいただくのも立派な野点茶会。陽光、空、風、花の香り。自然を感じながら、待ちわびた春を存分に満喫しましょう。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 野外茶会

野外茶会是不受传统茶道做法的限制、能够让人享受的茶会。在鲜花的名胜地和观光地经常举办野外茶会，一边欣赏梅花和樱花，一边轻松愉快地品尝抹茶和茶点。还有，坐在户外铺的垫子上喝着保温杯里的绿茶或是大麦茶也都是很棒的野外茶会。阳光、天空、风、花香。一边感受大自然，一边充分享受期待已久的春天吧。

## N3 第 40 课 老人的卧床不起(单词)

日本では、老人の割合が増えるにつれて、寝たままで立ち上がる做不到、いわゆる「寝たきり」老人が増えている。老人の病気の多くは年齢による老化が原因なので、完全には治らない。だが、病気がよくなってきたら、できるだけベッドから離れ、人の助けを借りたり自分の力でいろいろなことを行うようにし、病気と上手に付き合っていくことが必要だろう。そういう努力をさせないのでは、「寝かせきり」と批判されるのは当然である。

在日本，随着老人比例的增加，一直躺着不能站起来、也就是所谓的“卧床不起”的老人一直在增加。老人生病大多是由年龄而来的老化，所以无法完全治愈。但是，病逐渐好了以后，就要尽量离开床，或是借助别人的帮助或是通过自己的能力做各种事情，必须要很好地与病相处。如果不让老人做这样的努力，当然就会被批评是“让老人卧床不起”了。

### 单词

\* 老人: (0, 名)老人

\* 浪人: (0, 名/自サ)浪人；考试落榜补习再考的学生

\* 割合: (0, 名)比例，比率

\* 比率: (0, 名)比率，比例

\* 增える: (2, 自下一)增加，增多。[记] ふ(富)+え(挨)+る(留→长)→增

\* 増やす: (2, 他五)使增加，使增多。[记] ふ(富)+や(养→给)+す(做)→吹起来→增加

\* 増加: (0, 名/自他サ)增加

\* 立ち上がる: (4, 0, 自五)站起来

\* 所謂: (3, 2, 连体)所谓。[记] いわ(言う)+ゆ(裕)+る(的)→所谓的

\* いわば: (2, 1, 0, 副)所谓，可以说，说起来，可谓是

\* 病気: (0, 名/自サ)病；生病

\* 病: (1, 名)病

\* 多く: (1, 名/副)多，很多

\* 年齢: (0, 名)年龄

- \* 年: (2, 名)年; 岁月; 年龄; 上年纪
- \* 老化: (0, 名/自サ)老化
- \* 原因: (0, 名)原因
- \* 完全: (0, 名/形动)完全
- \* 治る: (2, 自五) (治)好, 治愈. [记]. な(那)+おる(折る)→折回那样→治
- \* 治す: (2, 他五)治(好), 治愈
- \* 完治: (1, 名/自サ)完全治好, 完全治愈
- \* できるだけ: (0, 副)尽量, 尽可能
- \* ベッド: (1, 名/bed)床
- \* 離れる: (3, 自下一)离开; 相隔. [记]. は(哈→放)+な(那→长)+れ(来)+る(留)→放出去→离开
- \* 引き離す: (4, 他五)拉开
- \* 助ける: (3, 他下一)帮助, 救助, 援助
- \* 助け: (3, 名)帮助, 救助
- \* 助かる: (3, 自五)得到帮助
- \* 手伝う: (3, 自他五)帮忙, 帮助; 添加影响. [记]. て(手)+つ(次)+た(他)+浊音(拖泥带水→有关)+う(状态)→把手给他→帮
- \* 手伝い: (3, 名)帮助; 帮手; 帮工
- \* お手伝いさん: (2, 名)帮工
- \* ヘルパー: (1, 名/helper)帮工; 护工
- \* 借りる: (3, 0, 他上一)把~借来. [记]. か(加)+り(れ→来)+る(留→长)→借来
- \* 貸す: (2, 0, 他五)把~借出去. [记]. か(加)+す(做)→给别人添加→借出
- \* 借り家: (0, 名)租的房子; 借来的房子
- \* 借家: (0, 名)租的房子; 借来的房子
- \* 力: (3, 名)力气, 体力; 实力. [记]. ち(齐)+か(加)+ら(拉)→全都拉过来→力气
- \* 力になる: (3+1)给力

- \* 賴もしい: (4, 形) 可靠的, 靠得住的; 有出息的. [记]. たのも(頼む)+し(像)→可靠
- \* パワー: (1, 名/power) 力量; 力度
- \* パワフル: (1, 形动/powerful) 强有力
- \* 力強い: (5, 形) 强有力的
- \* 行う: (0, 他五) 举行, 实行. [记]. おこ(起くる→发生)+な(那)+う(状态)→使发生→举行
- \* 付き合う: (3, 自五) 交往; 交际; 相处
- \* 上手に付き合う: 好好地与它相处
- \* そういう: (0, 连体) 那样的; こういう(0, 这样的)、ああいう(0, 那样的)、どういう(1, 怎样的)
- \* 努力: (1, 名/自他サ) 努力
- \* 励み: (3, 名) 动力
- \* 励まし: (0, 名) 鼓励
- \* 批判: (0, 名/他サ) 批评; 批判
- \* 叱る: (0, 他五) 批评; 斥责. [记]. し(死→强烈)+か(加)+る(留→长)→语气强烈→口+匕→叱
- \* 怒る: (2, 自五) 生气, 发怒. [记]. お(い→意→意识)+こ(か→火)+る(留→长)→意识上着火→生气
- \* 褒める/誉める: (2, 他下一) 表扬, 赞扬; 给予荣誉. [记]. ほ(笑声)+め(目)+る(留)→看上去在笑→表扬
- \* 叱られる: (4, 被动式) 被批评
- \* 怒られる: (4, 被动式) 被批评; 别人跟我生气
- \* 褒められる: (4, 被动式) 被表扬
- \* 当然: (0, 名/形动/副) 当然
- \* 当たり前: (0, 名/形动) (理所) 应当. [记]. 当たり(相当于)+前(一份儿)→将共同劳动的收获分给每人时的所得→理所应当

## N3 第 41 课 老人的卧床不起(语法)

日本では、老人の割合が増えるにつれて、寝たままで立ち上ることのできない、いわゆる「寝たきり」老人が増えている。老人の病気の多くは年齢による老化が原因なので、完全には治らない。だが、病気がよくなってきたら、できるだけベッドから離れ、人の助けを借りたり自分の力でいろいろなことを行うようにし、病気と上手に付き合っていくことが必要だろう。そういう努力をさせないのでは、「寝かせきり」と批判されるのは当然である。

在日本，随着老人比例的增加，一直躺着不能站起来、也就是所谓的“卧床不起”的老人一直在增加。老人生病大多是由年龄而来的老化，所以无法完全治愈。但是，病逐渐好了以后，就要尽量离开床，或是借助别人的帮助或是通过自己的能力做各种事情，必须要很好地与病相处。如果不让老人做这样的努力，当然就会被批评是“让老人卧床不起”了。

### 语法

#### 1. 随着～

～について

- \* 解释：に(方向)+つれて(連れる→帶着)
- \* 意思：随着～
- \* 语气：柔和
- \* 接续：动词的简体/名

1. 年をとるについて、友達を作るのが難しくなっていきます。

- \* 随着年龄的增长，越来越难交朋友了。

2. 時間が経つについて人間の本性が露になってくる。

- \* 随着时间的推移，人的本性会逐渐暴露出来。
- \* 人間：(0, 名) 人，人类
- \* 本性：(1, 3, 名) 本性
- \* 露：(1, 0, 形动) 显露、暴露

3. 経験を積むについて知恵が更に身に付く。

- \* 随着经验的积累，会更加智慧。
- \* 経験：(0, 名/他サ) 经验；经历

\* 積む: (0, 他五) 堆积(东西); 积累(经验). [记]. つ(次)+む(闷)→一次闷→积累

\* 知恵: (2, 名) 智慧

\* 更に: (1, 副) 更加

\* 浚う: (0, 他五) 治理河床. [记]. さ(砂)+ら(拉)+う(状态)→拉走沙子→治理河床

\* 攫う: (0, 他五) 独占(话题、人气、优胜). [记]. さ(砂)+ら(拉)+う(状态)→拉走沙子→水独占河床→独占

\* 晒す/曝す: (0, 他五) 使暴露在某种情况下

\* お皿: (0, 名) 盘子

#### 4. 実力が付くにつれて、自信も備わってきた。

\* 随着拥有了实力，变得拥有了自信。

\* 実力: (0, 名) 实力

\* 自信: (0, 名) 自信

\* 備わる: (3, 自五) 准备; 具备; 配备; 装备. [记]. そ(其)+な(那)+わ(あ→上)+る(留)→往那个上→具有

\* 備える: (3, 他下一) 做准备; 具备; 配备; 装备; 防备. [记]. そ(其)+な(那)+え(挨)+る(留)→往那个上→使具有

\* 備え: (3, 2, 名) 准备; 防备

\* 兼ね備える: (5, 他下一) 兼备

#### 5. 発表が近付くにつれて緊張感が増してくる。

\* 随着发表的接近，越来越紧张。

\* 近付く: (3, 0, 自五) 靠近，临近，近似. [记]. 近+付く(着く→到)→靠近

\* 近寄る: (3, 0, 自五) 挨近，靠近. [记]. 近+寄る(靠)→靠近

\* 近付ける: (4, 0, 他下一) 使靠近，使临近. [记]. 近+付ける(使附着)→使靠近

\* 緊張感: (3, 名) 紧张感

\* 緊張: (0, 名/自サ) 紧张

\* 慌てる: (0, 自下一) 慌张. [记]. あ(啊)+わ(あ→啊)+て(手→方向)+る(留)→慌张时发出的声音“啊”

\* 増す: (0, 自他五) (古语) 增加, 增多. [记]. ま(满)+す(做)→增加

## 2. 动作的终结

一たきり

\* 解释: た(了)+きり(切り→切断)→做了以后动作中断

\* 接续: 动词的た形

1. 彼は日本に行ったきり、帰って来なかつた。

\* 他去了日本再没回来。

2. 中田さんは去年一度会ったきり顔を見て(い)ない。

\* 和中田去年见过一次, 之后再没见过面。

3. 「あとで電話する」と言ったきり、全然連絡をくれない。

\* 说了“一会儿打电话”就再没跟我联系。

4. 歴史は高校時代習ったきり、ほとんど忘れてしまった。

\* 高中时期学过历史, 之后几乎全忘了。

5. 二人(つ)きりで話し合おう。

\* 就我们两个人谈谈吧。

## N3 第 42 課 老人的卧床不起(課文)

日本では、老人の割合が増えるにつれて、寝たままで立ち上がる做不到、いわゆる「寝たきり」老人が増えている。老人の病気の多くは年齢による老化が原因なので、完全には治らない。だが、病気がよくなってきたら、できるだけベッドから離れ、人の助けを借りたり自分の力でいろいろなことを行うようにし、病気と上手に付き合っていくことが必要だろう。そういう努力をさせないのでは、「寝かせきり」と批判されるのは当然である。

在日本，随着老人比例的增加，一直躺着不能站起来、也就是所谓的“卧床不起”的老人一直在增加。老人生病大多是由年龄而来的老化，所以无法完全治愈。但是，病逐渐好了以后，就要尽量离开床，或是借助别人的帮助或是通过自己的能力做各种事情，必须要很好地与病相处。如果不让老人做这样的努力，当然就会被批评是“让老人卧床不起”了。

## N3 第 43 课 田间的青蛙(单词)

### 畦の蛙

た みずべ かえる  
田んぼの水辺からこんもり盛り上がり<sup>あ</sup>がっている蛙。田と田の間の畦道を歩いて<sup>いる</sup>いると、水面へぴよんと飛ぶ、小さな蛙がいるのに気づきます。人の気配におどろいて、蛙が草むらから飛び出します。  
ひとあし あぜ かえる  
一足ごとに畦からとびだす蛙。そのたびに子供は佇立し、又あわてて蛙のあとを追ったが、蛙はすべて巧みに彼をのがれて水田へ飛びこんだ。

永瀬清子「蛙」より  
(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

从田地的水边圆圆地鼓起的青蛙。如果一直走在田间小路就能注意到轻盈地跳到水面的小青蛙。被人的迹象吓了一跳，青蛙从草丛中跳起来。

走一步就有青蛙从田间小路跃起。每次孩子都好一阵子站着不动，一会儿又慌忙地去追青蛙，但是青蛙总是巧妙地避开他跳入水田。

### 单词

\* 畦: (2, 1, 名)田间小路. [记]. あ(あいだ→間)+ぜ(せ→塞)→夹在田中间的路

\* 畦道: (2, 名)田间小路

\* 蛙: (0, 名)青蛙

\* 田: (1, 名)水田

\* 田んぼ: (0, 名)水田/んぼ→亲切或随便的称呼

\* 水田: (0, 名)水田

\* 畑: (0, 名)旱田. [记]. はた(旱田)+け(こ→地方)→火+田→畠

\* 水辺: (0, 名)水边

\* 窓辺: (0, 名)窗边

\* こんもり: (3, 拟态) (树木等)茂盛; (山丘等)鼓起. [记]. こ(き→木)+も(猛); こ(鼓)+も(猛)

\* 盛り上がる: (4, 自五)高涨; 情绪高涨, (谈得)热闹, 热烈. [记]. 盛る+上がる→猛烈上升

\* もり上げる: (4, 他下一)把~堆积; 使(气氛、情绪)高涨. [记]. 盛り+上げる→使猛烈上升

\* 水面: (0, 名)水面

- \* びょんと: (1, 拟态)轻快地跳跃状
- \* 小さな: (1, 连体)小的, 小巧的
- \* 気付く: (2, 自五)注意到. [记]. 気(意)+付く(注)→注意
- \* 気配: (1, 2, 名)迹象, 苗头
- \* 驚く: (3, 自五)惊讶, 吃惊. [记]. お(大)+ど(哆嗦)+ろ(落)+く(方向)→落魄→惊
- \* 草むら: (0, 名)草丛
- \* 芝生: (0, 名)草坪. [记]. し(芝)+ば(把→一把)+ふ(铺)→草坪
- \* 飛び出す: (3, 自五) (人)窜出, 冲出, 跳出
- \* 飛び出る: (3, 自下一) (人、物)窜出, 跳出
- \* 一足: (2, 数量)一步
- \* 一足違い: (5, 名)差一步
- \* 停立: (0, 名/自サ)伫立。好一阵子站着不动
- \* 停む: (3, 自五)伫立. [记]. たた(立つ)+ず(吱啦一声→错位→动)+む(闷→不)→站着不动→伫立
- \* 停まい: (3, 0, 名)站着的样子; 伫立的感觉
- \* 又: (0, 副)又, 还, 再(重新的开始)
- \* 慌てる: (0, 自下一)慌张, 慌忙
- \* 跡: (1, 名)足迹; 痕迹. [记]. あ(あし→足)+と(ところ→亦)→足+亦→跡
- \* 追う: (0, 自五)追, 追赶, 轰走, 驱赶. [记]. お(根据嘴型→圆→驼背→后背)+う(状态)→追逐, 追随
- \* すべて: (1, 副/名)完全. [记]. す(所)+べ(辺)+て(手)→所有
- \* 巧み: (0, 形动)巧妙; 精巧. [记]. た(多)+く(方向)+み(身→东西)→手工多→精巧
- \* 逃れる: (3, 自下一)逃跑, 逃脱; 逃避(责任). [记]. の(な→那→长→兆)+が(状态)+れ(来)+る(留→长)→逃
- \* 逃す: (2, 他五)让~逃走; 错过(机会); (前接动词连用形)漏掉
- \* 逃げる: (2, 自下一)逃(走, 跑), (脱)逃

\* 飛び込む: (3, 自五) 跳入; 突然闯入; 投入

## N3 第 44 课 田间的青蛙(语法)

### 蛙の蛙

た みずべ もりあ かえる た た あいだ あぜみち ある すいめん  
田んぼの水辺からこんもり盛り上がり<sup>あがつて</sup>いる蛙。田と田の間の畦道を歩いて<sup>歩いて</sup>いると、水面へ<sup>ひ</sup>  
よんと飛ぶ、小さな蛙がいるのに気づきます。人の気配におどろいて、蛙が草むらから飛び出します。  
ひとあし あぜ かえる こども ちよりつ また かえる お かえる  
一足ごとに畦からとびだす蛙。そのたびに子供は佇立し、又あわてて蛙のあとを追ったが、蛙  
はすべて巧みに彼をのがれて水田へ飛びこんだ。

永瀬清子「蛙」より  
(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

从田地的水边圆圆地鼓起的青蛙。如果一直走在田间小路就能注意到轻盈地跳到水面的小青蛙。被人的迹象吓了一跳，青蛙从草丛中跳起来。

走一步就有青蛙从田间小路跃起。每次孩子都好一阵子站着不动，一会儿又慌忙地去追青蛙，但是青蛙总是巧妙地避开他跳入水田。

### 语法

#### 1. 每～

-ごとに

- \* 解释: 每+に(副词)
- \* 意思: 每～
- \* 语气: 正式
- \* 接续: 数量词/名词+

#### 1. オリンピックは4年ごとに開催されます。

- \* 奥林匹克运动会每4年召开(一次)。
- \* オリンピック: (4, 名/Olympic) 奥林匹克运动会
- \* 五輪: (0, 名) 奥林匹克运动会
- \* 五輪大会: (4, 名) 奥林匹克运动会
- \* 開催: (0, 名/他サ) 召开

#### 2. 1週間にごとにジムに通っています。

- \* (我)每周去健身。
- \* 每週: (0, 名/副) 每周
- \* ジム: (1, 名/gym) 健身房

\* かよ  
通う: (3, 0, 自五) 来回. [记]. か(加)+よ(悠)+う(状态) → 悠来悠去 → 来回

### 3. 日毎に木の葉が色着く。

\* 每天树叶在着色。

\* 日毎に: (0, 副) 每天

\* 每日: (1, 名/副) 每天

\* 木の葉: (1, 名) 树叶

\* 木の葉: (1, 名) 冬天掉落的树叶

\* 色着く: (3, 自五) (树叶等) 着色; (果实) 成熟

### 4. そこは四季ごとにいつも新鮮な驚きを訪れる人に与えている。

\* 那里四季都会给来访的人新鲜感(新的惊讶)。

\* 四季: (2, 1, 名) 四季

\* 新鮮: (0, 形动) 新鲜

\* 驚き: (0, 4, 名) 惊讶

\* 訪れる: (4, 自下一) 拜访; 到来, 来临. [记]. お(御)+と(ところ→地方)+ずれ(岐啦一声→错位)+る(留→长) → 到某地

\* 与える: (0, 他下一) 给与, 授予. [记]. あ(上)+た(他)+え(挨)+る(留→长) → 给他人

### 5. その庭園は季節ごとに訪れる人々の目を楽しませている。

\* 那个庭园每个季节都会让来访的人(感觉)养眼。

\* 季節: (2, 1, 名) 季节

\* 人々: (2, 名) 人们

\* 目を楽しませる: (1+5) 养眼

\* 耳を楽しませる: (2+5) 悅耳

\* 心を楽しませる: (2, 3+5) 赏心

\* 心と目を楽しませる: (2, 3+5) 赏心悦目

## 2. 每次～

～たびに

\* 解释: 度(次/回)+に(副词)→每次

\* 口语: たんびに

\* 接续: 名词+の+; 动词的基本型

### 1. 石の上を一步一歩進む度に景観が変化するように配慮されている。

\* 考虑到在石头上每走一步都会看到不同的景观。

\* 石: (2, 名)石头, 石子; 宝石. [记]. い(一)+し(石)→一块石头

\* 一步: (1, 数量)一步

\* 景觀: (0, 名)景观

\* 変化: (1, 名/自サ)变化

\* 配慮: (1, 名/自他サ)留意; 照顾; 关照

### 2. 現代美術の代表として時代を追う度に評価が高まっている。

\* 作为现代美术的代表, 历经每一个时代, 评价都在上升。

\* 現代美術: (5, 名)现代美术

\* 現代: (1, 名)现代

\* 美術: (1, 名)美术

\* 代表: (0, 名/他サ)代表

\* 時代: (0, 名)时代

\* 追う: (0, 他五)追, 追赶, 轰走, 驱赶. [记]. お(根据嘴型→圆→驼背→后背)+う(状态)→追

\* 評価: (1, 名/他サ)评价

\* 高まる: (3, 自五)变高, 得到提高, 增高

\* 高める: (3, 他下一)使提高, 使增高, 使增加

### 3. 檢討の度に、案が練り上げられていく。

\* 每次商讨, 方案每次逐渐被推敲成型。

\* 檢討: (0, 名/他サ) 商讨, 研究一下

\* 案: (1, 名) 方案

\* 練り上げる: (4, 他下一) 推敲(好)

\* 練る: (1, 他五) 炼; 和面; 加工; 推敲; 积累(经验、素养等). [记]. ね(粘)+る(留→长)→粘性大→加火炼制

#### 4. 注意される度に、人間的に成長する。

\* 每次被提醒, 每次都成长。

\* 注意: (1, 名/自他サ) 注意; 提醒

\* 人間的: (0, 形动) 人类的; 人道的; 人性化的

\* 成長: (0, 名/自サ) 成长; 成熟

#### 5. 彼と会うたびに、心の安らぎと慰めが得られる。

\* 每次见到他都能得到心理的安静和慰藉(安慰)。

\* 安らぎ: (0, 名) 安宁, 安静

\* 安らぐ: (3, 自五) 心情安静

\* 慰め: (0, 名) 安慰, 慰藉

\* 慰める: (4, 他下一) 安慰, 慰藉. [记]. なぐ(なご→和)+さ(飒→轻)+める(む→闷)→安慰

\* 得る: (1, 他下一) 得到. [记]. え(挨)+る(留→长)→得

## N3 第 45 课 田间的青蛙(课文)

### あぜ かえる 畦の蛙

た みずべ かえる た た あいだ あぜみち ある すいめん  
田んぼの水辺からこんもり盛り上がり<sup>あ</sup>がっている蛙。田と田の間の畦道を歩いていると、水面へぴ  
よんと飛ぶ、小さな蛙がいるのに気づきます。人の気配におどろいて、蛙が草むらから飛び出します。  
ひとあし あぜ かえる こども ちょりつ また かえる お かえる  
一足ごとに畦からとびだす蛙。そのたびに子供は佇立し、又あわてて蛙のあとを追ったが、蛙  
はすべて巧みに彼をのがれて水田へ飛びこんだ。

永瀬清子「蛙」より  
(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

从田地的水边圆圆地鼓起的青蛙。如果一直走在田间小路就能注意到轻盈地跳到水面的小青蛙。被人的迹象吓了一跳，青蛙从草丛中跳起来。

走一步就有青蛙从田间小路跃起。每次孩子都好一阵子站着不动，一会儿又慌忙地去追青蛙，但是青蛙总是巧妙地避开他跳入水田。

## N3 第 46 课 闭塞时期的颜色(单词)

### 栗梅

江戸時代中期、8代将軍徳川吉宗の時代に流行した、赤みのある栗色です。当時は享保の改革によって贅沢や華美な色が禁止されていました時代。規制と庶民の閉塞感を反映したせいか、あまり派手な色あいではありません。当時発行されていた遊郭の手引書には、遊客の小紋や羽織の色によいと記されています。「梅」の字は梅染めをあらわし、梅の木の幹を刻んで染料としていました。同時に、紅梅の花の色味を表現しているともいわれています。この色にかぎらず、「梅」がつく色名の多くは赤みがかったり特徴です。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 栗梅

江戸时代中期，在第8代将军德川吉宗的时代流行着带有红色的栗子颜色。当时由于享保改革，一直禁止奢侈和华美的颜色。也许是因为反映了规制和庶民的闭塞感，所以栗梅不是太花哨的颜色。当时发行的烟花巷指南里记载着栗梅适合游客衣装上的小花纹以及和服外褂的颜色。“梅”字表示梅花染色，将梅花树的树干剁碎后做成染料使用。同时，据说也表现了红梅的花朵的色调。不仅限于这个颜色，特点是带有“梅”字的颜色名称中有很多都带有红色。

### 单词

- \* 江戸時代: (3, 名) 1603年徳川家康任征夷大将军至1867年第15代将军徳川庆喜将大政奉还，以江戸为政治中心的时代。也叫徳川时代。
- \* 中期: (1, 名) 中期
- \* 将军: (0, 名) 将军
- \* 德川吉宗: (2+2, 名) (1684-1751) 德川幕府第8代将军(1716-1745在位)。实行了完善法令、进行新田开发等措施。被称为幕府中兴之祖。
- \* 時代: (0, 名) 时代
- \* 流行: (0, 名/自サ) 流行
- \* 流行る: (2, 自五) 流行
- \* 赤み: (0, 名) 红色，红的程度
- \* 栗色: (0, 名) 像栗子皮一样的带有黑色的茶色

- \* 当時: (1, 名/副) 当时
- \* 享保の改革: (0+0, 名) 享保改革。享保年间(1716-1736)第8代将军德川吉宗进行的以重建财政为目的的政治改革。主要内容为建立贡米制、职俸制、灾年地租减免制、开荒制及发行优质金银货币等。
- \* 保存: (0, 名/他サ) 保存
- \* 褒める: (2, 他下一) 表扬
- \* 褒美: (0, 名) 奖赏; 称赞
- \* ご褒美: (2, 名) 奖赏
- \* 贅沢: (3, 4, 名/形动) 奢侈; 奢望
- \* 極める: (3, 他下一) 到极限, 达到顶峰. [记]. き(切る)+わ(完)+める(む→闷)→极
- \* 贅沢を極める: (4+3) 极尽奢华
- \* 極めて: (2, 副) 极其
- \* 华美: (1, 形动) 华美
- \* 禁止: (0, 名/他サ) 禁止
- \* 規制: (0, 名) 规制
- \* 庶民: (1, 名) 庶民
- \* 閉塞感: (4, 名) 闭塞感
- \* 反映: (0, 名/自他サ) 反映
- \* 派手: (2, 形动) 花哨; 突出, 夸张; 热闹
- \* 発行: (0, 名/他サ) 发行
- \* 遊郭: (0, 名) 烟花巷
- \* 遊客: (0, 名) 游手好闲的人; 游客; 嫖客
- \* 観光客: (0, 名) 游客
- \* 手引書: (0, 4, 名) 入门; 指南
- \* 小紋: (1, 2, 名) 纺织品上印染的小碎花纹

- \* 羽織: (0, 名) 和服外面穿的褂子
- \* 羽織る: (2, 他五) 披上(外衣)
- \* 織る: (1, 他五) 织, 编织, 纺织. [记]. オ(根据嘴型→圆→折→织)+る(留→长)→编织
- \* 折る: (1, 他五) 使折, 使折叠, 使折断. [记]. オ(根据嘴型→圆)+る(留→长)→画圆圈→折
- \* 折れる: (2, 自下一) 折断, 弯曲; 折叠
- \* 記する: (2, 他サ) 记下来
- \* 記す: (0, 2, 他五) 做记号; 记述, 记住. [记]. しる(知る)+す(做)→做让人知道→标记号
- \* 梅染め: (0, 名) 用梅花树皮和树根煮后做染料
- \* 染める: (0, 他下一) 使染上颜色; 沾染上(恶习). [记]. そ(其)+める(む→闷)→变成其他→染上颜色
- \* 染まる: (0, 自五) 染上颜色; 沾染上(恶习).
- \* 染みる/滲みる/沁みる: (0, 自上一) 沙疼; (液体、思想、文化等) 渗透; 铭刻在心. [记]. レ(湿)+み(む→闷)+る(留→长)→湿的东西进入→渗
- \* 幹: (1, 名) 树干; 事情的主要部分. [记]. み(身)+き(木)→树的身体→树干
- \* 茎: (2, 名) 茎. [记]. ク(首)+キ(木)→木颈→茎
- \* 刻む: (0, 他五) 剥碎, 切碎; 雕刻; 铭刻, 牢记. [记]. キ(切る)+ガ(杂)+ム(用力状)→用力切杂→剥碎
- \* 白菜: (3, 0, 名) 白菜
- \* 染料: (3, 名) 染料
- \* 同時: (0, 1, 名) 同时
- \* 紅梅: (0, 名) 红梅
- \* 白梅: (0, 名) 白梅
- \* 梅酒: (0, 名) 梅酒
- \* 色味: (0, 名) 色泽, 色调
- \* 色合い: (0, 名) 色调

\* 表現: (3, 0, 名/他サ) 表达; 表现

\* 表現力: (3, 名) 表达能力

\* 経済力: (3, 名) 经济能力

\* 思考力: (2, 名) 思考能力

\* 思考: (0, 名/他サ) 思考

\* 分析力: (4, 名) 分析能力

\* 分析: (0, 名/他サ) 分析

\* 判断力: (3, 名) 判断力

\* 判断: (1, 名/他サ) 判断

\* 決断力: (3, 名) 决断力

\* 決断: (0, 名/他サ) 决断

\* 色名: (0, 名) 颜色的名字

\* 赤みがかる: (5, 自五) 带有红色

\* 特徵: (0, 名) 特征, 特点

## N3 第 47 课 闭塞时期的颜色(语法)

### 栗梅

江戸時代中期、8代将軍徳川吉宗の時代に流行した、赤みのある栗色です。当時は享保の改革によって贅沢や華美な色が禁止されていました時代。規制と庶民の閉塞感を反映したせいか、あまり派手な色あいではありません。当時発行されていた遊郭の手引書には、遊客の小紋や羽織の色によいと記されています。「梅」の字は梅染めをあらわし、梅の木の幹を刻んで染料としていました。同時に、紅梅の花の色味を表現しているともいわれています。この色にかぎらず、「梅」がつく色名の多くは赤みが加っているのが特徴です。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 栗梅

江戸时代中期，在第8代将军德川吉宗的时代流行着带有红色的栗子颜色。当时由于享保改革，一直禁止奢侈和华美的颜色。也许是因为反映了规制和庶民的闭塞感，所以栗梅不是太花哨的颜色。当时发行的烟花巷指南里记载着栗梅适合游客衣装上的小花纹以及和服外褂的颜色。“梅”字表示梅花染色，将梅花树的树干剁碎后做成染料使用。同时，据说也表现了红梅的花朵的色调。不仅限于这个颜色，特点是带有“梅”字的颜色名称中有很多都带有红色。

### 语法

#### 1. 是不是因为～

～せいか

- \* 解释：せい(所為)+か(不确定)
- \* 意思：是不是因为～
- \* 语气：带来不好的结果
- \* 接续：按照修饰名词的方法
- \* 注意：表示原因且能加か的还有ためか
- \* 扩展：～せいで(带来不好的结果的原因)

#### 1. 批判が高まってきたためか、休みを多く設けるようになった。

- \* 也许是因为批评越发高涨，所以开始多设置了休息日。
- \* 設ける：(3, 他下一)设立，设置。[记]。も(もの→物)+うける(受ける)→接受东西→设
- \* 儲ける：(3, 他下一)赚钱
- \* 儲かる：(3, 自五)(能够)赚到钱
- \* 蕁える：(4, 3, 他下一)储蓄，积蓄。[记]。た(多)+くわえる(加える)→多加→蓄

\* 加える/銜える: (3, 0, 他下一) 把～加, 加上, 增加; 嘴里含着、叼着. [记]. く(方向)+わ(あ→上)+え(挨)+る(留→长)→加上

\* 加わる: (0, 3, 自五) 加, 加上, 增加. [记]. く(方向)+わ(あ→上)+わ(あ→上)+る(留→长)→加上

## 2. よく食べるせいか、最近太ってしまった。

\* 是不是因为能吃, 最近胖了。

## 3. 薬を飲んだせいか、眠くなった。

\* 是不是因为吃药了, 困了。

## 2. 不限于～

～にかぎらず

\* 解释: に(方向/対象)+限らず(限らない→限る)→不限于

\* 接续: 名词+

\* 扩展: ～限り(只要～)/～に限って(只限于)/～が限られている(～有限)/限られた～(有限的～)

## 1. 目上の人と話す場合に限らず、人との付き合いには敬語が欠かせない。

\* 不只限于和尊长说话时, 与人交往上也少不了用敬语。

\* 付き合い: (3, 0, 名) 交往

\* 敬語: (0, 名) 敬语

\* 欠かせない: (4, 形) 不可缺少的

\* 欠かすことができない: 不可缺少的

## 2. この大学はアメリカ人に限らず、世界各国からの留学生を受け入れている。

\* 这个大学不只限于美国人, 而是接受世界各国来的留学生。

\* 各国: (1, 0, 名) 各国

\* 各々: (2, 名/副) 各个. [记]. おの(おのれ→おれ→自/己)→各自

\* 受け入れる: (0, 4, 他下一) 接受(意见、要求); 接收(难民); 采纳(风俗习惯)

## 3. 能に限らず、日本の伝統文化の豊かさや深さにもっと気楽に触れてもらいたい。

\* 不只是能乐, 我们希望能让您轻松地接触到日本传统文化的丰富和深厚。

\* 能: (0, 1, 名) 日本的能乐

\* 伝統: (0, 名) 传统

\* 文化: (1, 名) 文化

\* 传统文化: (5, 名) 传统文化

\* 豊かさ: (4, 0, 名) 丰富

\* 深さ: (2, 1, 名) 深度

\* 深み: (3, 0, 名) 深度

\* 気楽: (0, 形动) 轻松

\* 触れる: (0, 自下一) 接触; 触摸; 触及

\* 折に触れて: (0+0) 一有机会

## N3 第 48 课 闭塞时期的颜色(课文)

### 栗梅

江戸時代中期、8代将軍徳川吉宗の時代に流行した、赤みのある栗色です。当時は享保の改革によって贅沢や華美な色が禁止されていた時代。規制と庶民の閉塞感を反映したせいか、あまり派手な色あいではありません。当時発行されていた遊郭の手引書には、遊客の小紋や羽織の色によいと記されています。「梅」の字は梅染めをあらわし、梅の木の幹を刻んで染料としていました。同時に、紅梅の花の色味を表現しているともいわれています。この色にかぎらず、「梅」がつく色名の多くは赤みがかったり特徴です。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 栗梅

江戸时代中期，在第8代将军德川吉宗的时代流行着带有红色的栗子颜色。当时由于享保改革，一直禁止奢侈和华美的颜色。也许是因为反映了规制和庶民的闭塞感，所以栗梅不是太花哨的颜色。当时发行的烟花巷指南里记载着栗梅适合游客衣装上的小花纹以及和服外褂的颜色。“梅”字表示梅花染色，将梅花树的树干剁碎后做成染料使用。同时，据说也表现了红梅的花朵的色调。不仅限于这个颜色，特点是带有“梅”字的颜色名称中有很多都带有红色。

## N3 第 49 课 寺院和壁画上的银朱色(单词)

### 銀朱

りゅう か すいぎん げんこう すいぎん いおう ま せいせい じんこうがんりょう いろ てんねん りゅう か すいぎん  
硫化水銀の原鉱に水銀と硫黄を混ぜ精製した、人工顔料による色です。天然の硫化水銀のみ  
あかいろ はつしょく とくちょう せいほう こ だいちゅうごく こうあん にほん こふん  
の赤色よりもあざやかな発色が特徴で、製法は古代中国で考案されたといいます。日本には古墳  
じ だいこうはん あすか じ だい ぶつきょうけんちく でんらい しんぶつ いふ すうけい いろ  
時代後半から飛鳥時代にかけて仏教建築とともに伝来し、神仏への畏怖や崇敬をあらわす色として  
て、寺院や壁画、工芸品などに使われました。また、社寺で使われる祭器にも「根来塗り」と呼ばれる朱塗りが施され、少なからず現存しています。現在では、朱墨の色としておなじみです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 银朱

银朱色来自在硫化汞的原矿里加入水银和硫磺搅拌而精制的人工颜料。特点是比只有天然硫化汞的红色更加鲜艳，据说制作方法是古代中国发明的。从古坟时代后半期到飞鸟时代，随着佛教建筑一起传到日本，作为表现对神佛的畏惧和崇敬的颜色，被用于寺院和壁画以及工艺品上。另外，神社和寺院中的祭器里也使用了被称为是“根来漆器”的朱漆，现存数目不少。现在，银朱色作为朱墨的颜色被众所周知。

### 单词

- \* 银朱: (0, 1, 名) 银朱。将汞等加热而制成的红色颜料。
- \* 硫化水银: (4, 名) 硫化汞
- \* 水银: (0, 名) 汞，水银
- \* 原矿: (0, 名) 原矿。粗矿石
- \* 矿石: (0, 名) 矿物
- \* 磁石: (1, 名) 磁铁，吸铁石
- \* 硫磺: (0, 名) 硫磺
- \* 卵黄: (0, 名) 蛋黄
- \* 卵白: (0, 名) 蛋白
- \* 黄身: (0, 名) 蛋黄

- \* 白身: (0, 2, 名)蛋白; 鱼肉或鸡肉等的白肉。
- \* 壳: (2, 名)壳
- \* 皮: (2, 名)皮
- \* 混ぜる/交ぜる: (2, 他下一)把～搅拌. [记]. ま(满→圆)+ぜ(じ→劲)+る(留→长)→使劲划圆圈→搅拌
- \* 混ざる/交ざる: (2, 自五) (同等分量的两种东西的)掺杂, 混杂. [记]. ま(满)+ざ(杂)+る(留→长)→充分夹杂
- \* 混じる/交じる: (2, 自五) (在一种东西中加入少量东西)混杂, 夹杂
- \* 白髪交じり: (4, 名)灰白头发
- \* 白髪: (3, 名)白发
- \* 涙: (1, 名)眼泪. [记]. な(那→长)+み(みず→水)+だ(だら→耷拉)→长水落→眼泪
- \* 涙混じり: (4, 名)流着泪
- \* 精製: (0, 名/他サ)精制, 精炼, 精加工
- \* 清清する: (3, 自サ)清净; 心里痛快
- \* 人工顔料: (5, 名)人工颜料
- \* 人工: (0, 名)人工
- \* 人口: (0, 名)人口
- \* 顔料: (3, 名)颜料
- \* 天然: (0, 名)天然
- \* 自然: (0, 名/形动)自然
- \* 不自然: (2, 名/形动)不自然
- \* 赤色: (0, 名)红色
- \* 鮮やか: (2, 形动)鲜艳; 精彩; 出色. [记]. あ(明)+ざ(杂→小→刚出生)+や(也)+か(加)→鲜
- \* 欺く: (3, 他五)欺骗. [记]. あざ(鮮やか)+むく(向く)→鲜艳的一面冲向对方→其(另一面)+欠(欠缺)→欺

- \* 発色: (0, 名/自サ) 发色, 显色
- \* 特徵: (0, 名) 特征
- \* 製法: (0, 名) 制法
- \* 古代: (1, 名) 古代
- \* 考案: (0, 名/他サ) 思考出方案; 设计, 规划, 研究
- \* 古墳時代: (4, 名) 古坟时代。3世纪中至6世纪末, 以前方后圆坟为主的古坟发达的时代。作为国家的统治形态逐渐形成的时代。
- \* 後半: (0, 名) 后半期
- \* 前半: (0, 名) 前半期
- \* 飛鳥時代: (4, 名) 飞鸟时代。奈良盆地的飞鸟地区建都的时代。以推古朝(592-628)为中心的前后时期。
- \* 佛教建築: (5, 名) 佛教建筑
- \* 佛教: (1, 名) 佛教
- \* 建築: (0, 名/他サ) 建筑
- \* 伝来: (0, 名/自サ) 传来
- \* 神仏: (1, 名) 神和佛
- \* 畏怖: (1, 名/他サ) 畏惧
- \* 崇敬: (0, 名/他サ) 崇敬
- \* 畏敬: (0, 名/他サ) 敬畏
- \* 畏敬の念: (0, 1, 名/他サ) 敬畏的感觉, 敬畏之心
- \* 念: (0, 1, 名) 念头; 念想
- \* 畏敬の念を起こさせる: (0+1+4) 让～产生敬畏感
- \* 畏敬の念を抱く: (0+1+2) 怀有敬畏感
- \* 抱く: (0, 他五) 抱. [记]. だ(大)+<(方向)→抱

- \* 抱く: (2, 他五) 怀有(梦想、不安等). [记]. い(意)+だ(大)+く(方向)→在意识上抱→怀有
- \* 崇める: (3, 他下一) 崇敬, 崇拜. [记]. あ(上)+が(状态)+め(目)+る(留→长)→向上看→崇
- \* 敬う: (3, 他五) 尊重. [记]. う(上)+や(也→是)+ま(满)+う(ふ→状态)→完全在上面→敬仰
- \* 寺院: (1, 名) 寺院
- \* 壁画: (0, 名) 壁画
- \* 工芸品: (0, 名) 工艺品
- \* 社寺: (1, 名) 神社和寺院
- \* 祭器: (1, 名) 祭器。祭祀的用具
- \* 根来塗り: (0, 名) 根来漆器。原指 13 世纪后期至 1544 年居住在和歌山根来寺的僧人制作的日用漆器。一般也指朱漆的器物。
- \* 朱塗り: (0, 名) 涂成朱红色; 朱漆
- \* 塗る: (0, 他五) 涂(擦, 抹); 厚厚地涂抹. [记]. む(浓)+る(留→长)→涂
- \* 施す: (3, 0, 他五) 施与(肥料、装饰、加工、金钱、感情、手段等). [记]. ほど(程→程度高)+こす(越す)→给程度高的东西
- \* 少なからず: (4, 5, 副) 非常多
- \* 現存/現存: (0, 名/自サ) 现存
- \* 朱墨: (0, 名) 朱墨。将辰砂等朱粉用胶熬制成的墨。
- \* 朱墨: (0, 名) 朱墨; 朱和墨
- \* おなじみ: (0, 名) 熟悉, 亲切
- \* 馴染む: (2, 自五) 习惯, 熟悉, 适应. [记]. な(那)+じ(紧)+む(闷)→那么紧→熟
- \* 慣れる: (2, 自下一) 习惯. [记]. なれる(なる→成る的可能形)→能够成为其中一员→习惯
- \* 馴れ馴れしい: (5, 形) 自来熟; 熟不拘礼

## N3 第 50 课 寺院和壁画上的银朱色(语法)

### 銀朱

硫化水銀の原鉱に水銀と硫黃を混ぜ精製した、人工顔料による色です。天然の硫化水銀のみの赤色よりもあざやかな発色が特徴で、製法は古代中国で考案されたといいます。日本には古墳時代後半から飛鳥時代にかけて仏教建築とともに伝来し、神仏への畏怖や崇敬をあらわす色として、寺院や壁画、工芸品などに使われました。また、社寺で使われる祭器にも「根来塗り」と呼ばれる朱塗りが施され、少なからず現存しています。現在では、朱墨の色としておなじみです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 银朱

银朱色来自在硫化汞的原矿里加入水银和硫磺搅拌而精制的人工颜料。特点是比只有天然硫化汞的红色更加鲜艳，据说制作方法是古代中国发明的。从古坟时代后半期到飞鸟时代，随着佛教建筑一起传到日本，作为表现对神佛的畏惧和崇敬的颜色，被用于寺院和壁画以及工艺品上。另外，神社和寺院中使用的祭器里也使用了被称为是“根来漆器”的朱漆，现存数目不少。现在，银朱色作为朱墨的颜色被众所周知。

### 语法

#### 1. 只是～

～のみ

\* 解释：のみ→此の身→我的身体→尊他自谦→小、只

\* 意思：只～

\* 语气：正式

\* 词性：助词

#### 1. この奖学金はアジアの留学生のみ申請できる。

\* 这个奖学金只有亚洲的留学生可以申请。

\* 奖学金：(0, 名)奖学金

\* アジア：(1, 名/Asia)亚洲

\* 留学生：(4, 名)留学生

\* 申请：(0, 名/他サ)申请

#### 2. 支払いは銀行振込のみとなっています。

\* 支付只能通过银行转账。

\* 支払い: (0, 名) 支付

\* 支払う: (3, 他五) 支付

\* 振込: (0, 名) 转账

\* 振込む: (3, 他五) 转账

\* 銀行振込: (5, 名) 银行转账

### 3. 学歴のみが幅を利かす時代は過ぎた。

\* 已经不是只有学历能说话的时代了。

\* 学歴: (0, 名) 学历

\* 幅: (0, 名) 宽, 宽度, 幅度

\* 利く: (0, 自五) 灵活; 奏效, 有效

\* 利かせる: (0, 他下一) 让～起作用; 利く的使役形

\* 利かす: (0, 他五) 让～起作用

\* 時代: (0, 名) 时代

\* 過ぎる: (2, 自上一) 过, 经过, 通过, 超过, 过度, 过分

\* 時代遅れ: (4, 名) 过时

### 2. 和～一起、和～同时、随着～

～とともに

\* 解释: と(和)+共+に(副词)

\* 接续: 名词+; 动词的简体+

### 1. 情報が爆発する時代では、人々は情報を受信するとともに気力と注意力も消耗し尽くされている。

\* 在信息爆炸的时代里, 接收信息的同时, 我们的精力和注意力也被消耗尽。

\* 情報: (0, 名) 信息

\* 爆発: (0, 名/自サ) 爆炸; 爆发

\* 人々: (2, 名) 人们; 我们

\* 受信: (0, 名/他サ) 接收(信息)

\* 气力: (0, 1, 名) 气力; 精力

\* 注意力: (3, 名) 注意力

\* 消耗: (0, 名/他サ) 消耗

\* 尽くす: (2, 他五) 尽, 竭尽

## 2. 自ら進んで情報を獲得するとともに、情報をしつかり見極める力と理解する力も問われる。

\* 主动获取信息的同时，还需要分辨信息的能力和领悟信息的能力。

\* 自ら: (1, 副) 亲自; 自发. [记]. み(身)+ず(自)+から(从)→从自身开始

\* 自ら進んで: (1+0, 副) 积极主动地

\* 獲得: (0, 名/他サ) 获得

\* しつかり: (3, 拟态) 结实, 踏实, 扎实, 坚实. [记]. し(实)+か(加)

\* 見極める: (4, 0, 他下一) 擦亮双眼; 看透; 鉴别. [记]. 見+極める(きわ→切完)→看到极致

\* 力: (3, 名) 力

\* 理解: (1, 名/他サ) 理解, 领悟

\* 理解力: (2, 名) 理解能力

\* 問う: (0, 他五) 问; 追究

\* 問われる: (0, 自下一) 被要求; 需要; 問う的被动式

## 3. 考え方ややり方が時代とともに変わっていくのは大事だけど、信念を貫くのはもっと大事だ

と思う。

\* 想法和做法与时俱进很重要，但是我觉得贯彻信念更重要。

\* 考え方: (0, 名) 想法

\* やり方: (0, 名) 做法

\* 変わる: (0, 自五) 变, 变化, 改变

\* 信念: (1, 名) 信念

\* 贯く： (3, 他五) 贯穿， 贯彻， 贯通. [记]. つ(て→手)+ら(拉)+ぬく(拔く→到底)→用手拉到底→贯穿

## N3 第 51 课 寺院和壁画上的银朱色(课文)

### 銀朱

硫化水銀の原鉱に水銀と硫黃を混ぜ精製した、人工顔料による色です。天然の硫化水銀のみの赤色よりもあざやかな発色が特徴で、製法は古代中国で考案されたといいます。日本には古墳時代後半から飛鳥時代にかけて仏教建築とともに伝来し、神仏への畏怖や崇敬をあらわす色として、寺院や壁画、工芸品などに使われました。また、社寺で使われる祭器にも「根来塗り」と呼ばれる朱塗りが施され、少なからず現存しています。現在では、朱墨の色としておなじみです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

### 銀朱

银朱色来自在硫化汞的原矿里加入水银和硫磺搅拌而精制的人工颜料。特点是比只有天然硫化汞的红色更加鲜艳，据说制作方法是古代中国发明的。从古坟时代后半期到飞鸟时代，随着佛教建筑一起传到日本，作为表现对神佛的畏惧和崇敬的颜色，被用于寺院和壁画以及工艺品上。另外，神社和寺院中的祭器里也使用了被称为是“根来漆器”的朱漆，现存数目不少。现在，银朱色作为朱墨的颜色被众所周知。

## N3 第 52 课热乎乎的奶茶(单词)

べにとび の もの  
紅鳶の飲み物

ミルクティー

濃いめに淹れた紅茶に牛乳をスッとひとたらし。赤褐色の紅茶と白い牛乳が混ざりあう  
なかから、紅鳶が生まれてきます。手足がかじかむような寒さの外から帰ってきたら、やさしくあ  
たたかい飲み物でほっと一息。こういった時間は冬だからこそ。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

奶茶

往沏得浓些的红茶里稍微加入一点儿牛奶。红褐色的红茶和白色的牛奶相互混合后产生出了红鳶色。从手脚冻僵的寒冷的外面归来，喝一杯温暖的饮料放松一下。这种时间正因为是冬天才有的。

单词

\*紅鳶: (0, 名) 红鳶色

\*口紅: (0, 名) 口红

\*紅: (0, 名) 鲜红色

\*鳶: (1, 名) 鸳

\*廊下: (0, 名) 走廊

\*廊下鳶: (4, 名) 无所事事地在走廊里来回走的人

\*うろうろ: (1, 拟态) (漫无目的地) 徘徊. [记]. う(无)+ろ(落)

\*飲み物: (2, 3, 名) 饮料

\*食べ物: (4, 2, 3, 名) 食物

\*飲食: (0, 1, 名/自他サ) 饮食

\*飲食店: (4, 名) 饮食店

\*濃いめ: (0, 名) 稍微浓

\*薄め: (0, 名) 稍微淡

\*淹れる: (0, 他下一) 沏

\*紅茶: (0, 名)红茶

\*牛乳: (0, 名)牛奶

\*スッと: (1, 0, 拟态) (动作)轻快; (心情)舒畅. [记]. す(丝→轻、清); す(嗖→快)

\*ひとたらし: (3, 名)滴一滴

\*垂らす: (2, 他五)使垂下. [记]. た(躺)+ら(拉)+す(做)→垂

\*垂れる: (2, 自他下一)耷拉, 下垂, 悬垂. [记]. た(躺)+れ(来)+る(留→长)→躺下来→垂

\*赤褐色: (3, 名)赤褐色

\*混ざり合う: (4, 自五)混合在一起

\*生まれる: (0, 自下一)出生; 产生出

\*手足: (1, 名)手脚

\*手足の先: (1+0, 名)手脚尖

\*凍傷: (0, 名/自サ)冻伤

\*凍む: (0, 自五)冻僵

\*凍える: (0, 自下一)冻僵

\*凍る: (0, 自五)冻上, 冻住, 结冰. [记]. こ(固)+おる(折る→变)→变成固体→冻

\*氷: (0, 名)冰

\*凍らせる: (4, 他下一)把~冻上

\*冷凍: (0, 名/他サ)冷冻

\*冷藏: (0, 名/他サ)冷藏

\*冷凍庫: (3, 名)冰柜

\*冷藏庫: (3, 名)冰箱

\*寒冷: (1, 名)寒冷

\*炎热: (1, 名)炎热

\*凌ぐ: (2, 0, 他五)战胜(寒暑、困难等); 超过(人等). [记]. し(胜)+の(な→长)+く(方向)+浊音(拖泥带水→有关)→凌驾

\*扱く： (2, 他五) 严格训练. [记]. し(强)+ご(过)+く(方向)→严格

\*扱う： (0, 3, 他五) 使用, 处理, 掌管, 经营, 对待

\*外： (1, 名) 外面. [记]. そ(其)+と(ところ→地方)→那地方→外面

\*余所： (2, 1, 名) 别处; 别人家

\*余所者： (0, 名) 外来人, 外乡人; 外人

\*余所者 扱い： (5, 名/他サ) 当外人对待

\*よそよそしい： (5, 形) 疏远的, 疏离的

\*やさしい： (3, 形) 温柔的, 和蔼的. [记]. や(咿呀学语→小)+さ(轻)+し(像)→小, 轻→温柔

\*ほっと： (0, 1, 拟声) 松了一口气. [记]. ほ(放)

\*ホット： (1, 名/hot coffee) 热咖啡

\*一息： (2, 名) 喘口气

\*一息を入れる： (2+0) 喘口气

\*一息を入れさせてください： 让我喘口气

## N3 第 53 课 热乎乎的奶茶(语法)

べにとび の もの  
紅鳶の飲み物

ミルクティー

濃いめに淹れた紅茶に牛乳をスッとひとたらし。赤褐色の紅茶と白い牛乳が混ざりあう  
なかから、紅鳶が生まれてきます。手足がかじかむような寒さの外から帰ってきたら、やさしくあ  
たたかい飲み物でほっと一息。こういった時間は冬だからこそ。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

奶茶

往沏得浓些的红茶里稍微加入一点儿牛奶。红褐色的红茶和白色的牛奶相互混合后产生出了红鳶色。从手脚冻僵的寒冷的外面归来，喝一杯温暖的饮料放松一下。这种时间正因为是冬天才有的。

语法

### 1. 正是因为～

～からこそ

- \* 解释：から(因为)+こそ(正是)
- \* 词性：から是接续助词
- \* 扩展：一ばこそ(语气正式生硬)

#### 1. 踏み出すからこそチャンスがやってくる。

\* 正是因为迈出了(一步)，机会才能来。

\* 踏み出す：(3, 他五)踏出，迈出

\* 踏む：(0, 他五)踏，踩；走上(道路). [记]. ふ(阜→封)+む(闷)→踩，踏

\* チャンス：(1, 名/chance)机会

\* やってくる：(4, 自カ)走来，到来，向这边靠近

#### 2. 一緒にいられる時間が少ないからこそ、二人の絆を大切にする。

\* 正是因为能在一起的时间少，才珍惜两个人的关系。

\* 絆：(0, 名)纽带. [记]. き(氣)+ずな(づな→綱)→心里的粗绳子→纽带

\* 綱：(2, 名)粗绳子，绳索；命脉，依靠. [记]. つ(つよい→強い)+な(ながい→長い)→很强很长→粗绳子

#### 3. 苦しい恋だからこそ学べることが多いのだと言えます。

\*可以说正是因为是痛苦的恋情，学到的才更多。

\* 苦しい: (3, 形) 痛苦的; 难受的; 烦恼的

\* 恋: (1, 名) 恋, 恋情

\* 学ぶ: (0, 2, 他五) (自发地) 学习. [记]. まな(真似→模仿)+ぶ(并列)→模仿后与其并列→学习

## 2. 只有～才有

～ならでは

\* 解释: なら(如果)+で(程度/状态)+は(强调)

\* 接续: 名词+

## 1. 砂を使って波の意匠を表現する繊細な技術は日本人ならではのものです。

\* 使用砂子来表达波浪的样子, 这种细腻的技术只有日本人才会有。

\* 砂: (0, 名) 砂子. [记]. す(砂)+な(なり→「也」→是)→砂子

\* 波: (2, 名) 波, 波浪. [记]. な(那→长)+み(水)→长水→波

\* 意匠: (0, 名) 构思; (デザイン) 式样, 感觉, 图案

\* 纤细: (0, 名/形动) 纤细; 细腻

\* 技术: (1, 名) 技术

## 2. 侘び寂びのある 趣は日本庭園ならでは。

\* 有 wabi、sabi 的感觉是日本庭园特有的。

\* 侘び: (0, 2, 名) 闲寂, 寂静

\* 寂び: (2, 名) 闲寂, 寂静

\* 趣: (0, 名) 情趣; 趣味; 中心思想. [记]. おも(面)+むき(向き)→面向

## 3. 女性ならではのアイデアを取り入れたいと考える企業が増えている。

\* 越来越多的企业想采纳女性特有的想法。

\* アイデア: (2, 名/idea) 主意, 想法

\* 取り入れる: (4, 0, 他下一) 拿进来; 吸取或采纳(意见、意向、文化等); 引进(技术)

\* 企业: (1, 名) 企业

## N3 第 54 课 热乎乎的奶茶(课文)

べにとび の もの  
紅鳶の飲み物

ミルクティー

濃いめに淹れた紅茶に牛乳をスッとひとたらし。赤褐色の紅茶と白い牛乳が混ざりあう  
なかから、紅鳶が生まれてきます。手足がかじかむような寒さの外から帰ってきたら、やさしくあ  
たたかい飲み物でほっと一息。こういった時間は冬だからこそ。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

奶茶

往沏得浓些的红茶里稍微加入一点儿牛奶。红褐色的红茶和白色的牛奶相互混合后产生出了红鳶色。从手脚冻僵的寒冷的外面归来，喝一杯温暖的饮料放松一下。这种时间正因为是冬天才有的。

## N3 第 55 课 春眠不觉晓(单词)

しゅんみんあかつき おぼ  
春 眠 晓 を 覚えず

このことばは「朝が暖かくなり、つい寝坊してしまった」というニュアンスでいわれますが、本  
とう ちが  
当はちょっと違うとか。

もともとは昔の中国、唐の時代の孟浩然という詩人が書いた詩の一節で、「夜明けが早く、  
いつのまにか朝が訪れるなんて、つくづく春だなあ」という意味。長い冬を越え、朝の訪れが早  
まる春。めざめると鳥が鳴き、日が降り注ぐ、陽気に包まれた季節のよろこびに満ちています。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

### 春眠不觉晓

据说这句话的语气是“早晨变得很温暖，终于没忍住睡了懒觉”，其实稍有不同。

这是过去中国唐代诗人孟浩然的诗里的一段，意思是“天亮得早了，不知不觉早晨来临了，真是春天了”。度过了漫长的冬季，春天的早晨来得早了。一觉睡醒，小鸟啼鸣、阳光普照，在被阳气包围的季节里，充满了喜悦。

### 单词

\* 春 眠：(0, 名)春眠

\* 晓：(0, 名)佛晓，黎明。[记]。あ(明)+か(加/火)+つき(付き/時)

\* 覚える：(3, 他下一)记忆，背诵；感觉。[记]。お(大)+ぼ(博)+え(挨)+る(留)→博学→记忆

\* 春 眠 晓 を 覚えず：春眠不觉晓

\* 寝坊：(0, 名/形动/自サ)睡懒觉(的人)

\* ニュアンス：(1, 名/nuance 法语)微妙的感觉，语气

\* 口 調：(0, 名)语气

\* 調子：(0, 名)状态，情形。調子に乗る(0+0)：蹬鼻子上脸

\* お調子者：(0, 名)随意

\* 天邪鬼：(3, 名)傲娇

\* もともと：(0, 副)原来，本来

\* 詩人：(0, 名)诗人

\* 詩：(0, 名)诗

- \* 一節: (0, 4, 名) (诗、文章、音乐等)一个段落
- \* 節: (2, 名) 节, 关节; 段落; 点; 曲调. [记]. ふし(缝隙)→带缝隙的东西→节
- \* 節目: (3, 名) 阶段. [记]. ふし(缝隙→有缝隙的东西→节)
- \* 節穴: (0, 名) 木板上的孔
- \* 穴: (2, 名) 穴, 孔. [记]. あ(开く)+な(也→是)→敞开的→穴
- \* 夜明け: (3, 名) 天明
- \* 夜が明ける: (1+0) 天亮
- \* 日が暮れる: (0+0) 天黑
- \* 日暮れ: (0, 名) 天黑
- \* いつの間にか: (4) 不知道什么时候; 不知不觉
- \* 知らず知らずのうちに: (4) 不知不觉中
- \* つくづく: (3, 2, 副) 深切地
- \* せつせつ: (0, 副) 深切地
- \* しみじみ: (3, 副) 深切地
- \* ひしひし: (2, 1, 副) 深切地
- \* 意味: (1, 名) 意思; 意义
- \* 意味合い: (0, 3, 名) 意思; 理由
- \* 早める: (3, 他下一) 使变早; 使变快
- \* 早まる: (3, 自五) 变早; 变快
- \* 目覚める: (3, 自下一) 睡醒; 觉悟, 醒悟; 认识到. [记]. 目+覚める→醒
- \* 目覚ます: (3, 他五) 叫醒; 使觉醒
- \* 目覚まし: (2, 名) 叫醒; 闹钟
- \* 目覚まし時計: (5, 名) 闹钟
- \* 目覚ましい: (4, 形) 显著的
- \* 鳥: (0, 名) 鸟. [记]. と(兔)+り(る→留→长)→像兔子一样→跳, 飞→鸟

- \* 小鳥: (0, 名) 小鸟
- \* 鳴く: (0, 自五) 鸣叫. [记]. な(那→长)+く(哭)→(哭)叫
- \* 轉る: (3, 自五) (小鸟) 吱吱细语; (人) 叽叽喳喳. [记]. さ(轻)+え(挨)+づ(吱)+る(留)→吱吱
- \* 降り注ぐ: (4, 自五) 普照
- \* 注ぐ: (0, 2, 自他五) 注入; 浇灌; 集中. [记]. そ(其)+そ(其)+く(方向)+浊音(水)→往那加水→注
- \* 陽気: (0, 名/形动) 阳气; 阳光
- \* 陰氣: (0, 名/形动) 阴气; 阴郁
- \* 包む: (2, 他五) 包, 包裹; 包围. [记]. つ(次)+つ(次)+む(闷)→一次一次地关闭→包裹
- \* 包む: (2, 他五) (卷入式的)包, 裹. [记]. くる(くるくる→卷)+む(闷)→包
- \* 捆る: (0, 他五) 捆住; 绑上; 扎起头发; 总结, 概括. [记]. く(括)+く(括)+る(留→长)→捆住
- \* 締め括る: (0, 4, 他五) 系紧; 总结; 监督
- \* 締め括り: (0, 名) 最后总结, 结束
- \* 満ちる: (2, 自下一) 满, 充满; 圆. [记]. み(身)+ち(齐)+る(留→长)→东西齐→满
- \* 満たす: (2, 他五) 使满足; 填满. [记]. み(身)+た(多)+す(做)→东西多→使充满

## N3 第 56 课 春眠不觉晓(语法)

### 春眠 晓 を覚えず

このことばは「朝が暖かくなり、つい寝坊してしまった」というニュアンスでいわれますが、本

当はちょっと違うとか。

もともとは昔の中国、唐の時代の孟浩然という詩人が書いた詩の一節で、「夜明けが早く、いつのまにか朝が訪れるなんて、つくづく春だなあ」という意味。長い冬を越え、朝の訪れが早まる春。めざめると鳥が鳴き、日が降り注ぐ、陽気に包まれた季節のよろこびに満ちています。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

### 春眠不觉晓

据说这句话的语气是“早晨变得很温暖，终于没忍住睡了懒觉”，其实稍有不同。

这是过去中国唐代诗人孟浩然的诗里的一段，意思是“天亮得早了，不知不觉早晨来临了，真是春天了”。度过了漫长的冬季，春天的早晨来得早了。一觉睡醒，小鸟啼鸣、阳光普照，在被阳气包围的季节里，充满了喜悦。

### 语法

#### 1. 不～

～ず、～ずに

\* 解释：ず(否定/副词)はないでの古语

\* 区别：如果单独使用ず，后面需要添加逗号。ずに的是连接前后两句话的助词，可以翻译成“而”

\* 变形：按照未然形的变形规律：五段动词的结尾变到あ段+ず；一段动词去掉结尾る+ず；する变成せ+ず；来る变成こす。

#### 1. その個人志向的な考え方をきちんと対峙できずにいる。

\* 我招架不住那种个人主义的想法。

\* 個人：(1, 名)个人

\* 志向：(0, 名/他サ)志向

\* 個人志向的：(0, 形动)个人主义的

\* きちんと：(2, 拟态)工工整整；整整齐齐；规规矩矩；好好。[记]。き(切る→完全)+ち(齐)→齐

\* 対峙：(1, 0, 名/自サ)对峙

#### 2. 口元を動かさずに喉で言葉を作る。

\* 不动嘴而是在喉咙构音。

\* 口元: (0, 名)嘴边; 嘴型; 出入口

\* 動かす: (3, 他五)让～动

\* のど 喉: (1, 名)嗓子, 咽喉. [记]. の(飲む)+と(地方)+浊音(拖泥带水→水)→喝水的地方→嗓子

### 3. 雨が降らず、作物が全くとれない国が多い。

\* 有很多国家不下雨而且是完全不长农作物。

\* 作物: (2, 名)农作物

\* 全く: (0, 副)完全. [记]. ま(满)+促音(加强)+た(多)+く(副词)→完全

\* とれる: (2, 自下一)能取来; 掉落; 生长; 能捕获

\* 国: (0, 名)国家; 家乡

### 4. こせこせせず、もう少し精神の豊かさをもって学問を見詰め直してもらいたい。

\* 我希望他们不要小气，要再拥有精神上的富足去重新审视学问。

\* こせこせ: (1, 拟态)小气

\* 精神: (0, 名)精神

\* 豊かさ: (0, 名)丰富, 富足

\* 学問: (0, 名)学问

\* 見詰める: (0, 3, 他下一)注视; 审视. [记]. 見+詰める(用力塞)→使劲看

\* 見詰め直す: (5, 他五)重新审视

## 2. 三个相近语法

～なんか、～なんて、なんと～

\* 解释: ～なんか(などの口语/语气助词)轻视/自谦

～なんて(语气助词)轻视/惊讶

なんと～(副词)惊讶/感叹

\* 注意: 1. ～なんて可以前后接名词, 即可以代替という, 而～なんか不行, 要说なんかの+名词。

2. なんか～(不知道为什么总觉得～)和～なんか(语气助词)注意区别。

### 1. いいえ、わたしなんか…

\* 我不行。

### 2. 占いなんかに頼ってはいけない。

\* 不能依赖占卜。

\* 占い: (0, 3, 名) 占卜

\* 占う: (3, 他五) 占卜. [记]. うら(裏)+な(那)+う(ふ→風→状态)→里面的状态→占卜

\* 賴る: (2, 自五) 依赖, 依靠. [记]. た(他)+よ(悠)+る(留→长)→悠到他那儿→靠

\* 賴り: (1, 名) 依赖, 依靠; 门路, 关系

### 3. 絶対に儲かるなんて話は怪しい。

\* 说绝对能赚到钱可不靠谱。

\* 絶対: (0, 名/形动) 绝对

\* 儲ける: (3, 他下一) 赚钱. [记]. も(もの→物)+うける(受ける)→接受东西→赚钱

\* 儲かる: (3, 自五) 能够赚到钱. [记]. も(もの→物)+うかる(受かる)→接受到东西→赚

\* 怪しい: (3, 0, 形) (行为举止) 可疑的; (说话办事) 不靠谱的. [记]. あや(啊呀→吃惊)+し(像)→怪

### 4. そこの社長はなんと女性！

\* 那里的社长竟然是女性。

### 5. なんと素敵なライフスタイルだろう！

\* 这是多么优雅的生活方式啊。

\* 素敵: (0, 形动) nice

\* ライフスタイル: (5, 名/lifestyle) 生活方式

\* 生活様式: (5, 名) 生活方式

## N3 第 57 课 春眠不觉晓(课文)

### しゅんみんあかつき おぼ 春 眠 晓 を覚えず

このことばは「朝が暖かくなり、つい寝坊してしまった」というニュアンスでいわれますが、本当はちょっと違うとか。

もともとは昔の中国、唐の時代の孟浩然という詩人が書いた詩の一節で、「夜明けが早く、いつのまにか朝が訪れるなんて、つくづく春だなあ」という意味。長い冬を越え、朝の訪れがまる春。めざめると鳥が鳴き、日が降り注ぐ、陽気に包まれた季節のよろこびに満ちています。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

### 春眠不觉晓

据说这句话的语气是“早晨变得很温暖，终于没忍住睡了懒觉”，其实稍有不同。

这是过去中国唐代的诗人孟浩然的诗里的一段，意思是“天亮得早了，不知不觉早晨来临了，真是春天了”。度过了漫长的冬季，春天的早晨来得早了。一觉睡醒，小鸟啼鸣、阳光普照，在被阳气包围的季节里，充满了喜悦。

## N3 第 58 课 解释时的发现(单词)

ちい 小さな子供たちは見るもの み さわるもの ふしぎ なんでも不思議がります。

「あれなあに?」「なぜ?」「どうして?」の連発で大人たちをこまらせます。いざ説明してやろう

おも と思って、どうしてもうまく説明できず、自分ではわかっていると思っていたことが、じつはさつ  
ぱりわかつていなかった、と発見させられることがあります。

(大野栄一『数学なんてこわくない』による)

小孩子对看的东西和摸的东西全都感到好奇。

“这个是什么?”“为什么?”“怎么回事?”一个接一个地问，搞得大人很头疼。想要给他们解释，结果怎么也解释不好，有时候会发现自己觉得明白的事其实根本不明白。

### 单词

\* 小さな: (1, 形动) 小的, 幼小的

\* 幼い: (3, 形) 幼小的; 幼稚的

\* 幼稚: (0, 名/形动) 幼稚

\* 甘い: (0, 名/形) 甜的; 幼稚的; 放任不管的

\* 幼馴染: (4, 名) 发小, 从小一起长大的人

\* 馴染む: (2, 自五) 熟悉, 亲密; 融合

\* ナイーブ: (2, 形动/native) 纯真, 纯朴

\* 子供っぽい: (5, 形) 幼稚的, 孩子气的

\* 未熟: (0, 名/形动) 没熟透; (学问/技艺/人格等) 不成熟

\* 世間知らず: (4, 名) 不谙世故; 经验少

\* 世間: (1, 名) 世间; 社会; 世道

\* 世間話: (4, 名) 聊天

\* 不慣れ: (1, 名/形动) 不习惯; 不熟练

\* 不思議: (0, 名/形动) 不可思议

\* 好奇心: (3, 名) 好奇心

- \* 旺盛: (0, 名/形动) 旺盛
- \* 可笑しい: (3, 形) 可笑的; 奇怪的
- \* 変: (1, 形动) 奇怪
- \* 妙: (1, 名/形动) 妙; 奇怪, 不可思议
- \* 奇妙: (1, 形动) 奇妙, 不可思议
- \* 微妙: (0, 形动) 微妙; 不好说
- \* なぜ: (1, 副) 为什么
- \* 謎: (0, 名) 谜
- \* 謎々: (0, 名) 谜团重重
- \* 疊: (0, 名) 草丛, 树丛[记]. や(野)+ぶ(布满)
- \* 疊の中: (4, 名) 搞不清
- \* 疊から棒: (3+0, 名) 没头没脑, 冷不丁
- \* 疊医者: (0, 名) (“野巫医者”) 庸医
- \* 医者: (0, 名) 医生
- \* 疊医者の玄関: (0+1, 名) 越是能力低的人越装门面; 金玉其外败絮其中
- \* 玄関: (1, 名) 玄关
- \* 連発: (0, 名/自他サ) 连发; 连续说
- \* 連なる: (3, 自五) 排成一列; (山脉) 连绵; 列席. [记]. つ(て→手)+ら(拉)+なる(成る)→拉长→连
- \* 連ねる: (3, 他下一) 使排成一列; 使列席
- \* さっぱり: (3, 拟态) (房屋、着装等) 整洁; (味道) 清淡(而让人痛快); (性格、心情等) 爽快; 一点点儿都(不懂等). [记]. さ(飒→清)+ぱ(啪→痛快)
- \* あっさり: (3, 拟态) 清淡; 轻易. [记]. あさ(浅)
- \* すっきり: (3, 拟态) (味道) 清爽; (心情) 痛快. [记]. す(丝→清)+きり(切り→完全)→清澈
- \* すっかり: (3, 拟态) 完全. [记]. す(所)+か(加)→所有
- \* 発見: (0, 名/他サ) 发现
- \* 発作: (0, 名) (病) 发作

\* 心臟発作: (5, 名) 心脏病发作

\* 発足: (0, 名/自サ) 起步

\* 発端: (0, 名) (事件的) 发端, 开端

## N3 第 59 课 解释时的发现(语法)

ちい 小さな子供たちは見るもの み さわるもの なんでも不思議がります。

「あれなあに?」「なぜ?」「どうして?」の連発で大人たちをこまらせます。いざ説明してやろう

おも と思って、どうしてもうまく説明できず、自分ではわかっていると思っていたことが、じつはさつ  
ぱりわかつていなかった、と発見させられることがあります。

(大野栄一『数学なんてこわくない』による)

小孩子对看的东西和摸的东西全都感到好奇。

“这个是什么？”“为什么？”“怎么回事？”一个接一个地问，搞得大人很头疼。想要给他们解释，结果怎么也解释不好，有时候会发现自己觉得明白的事其实根本不明白。

### 语法

#### 1. 表示催促和不解的感叹词

いざ～

\* 解释：さあ～的古语

\* 意思：催促；不明白

\* 搭配：いざ～となると(一到～的时候)、いざ～に(と)なって(一到～的时候)、  
いざという時(关键时刻/紧急时刻)、名词+ならいざ知らず(如果是～的话不知道会怎么样)

1. いざ買うとなるとなかなか決心がつかない。

\* 一到买的时候就下不了决心。

\* 決心：(1, 名/自他サ) 决心；下决心

2. いざとなると及び腰になる。

\* 一到关键时刻就掉链子。

\* 及び腰：(0, 名) 暧昧的态度，没有自信而惴惴不安的样子

3. いざという時に備える、転ばぬ先の杖、といった言葉は人生の知恵を教えてくれる。

\* 以防万一，未雨绸缪，这类成语教给我们人生的智慧。

\* 転ぶ：(0, 自五) 跌倒；滚动。[记]。ころ(滚动)+ぶ(并列)→滚动

\* 転ばぬ：(3, 0, 形) 不跌倒的

\* 杖：(1, 名) 拐杖。[记]。つ(刺)+え(挨)→刺出去的东西→拐杖

\* 松葉杖：(4, 名) 拐杖

\* 人生: (1, 名) 人生

\* 知恵: (2, 名) 智慧

#### 4. 新人ならいざ知らず、ベテランがこんなミスを犯したなんて…。

\* 如果是新人的话不知道会怎么样，但是有经验的人犯了这样的错，真是……。

\* 新人: (0, 名) 新人

\* ベテラン: (0, 名/veteran) 有经验的人，资深

\* ミス: (1, 名/自他サ/miss) 错误

\* 間違まちがい: (0, 名) 错误

\* 過あやまち: (3, 0, 名) 过错，失误，过失。[记]. あや(啊呀→吃惊)+ま(む→嗯)+ち(其)→惊讶后悔状

\* 犯おかす: (2, 0, 他五) 违反，犯法；侵犯。[记]. お(根据嘴型→圆→驼背→后背)+か(加)+す(做)→在背后去做→侵犯

## 2. 表示语气的语法

### 一てやる

\* 解释: て(动词的中顿)+やる(干/给)

\* 语气: 强烈的意志；施舍

\* 使用: 1. 吵架打架等时使用  
2. 上下关系非常明显时，上对下使用

#### 1. 訴うつたえてやる！

\* 我要告你！

\* 訴うつたえる: (4, 3, 他下一) 诉说；诉讼。[记]. う(鸣)+た(他)+え(挨)+る(留→长)→呜呜地哭着说给他→诉说

#### 2. この仕事を妹しごとにやらせてやってくれませんか？

\* 能不能把这个工作让我妹妹做？

## N3 第 60 课 解释时的发现(课文)

ちい 小さな子供たちは見るもの み さわるもの ふしぎ なんでも不思議がります。

「あれなあに?」「なぜ?」「どうして?」の連発で大人たちをこまらせます。いざ説明してやろう

おも と思つて、どうしてもうまく説明できず、自分ではわかっていると思つていたことが、じつはさつ  
ぱりわかつていなかつた、と発見させられることがあります。

(大野栄一『数学なんてこわくない』による)

小孩子对看的东西和摸的东西全都感到好奇。

“这个是什么？”“为什么？”“怎么回事？”一个接一个地问，搞得大人很头疼。想要给他们解释，结果怎么也解释不好，有时候会发现自己觉得明白的事其实根本不明白。